



えびの市地域公共交通総合連携計画

(素 案)

平成24年3月

 え び の 市

— 目 次 —

1. 計画策定の背景と目的	1
2. えびの市の現況	2
2-1. 社会情勢	2
2-2. 公共交通の現況	9
3. 公共交通利用実態・ニーズ調査	14
3-1. 市民アンケート調査	14
3-2. グループヒアリング調査	48
3-3. 事業者ヒアリング調査	51
4. 公共交通に関する問題点の整理	53
4-1. えびの市の公共交通に関する問題点	53
4-2. えびの市における望ましい公共交通体系のイメージ	54
5. 計画	55
5-1. 計画の区域	55
5-2. 計画の期間	55
5-3. 計画の基本方針	56
5-4. 計画の目標	60
5-5. 具体的な事業内容	61
5-6. 事業の実施関係者およびスケジュール	64

1. 計画策定の背景と目的

現在、えびの市では、宮崎交通㈱の路線バスや JR などの公共交通が運行されていますが、自家用車の普及などにもとない利用者は減少しており、今後の存続が懸念される状況となっています。

一方で、本市は県内でも高齢化が進行している状況にあり、今後、自家用車を持たない高齢者などの移動手段として、公共交通の重要性は高まっていくことが予想されます。

特に、市内を走るバスや鉄道などの公共交通は、国道221号の沿線に集まっていることから、市内には公共交通の路線が無い地域(交通空白地)が広がっており、これらの地域における移動手段の確保が大きな課題となっています。

しかし、市の財政状況は大変厳しいものとなっていることから、これら公共交通の問題に対して、大規模な対策が難しい状況となっています。

これらの状況を踏まえ、本市では、市民の皆様の移動の状況や公共交通へのニーズに応じた、便利で効率的な公共交通のあり方を定めるため、「えびの市地域公共交通総合連携計画」を策定することとしました。

2. えびの市の現況

2-1. 社会情勢

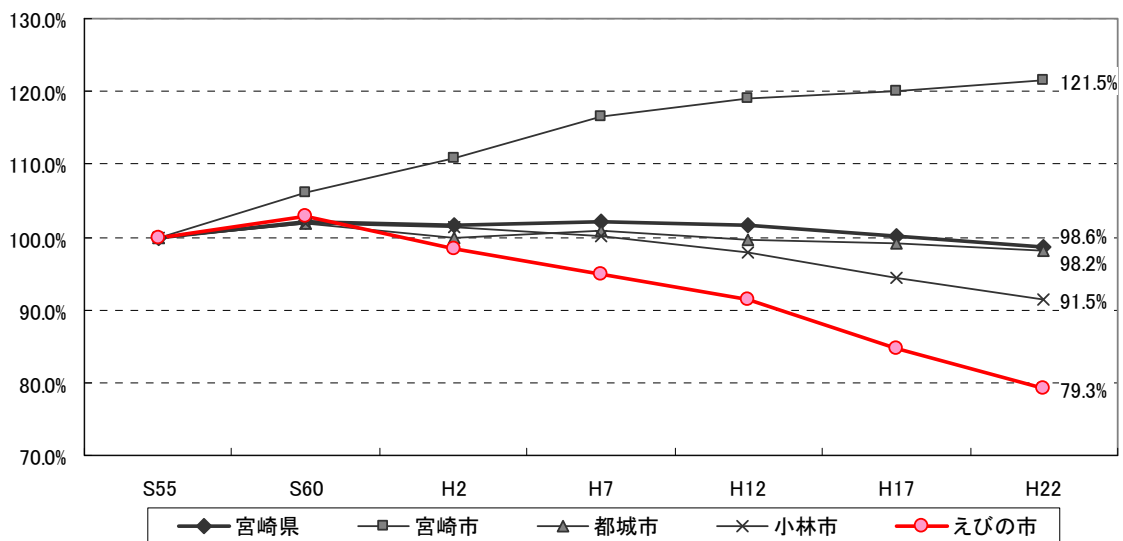
(1) 地勢

- ・本市は宮崎県・鹿児島県・熊本県の三県の境界にあり、北から北東にかけて熊本県人吉市、球磨郡錦町、東に宮崎県小林市、南から西にかけては鹿児島県霧島市、始良郡湧水町、伊佐市に接しています。
- ・交通の面では、九州縦貫自動車道と宮崎自動車道が交差する要衝となっており、高速道路が本市を中心に、宮崎・鹿児島・熊本の三方へ伸びています。
- ・面積は283.0k m²で、北・南・西の三方を山に囲まれた緑の多い土地です。

(2) 人口

①人口推移

- ・えびの市の人口は21,606人(平成22年国勢調査)で、周辺自治体における人口推移を比べた場合、えびの市の人口減少割合は高く、昭和55年時の人口から約21%(5,640人)減少しています。



区分	項目	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22
宮崎県	人口(人)	1,151,587	1,175,543	1,168,907	1,175,819	1,170,007	1,153,042	1,135,233
	伸び率(S55=1)	100.0%	102.1%	101.5%	102.1%	101.6%	100.1%	98.6%
宮崎市	人口(人)	329,751	349,465	365,080	384,391	392,178	395,593	400,583
	伸び率(S55=1)	100.0%	106.0%	110.7%	116.6%	118.9%	120.0%	121.5%
都城市	人口(人)	172,655	175,728	172,593	174,054	171,812	170,955	169,602
	伸び率(S55=1)	100.0%	101.8%	100.0%	100.8%	99.5%	99.0%	98.2%
小林市	人口(人)	52,762	53,753	53,480	52,828	51,697	49,820	48,270
	伸び率(S55=1)	100.0%	101.9%	101.4%	100.1%	98.0%	94.4%	91.5%
えびの市	人口(人)	27,246	28,034	26,826	25,872	24,906	23,079	21,606
	伸び率(S55=1)	100.0%	102.9%	98.5%	95.0%	91.4%	84.7%	79.3%

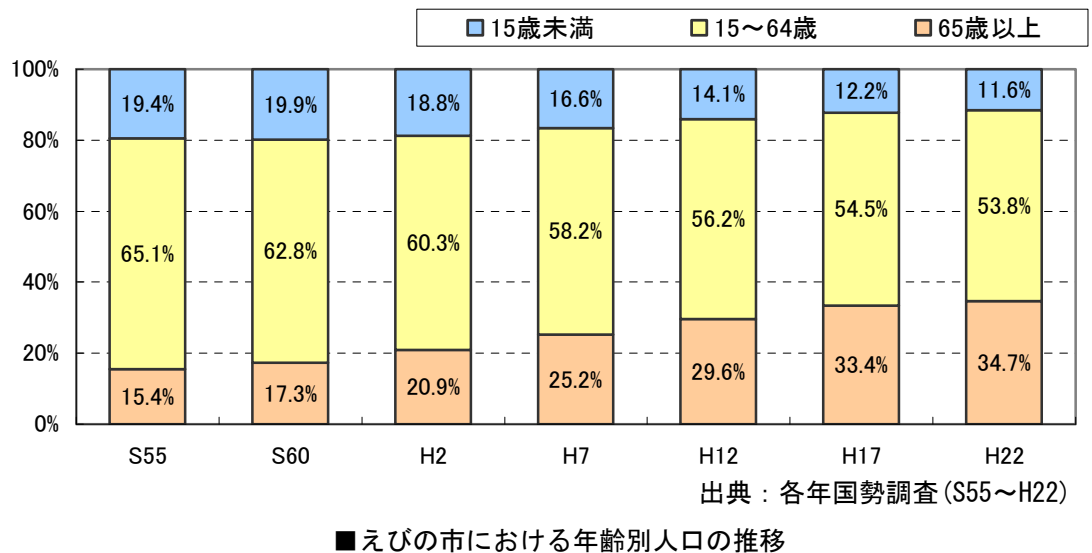
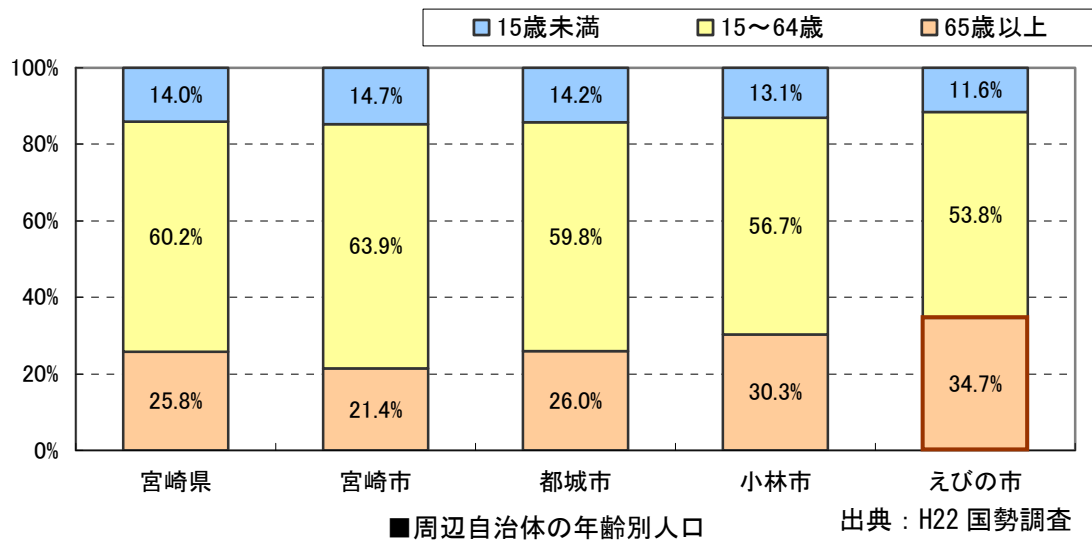
出典: 各年国勢調査(S55~H22)

■人口の推移

②年齢別人口

◇市全体

- ・県内の周辺自治体および宮崎県の年齢別人口構成を比較すると、えびの市の65歳以上の高齢者の割合は34.7%と最も高く、市民の3人に1人が65歳以上という高齢化状況にあります。
- ・えびの市の年齢別人口の推移を見ると、15歳未満の割合は減少傾向、高齢者人口（65歳以上）の割合は増加傾向にあり、「少子高齢化」の状況に近年拍車がかかっています。



◇行政区別

・年齢別人口を行政区別にみると、東長江浦下区や南昌明寺区、西内堅区など、高齢化率が50%を超えている地区もあり、地区間で大きな差が見られます。

■年齢別人口(行政区別)

地区	行政区	15歳未満	15～64歳	65歳以上	合計	高齢化率
飯野地区	堀浦区	21	181	112	314	35.7%
	上大河平区	9	198	149	356	41.9%
	下大河平区	21	278	235	534	44.0%
	杉水流区	22	141	97	260	37.3%
	五日市区	28	134	94	256	36.7%
	東原田区	56	244	145	445	32.6%
	麓区	218	714	320	1252	25.6%
	駅前区	105	449	265	819	32.4%
	中原田区	48	304	142	494	28.7%
	上原田区	15	86	59	160	36.9%
	南原田区	107	523	370	1000	37.0%
	町区	118	487	155	760	20.4%
	片馬場区	120	207	1	328	0.3%
	坂元区	47	253	153	453	33.8%
	高野区	11	43	21	75	28.0%
	前田区	37	204	124	365	34.0%
	芋畑区	12	101	82	195	42.1%
	大明司区	44	274	192	510	37.6%
	山内区	14	84	64	162	39.5%
	加久藤地区	松原区	13	113	65	191
前松原区		31	136	61	228	26.8%
麓区		218	714	320	1252	25.6%
中島区		156	503	298	957	31.1%
栗下区		51	236	154	441	34.9%
東長江浦下区		4	47	78	129	60.5%
東長江浦上区		6	51	38	95	40.0%
尾八重野区		12	86	55	153	35.9%
西長江浦下区		18	111	82	211	38.9%
西長江浦上区		21	81	61	163	37.4%
灰塚区		10	55	36	101	35.6%
永山区		125	367	131	623	21.0%
大溝原区		25	109	87	221	39.4%
湯田区		18	114	87	219	39.7%
西郷区		37	178	140	355	39.4%
東川北区		18	117	125	260	48.1%
榎田区		8	48	35	91	38.5%
牧の原区	14	44	55	113	48.7%	

地区	行政区	15歳未満	15～64歳	65歳以上	合計	高齢化率
上江地区	池島区	14	116	67	197	34.0%
	今西区	23	143	70	236	29.7%
	西上江区	20	129	85	234	36.3%
	中上江区	22	168	124	314	39.5%
	上上江区	90	432	204	726	28.1%
	田代区	23	157	95	275	34.5%
	出水区	24	112	82	218	37.6%
	末永区	25	105	100	230	43.5%
	白鳥区	32	208	173	413	41.9%
	真幸地区	水流区	36	170	156	362
南昌明寺区		14	113	131	258	50.8%
北昌明寺区		5	25	40	70	57.1%
東内堅区		12	90	95	197	48.2%
中内堅区		10	85	51	146	34.9%
西内堅区		7	31	56	94	59.6%
溝ノ口区		0	23	36	59	61.0%
北岡松区		11	100	87	198	43.9%
南岡松区		21	206	189	416	45.4%
亀沢区		17	88	46	151	30.5%
柳水流区		14	68	57	139	41.0%
京町区		198	649	372	1219	30.5%
上向江区		46	158	104	308	33.8%
下浦区		3	44	53	100	53.0%
中浦区		17	152	128	297	43.1%
上浦区		51	212	122	385	31.7%
上島内区		8	94	61	163	37.4%
下島内区		34	281	176	491	35.8%
西川北区		40	186	140	366	38.3%
合計		2,660	12,512	7,789	22,961	33.9%

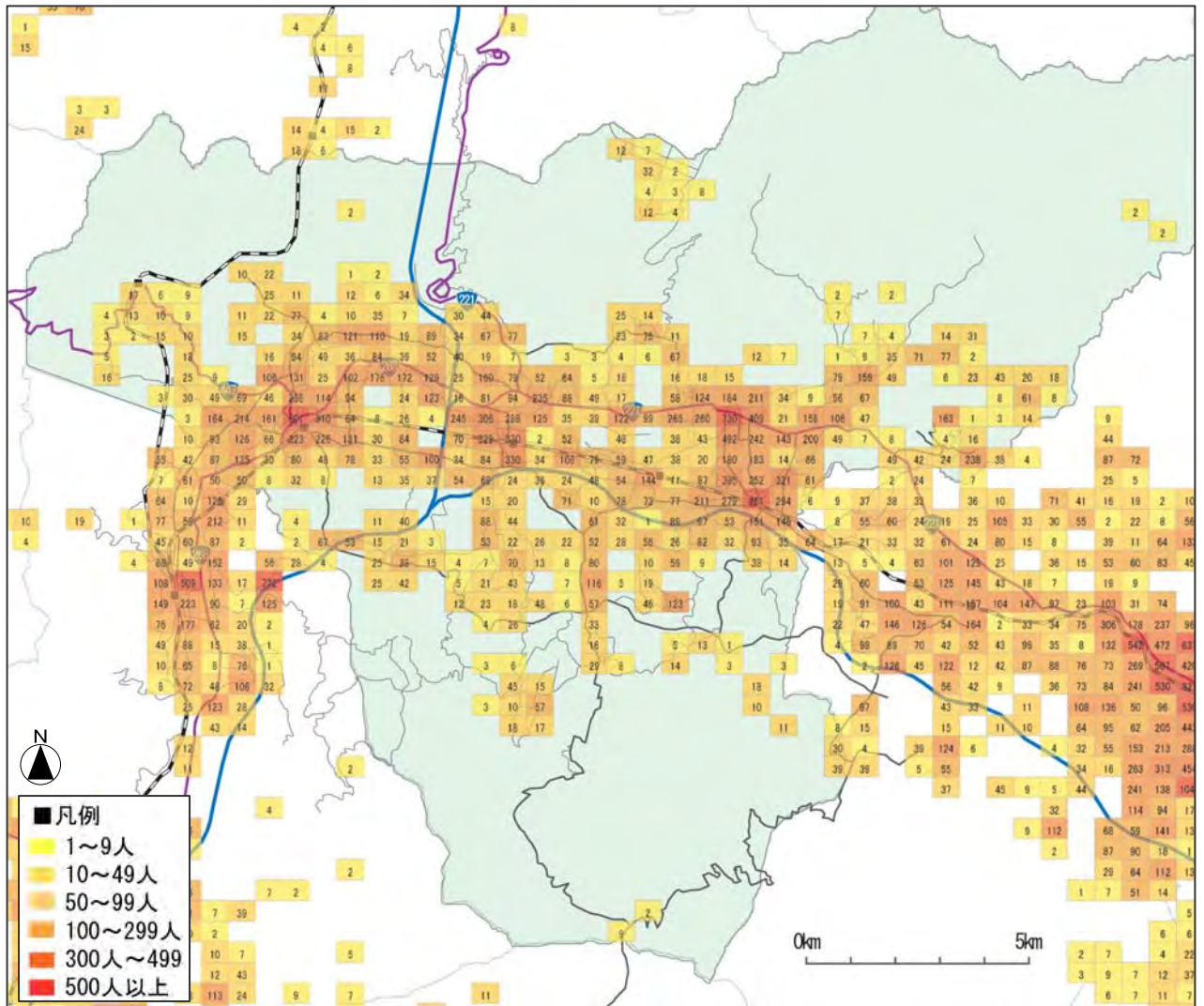
出典：H23 住民基本台帳



■行政区位置図

③人口分布

・居住地は国道221号や鉄道に沿って帯状に広がっていますが、中には幹線道路から離れた地区にも分布が見られます。



■人口分布図

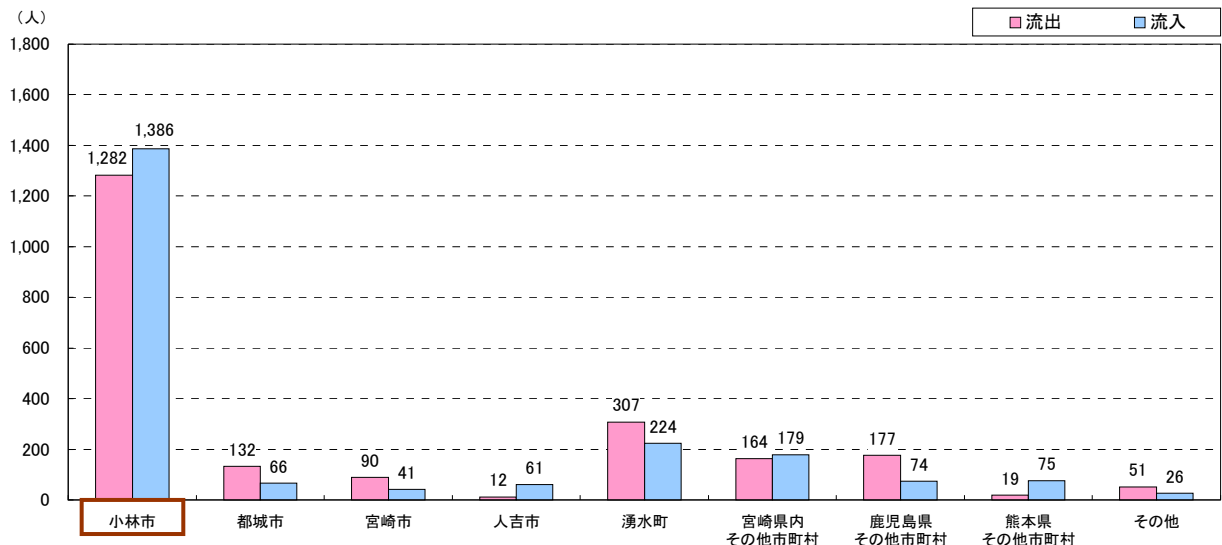
出典：H17 国勢調査(500m メッシュ)

(3) 人口流動

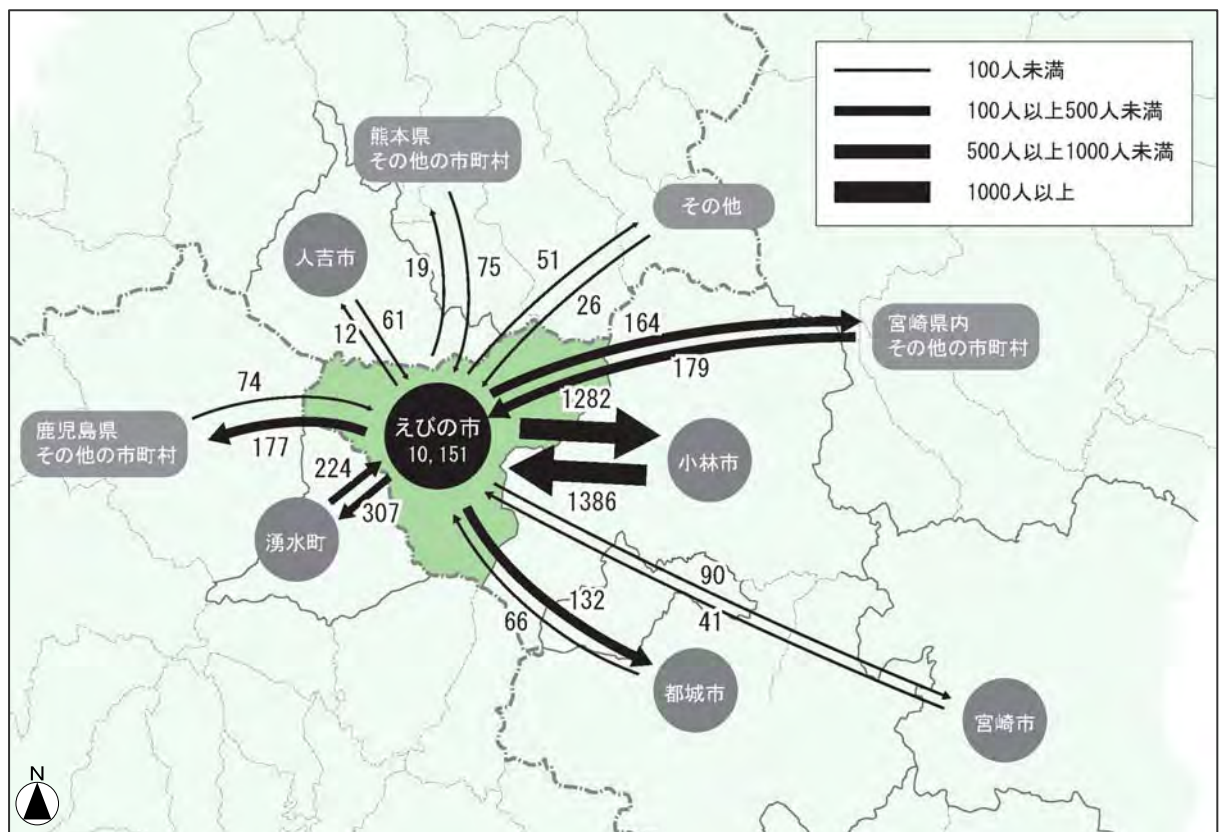
①通勤・通学流動

- ・えびの市の通勤・通学流動を見ると、えびの市内における流動が主になっています。
- ・市外との繋がりを見ると、小林市が流出：約 1,300 人、流入：約 1,400 人と突出しており、他市町村に比べ強い繋がりが見られます。

えびの市在住の通勤・通学者	12,385人
市内への通勤・通学者	10,151人



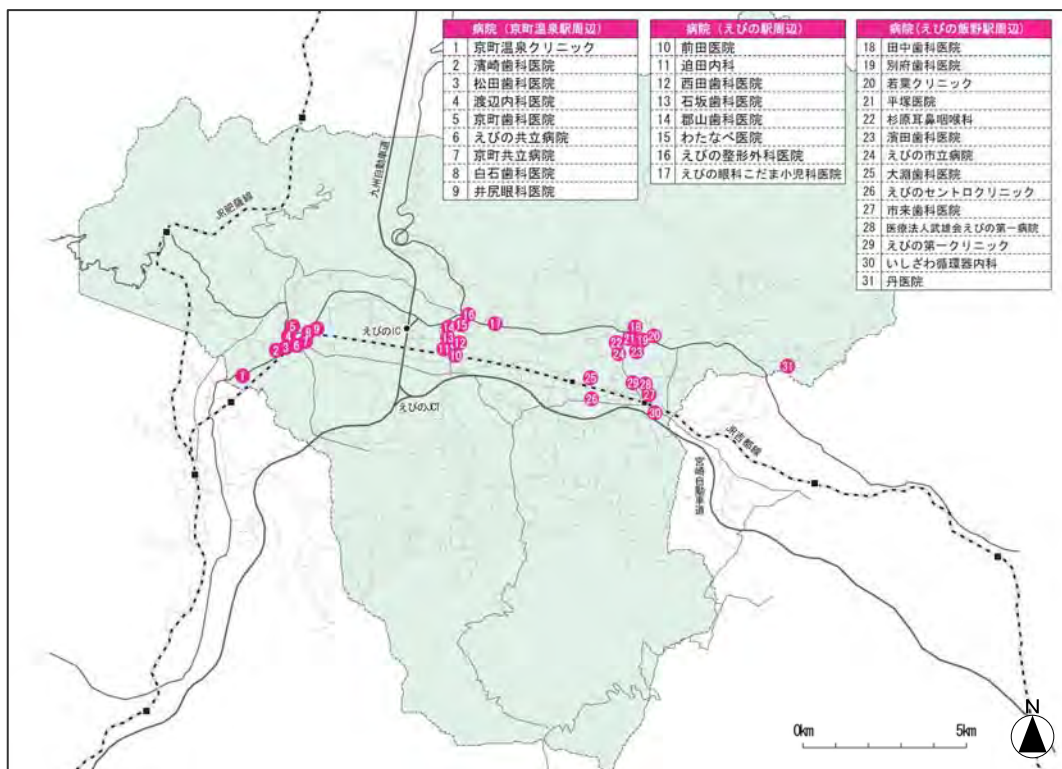
■市町村別通勤・通学流動 (15歳以上の通勤・通学者) 出典：H17 国勢調査



■通勤・通学流動図 (15歳以上の通勤・通学者) 出典：H17 国勢調査

(4) 主要施設分布

- ・公共施設や商業施設、医療施設などの主要な施設は概ね国道221号沿線に立地しており、病院や商業施設は、概ねえびの飯野駅、えびの駅、京町温泉駅の3箇所に集中しています。
- ・一方で、各駅周辺に着目してみると施設が面的に分布しており、徒歩のみでの施設間の移動は難しい状況にあります。



■主要施設分布図(医療施設)



■主要施設分布図(公共施設等・商業施設・教育機関)

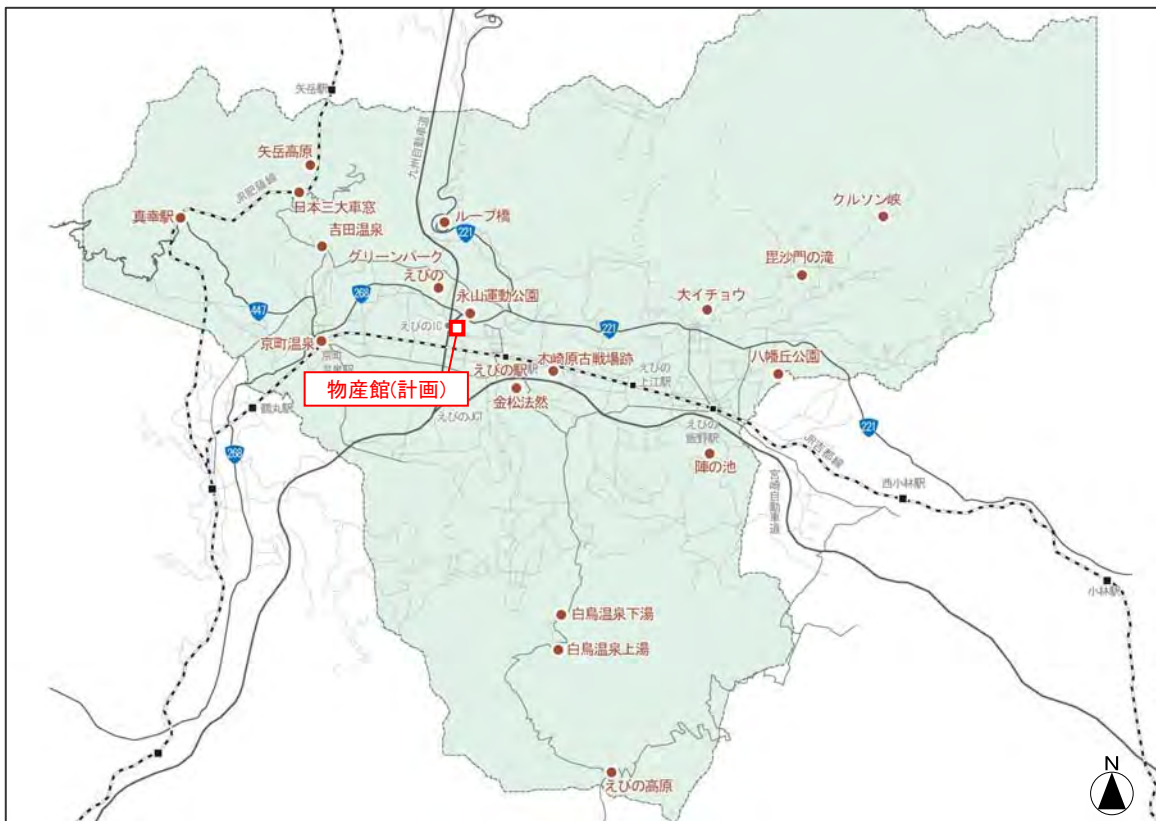
(5) 観光

- ・えびの市には、えびの高原や京町温泉など様々な観光資源が点在しており、施設の他にも、市内全域に点在する「田の神さあ」といった独特の文化も観光資源のひとつとなっています。
- ・えびのIC付近には、新たな交流の場として物産館の建設が計画されています。

■施設別観光客数の推移および順位

施設名称	観光客数(人/年)				順位	
	H18	H19	H20	H21	市内	県内
えびの高原	799,261	812,091	741,072	814,496	1	5
京町温泉	486,924	451,408	404,764	337,906	2	13
グリーンパークえびの	308,860	323,329	343,444	292,747	3	17

出展：平成21年度宮崎県観光動向調査



■主要観光施設位置図



■えびの高原(韓国岳)



■田の神さあ

写真出展：えびの市観光協会 HP

2-2. 公共交通の現況

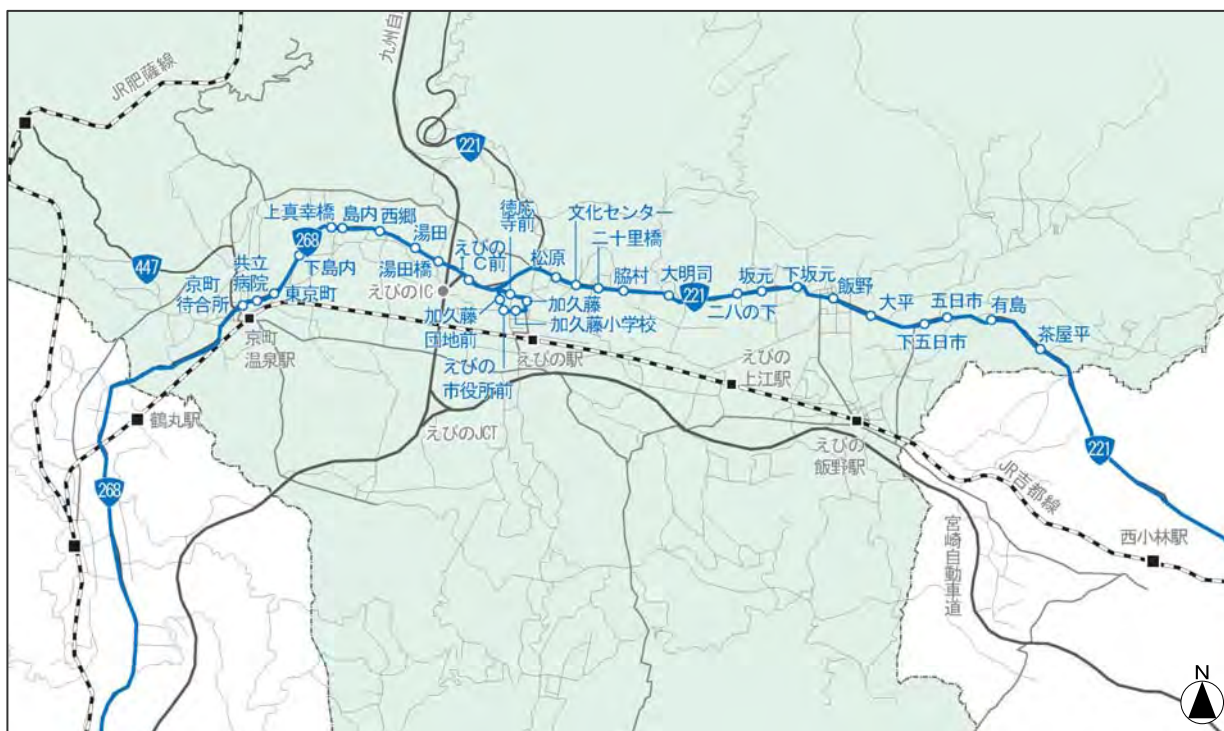
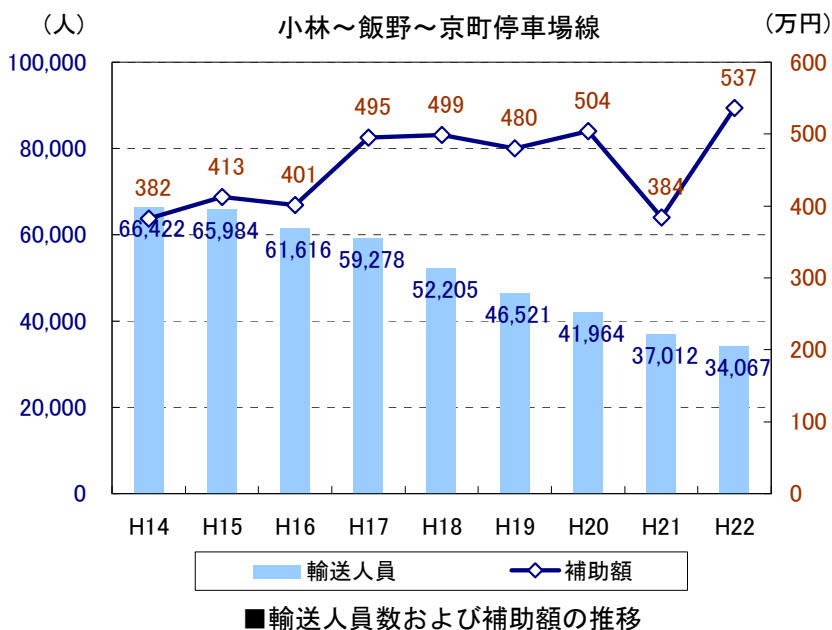
(1) 路線バス

- ・市内では宮崎交通(株)により、路線バス(小林～飯野～京町停車場線)が、小林方面へ1日10便、京町方面へ1日11便運行されています。
 - ・平成22年の年間利用者は約34,000人で、市では年間約540万円の補助金を支出しており、負担額は増加傾向にあります。
- ※年間約10万円の補助を行ってきた小林～窪田～飯野駅線については、平成22年に廃止されています。

■時刻表(えびの市役所前)

行先	小林バスセンター	京町待合所
6時	55	
7時		39
8時	3	49
9時	24	49
10時	20	
11時	45	19
12時		49
13時	20	59
14時	24	39
15時	14	59
16時	40	
17時	50	19
18時		27
19時		24
20時		
便数	10便	11便

※H24.2月現在



■バス路線図

(2) 高速バス

- ・本市からは福岡、長崎、熊本、新八代、鹿児島、宮崎の各方面に高速バスが運行されており、えびのインター停留所および飯野停留所からの利用が可能です(飯野停留所は一部の便のみ停車)。
 - ・えびのインター停留所に停車する便数は福岡行き 8 便、長崎行き 2 便、熊本行き 14 便、新八代行き 4 便、鹿児島行き 8 便、宮崎行き 22 便となっており、新八代駅では九州新幹線に接続しています。
 - ・利用状況を見ると、えびのインター停留所で約 14,000 人となっています。
- ※平成 24 年 1 月の利用状況からの推定値。なお、鹿児島方面は予約制では無く、詳細な利用状況が不明なため集計から除外。
- ・路線バスが、えびのインター停留所に停車しますが、その他の交通手段はタクシーのみとなっており、市外からの観光客を対象とし、観光行動に適した交通手段の導入が求められます。

■時刻表(えびインター)

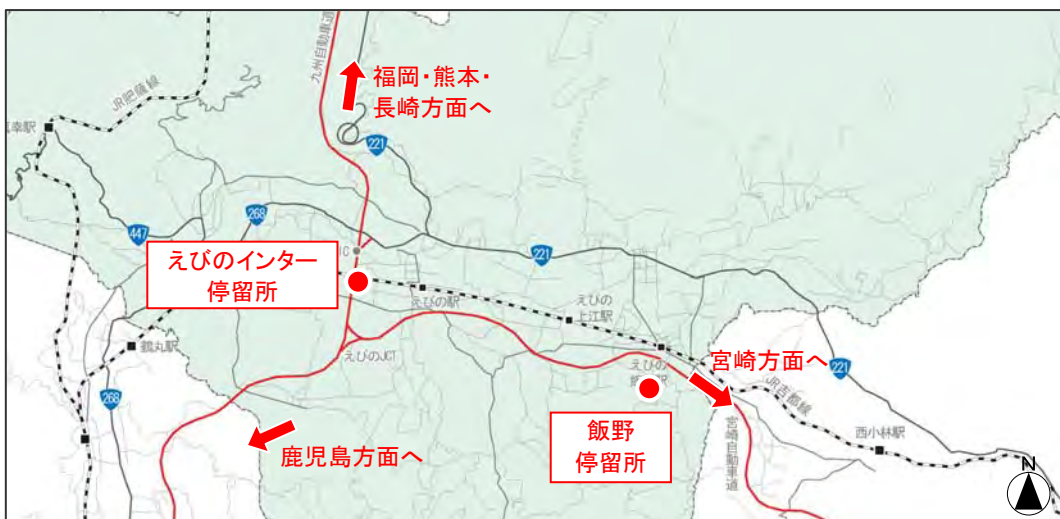
行先	福岡	長崎	熊本	新八代	鹿児島	宮崎
6時	41					
7時			50	30	57	26
8時	41	39	46			57
9時			50	21	57	26 51
10時	41		46			47
11時			46		57	26
12時	41		46			07 26
13時			46		57	31
14時	41		50			26 37
15時			46		57	37
16時	41		46		57	26 27
17時		39	46	39	57	17 56
18時	41		46			01 47
19時			46	32	57	47 56
20時	41		50			47
21時						50
22時						
便数	8便	2便	14便	4便	8便	22便

※H24. 2 月現在

■利用状況

	福岡線		熊本線		長崎線		新八代線		
	片道8便		片道14便		片道2便		片道4便		
	乗車	降車	乗車	降車	乗車	降車	乗車	降車	
H24.1月合計	473人	324人	123人	118人	25人	11人	55人	50人	
年間推定値	5676人	3888人	1476人	1416人	300人	132人	660人	600人	
	合計							14148人	

出典：宮崎交通株資料



■高速バスの運行状況

(3) 鉄道

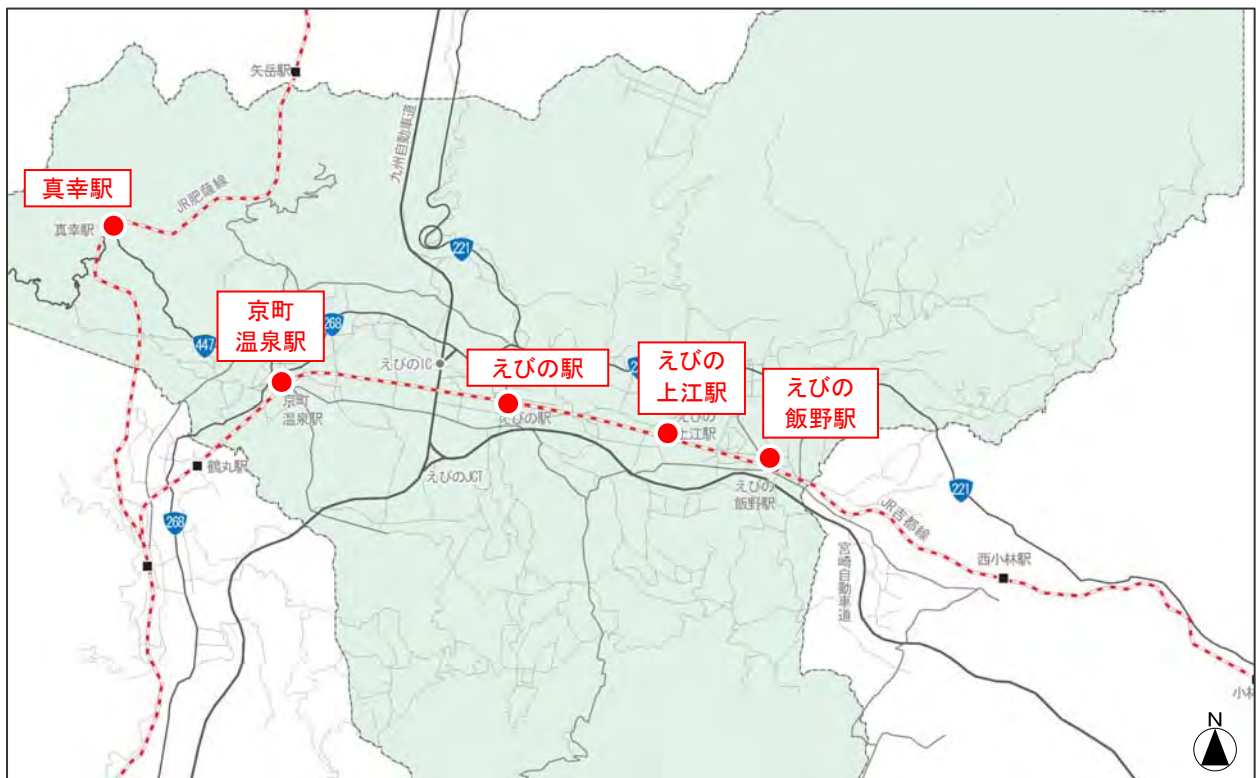
- ・九州旅客鉄道(株)により、吉都線および肥薩線の2路線が運行されており、吉都線は市内に4駅(えびの飯野駅、えびの上江駅、えびの駅、京町温泉駅)、肥薩線は1駅(真幸駅)が設置されています。
- ・各駅の平成21年の1日当たりの乗降者数は、えびの飯野駅：238人、えびの上江駅：26人、えびの駅84人、京町温泉：107人、真幸駅：3人となっており、宮崎県立飯野高等学校への通学利用等から、えびの飯野駅の利用が多くなっている状況にあります。
- ・中でもえびの駅や真幸駅は歴史が古く、市の観光資源にもなっています。



■えびの駅の様子



■真幸駅の様子



■鉄道路線図

(4) タクシー

- ・市内では、3社のタクシー事業者が営業を行っています。
- ・ジャンボタクシー(10人乗り)を保有している事業者もあり、団体での利用にも対応が可能となっています。
- ・タクシーは、市民の日常的な交通手段を担うのみではなく、高野区の通学手段としても利用されており、市では年間約90万円(内約30万円は国庫補助)を支出しています(平成22年度)。

(5) 福祉タクシー

- ・市では、高齢者並びに重度の障害者の移動をサポートするため、タクシー初乗り料金(560円)を助成する福祉タクシー事業を実施しています。
- ・利用対象者は、75歳以上の高齢者および75歳未満の所定の重度障害者となっていますが、以下の条件に該当する人は、対象外とされています。
- ・1年間の利用状況は、高齢者が約8,800回、障害者が約200回の計約9,000回となっており、市は年間約500万円を支出しています。

○助成対象者

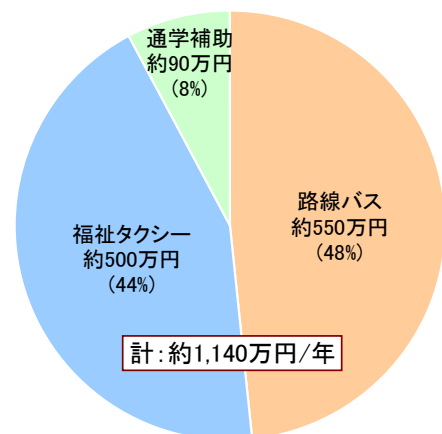
「えびの市福祉タクシー料金の助成に関する条例」より抜粋

第3条 福祉タクシー料金の助成を受けることができる者は、えびの市の住民基本台帳に登録されていて本市に居住し、車両を保有せず、自らも運行できない高齢者及び重度の障害者で次に掲げる者以外の者とする。

- (1) 同一世帯内に車両を保有し、自ら運行できる者がいる者
- (2) 一親等の血族(高齢者及び重度の障害者を除く。)がえびの市の住民基本台帳に登録されていて、本市に居住している者がいる者
- (3) 住民税が課税されている者及び住民税が課税されている者の被扶養者
- (4) 老人福祉法(昭和38年法律第133号)第20条の4、第20条の5及び第20条の6の規定による施設に入所している者 ※特別養護老人ホーム等
- (5) 特別児童扶養手当等の支給に関する法律(昭和39年法律第134号)第17条第2号、第26条の2第1号及び第2号の規定に該当する者 ※障害者支援施設等

(参考) えびの市における公共交通への支出状況

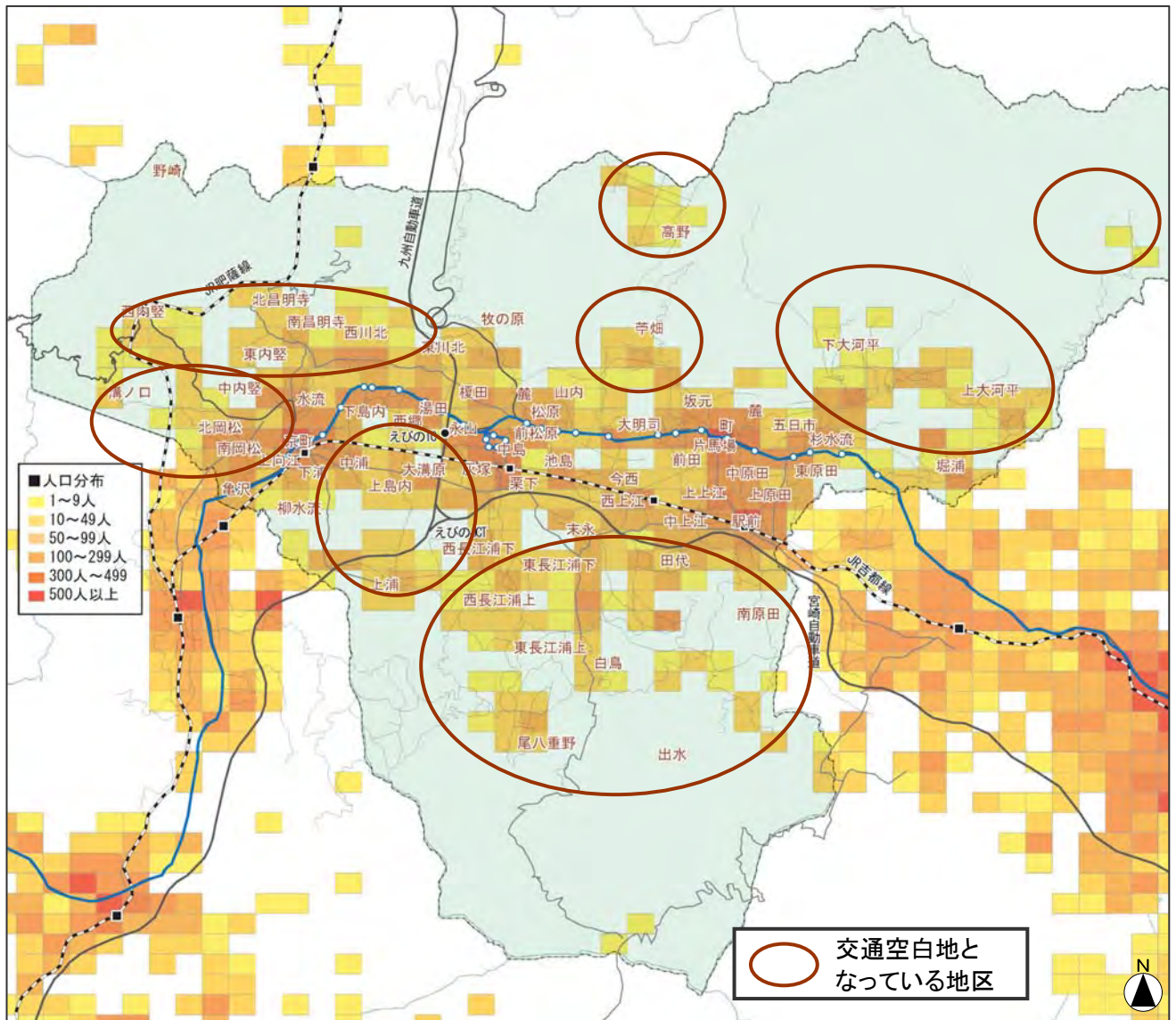
- ・えびの市における、平成22年度の公共交通の支出状況を見ると、路線バスが約550万円で48%(廃止済み路線への支出を含む)、福祉タクシーが約500万円で44%、通学補助(タクシー)が約90万円(8%)、計約1,140万円となっており、路線バスおよび福祉タクシーへの支出が大部分を占めています。



■公共交通への支出状況(H22)

○公共交通路線と人口分布の状況

- ・公共交通の路線をみると、バス路線、鉄道ともに市の中央部に集中しているのが分かります。
- ・これに人口分布状況を重ねてみると、上・下大河平区や尾八重野区など、幹線道路から離れた多くの地区が、公共交通路線の無い、交通空白地となっていることが分かります。



■交通空白地の分布状況

3. 公共交通利用実態・ニーズ調査

えびの市の公共交通の現状およびニーズを把握するため、市民や交通事業者を対象とした調査を実施しました。

以下に、各調査の概要および結果を記載します。

◆実施した調査

- 3-1. 市民アンケート調査
- 3-2. 事業者ヒアリング調査
- 3-3. グループヒアリング調査

3-1. 市民アンケート調査

(1) 調査概要

①調査目的

- ・えびの市における移動や公共交通の利用実態を把握し、公共交通の再編に向けた課題を抽出することを目的として実施。

②調査日

- ・平成23年10月28日(金)～11月14日(月)

③調査方法

- ・えびの市在住の65歳以上の方1,500人、65歳未満の方1,000人、計2,500人を抽出し、郵送によるアンケート票の配布・回収を実施。

④有効回答率

- ・有効回答率：38%(配布：2,500票、回収数：946票)



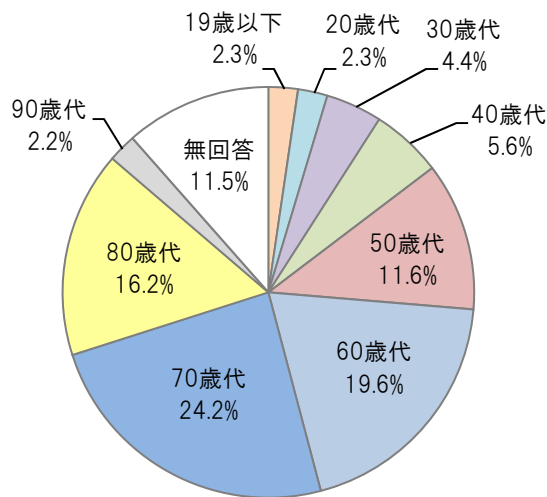
(2) 調査結果

①回答者属性

以下に、アンケート回答者の属性を記載します。

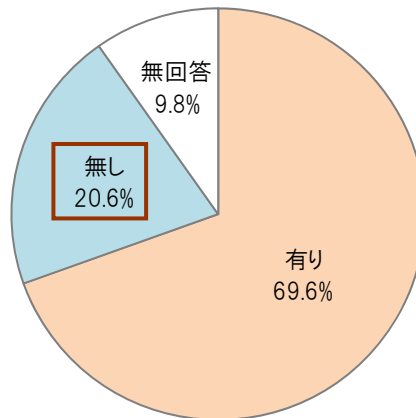
◇年齢・運転免許の保有

- ・幅広い年齢層からの回答がありましたが、特に50歳以上からの回答が多くなっています。
- ・回答者のうち、20.6%が運転免許を保有していません。



全体(N=946)

■年 齢

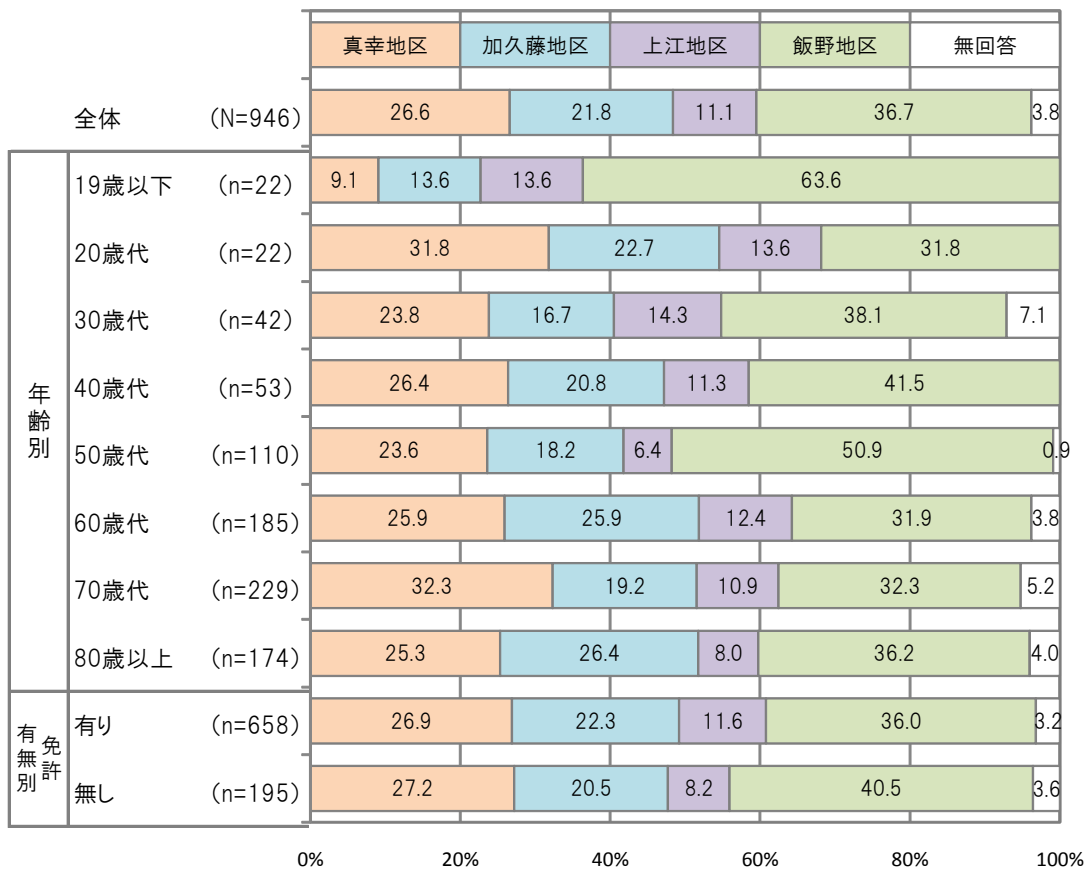


全体(N=946)

■運転免許の有無

◇住所

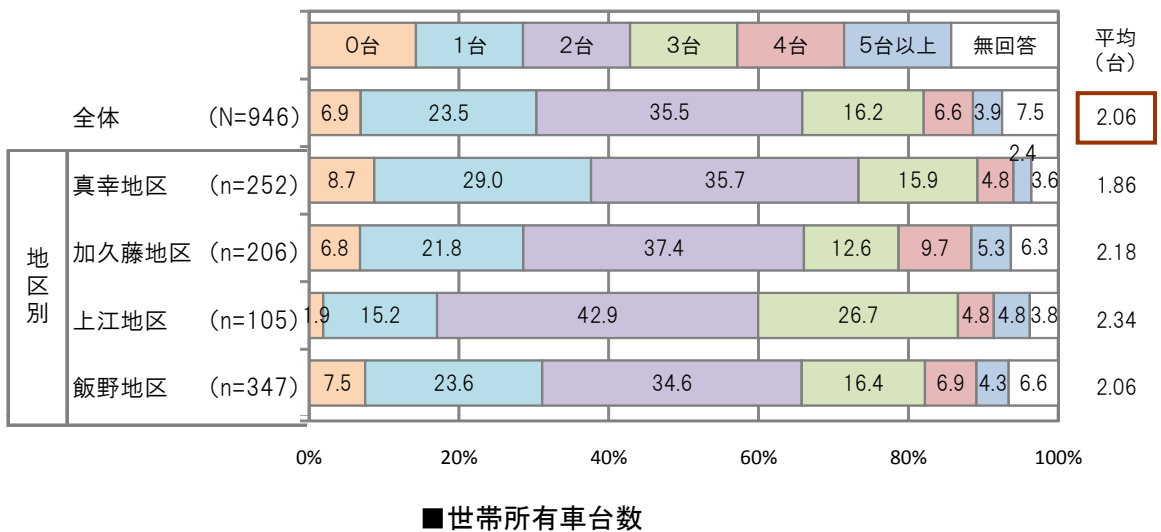
- ・対象者の住所をみると、「飯野地区」が36.7%で最も多くなっています。次いで、「真幸地区」(26.6%)、「加久藤地区」(21.8%)の順となっています。
- ・年齢別にみると、すべての年代で「飯野地区」が最も多くなっていますが、特に「10歳代」は6割以上を占めています。「20歳代」と「70歳代」では、「真幸地区」の割合も多く、約3割を占める結果となっています。
- ・免許有無別では、免許有無に関わらず「飯野地区」が最も割合が高くなっています。



■住所

◇世帯所有車台数

- ・世帯所有車台数をみると、「2台」所有の世帯が最も多く全体の3割強を占めています。次いで、「1台」(23.5%)、「3台」(16.2%)と続き、平均すると1世帯当たり約「2台」所有していることがわかります。
- ・地区別にみると、平均して所有台数が多かった地区は「上江地区」の2.34台、最も少なかった地区は「真幸地区」で1.86台となっています。いずれの地区も、「2台」所有の割合が最も多くなっています。

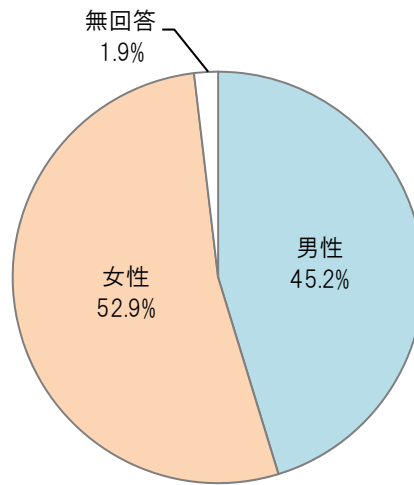


②世帯員属性

以下に、アンケートが回収された世帯の状況を記載します。

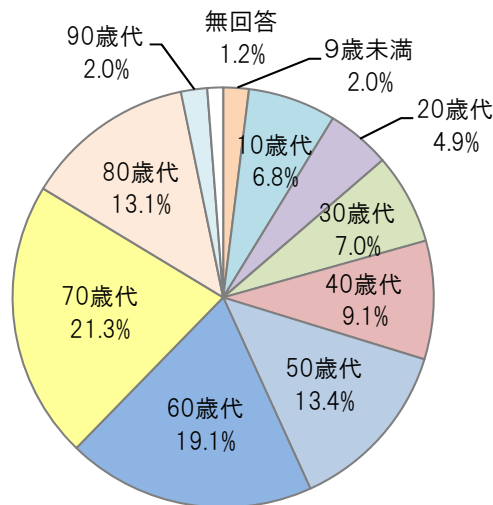
◇性別・年齢

- ・性別は、男性 45.2%、女性 52.9%となっています。
- ・年齢は幅広くなっていますが、特に 60 歳代、70 歳代が多くなっています。



全体(N=2,226)

■性別

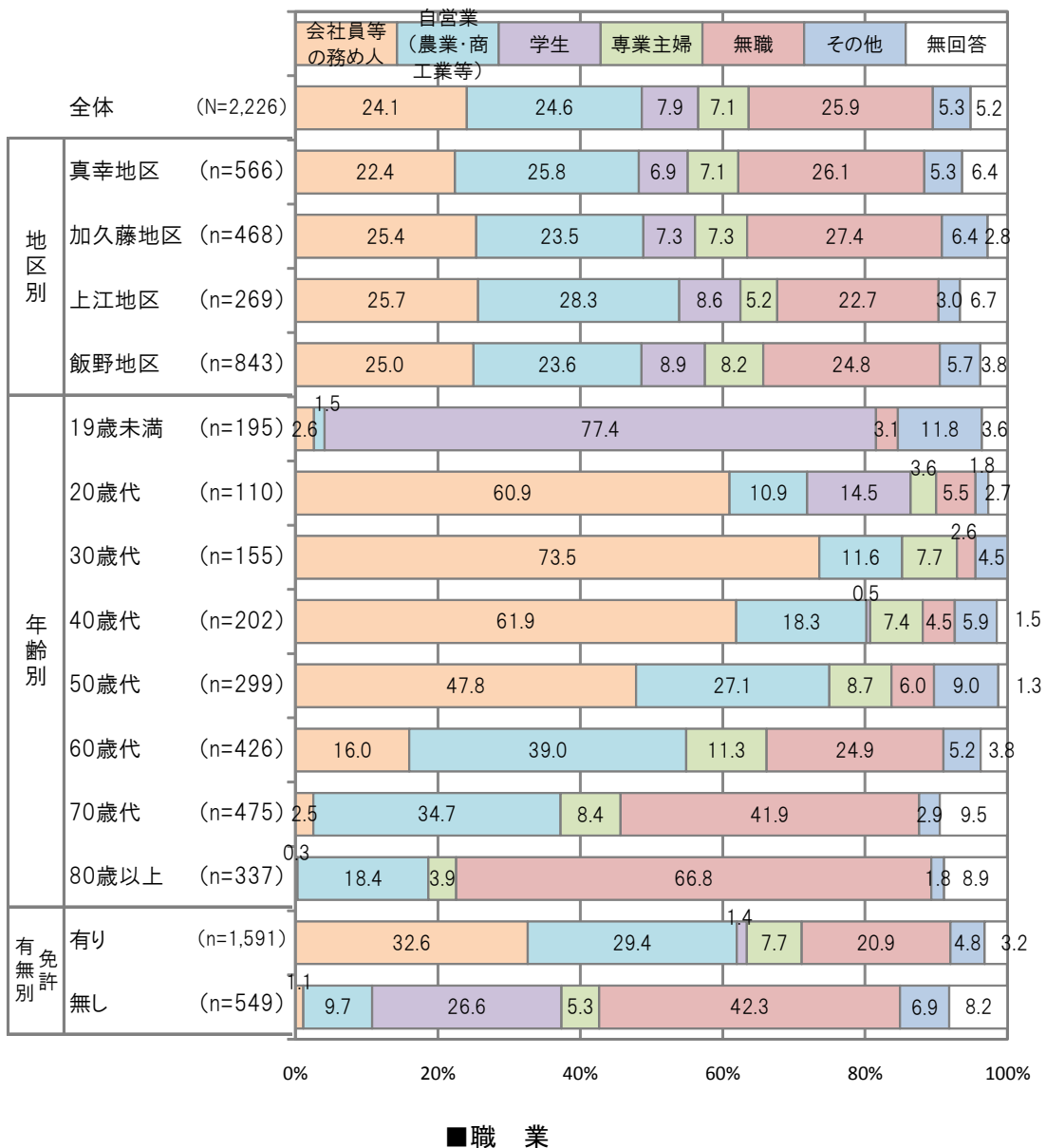


全体(N=2,226)

■年齢

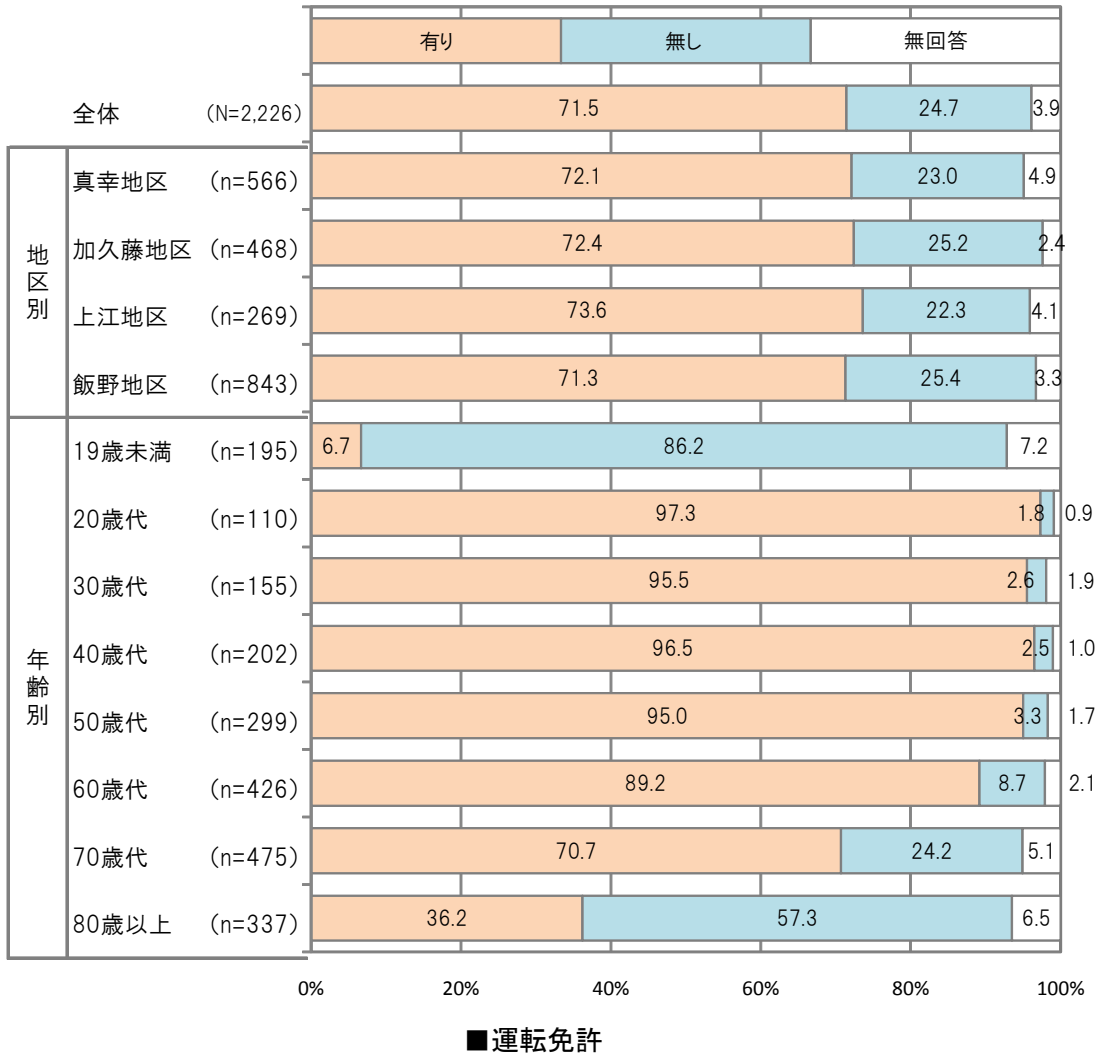
◇職業

- ・対象者の職業をみると、「無職」が25.9%で最も多くなっています。次いで、「自営業（農業・商工業等）」（24.6%）、「会社員等の勤め人」（24.1%）の順となっています。
- ・地区別では、真幸地区と加久藤地区は「無職」、上江地区は「自営業（農業・商工業等）」、飯野地区は「会社員等の勤め人」がそれぞれ最も多くなっています。
- ・免許有無別では、「有り」は会社員等の勤め人が32.6%で最も多く、「無し」では無職が4割強を占め最も多くなっています。



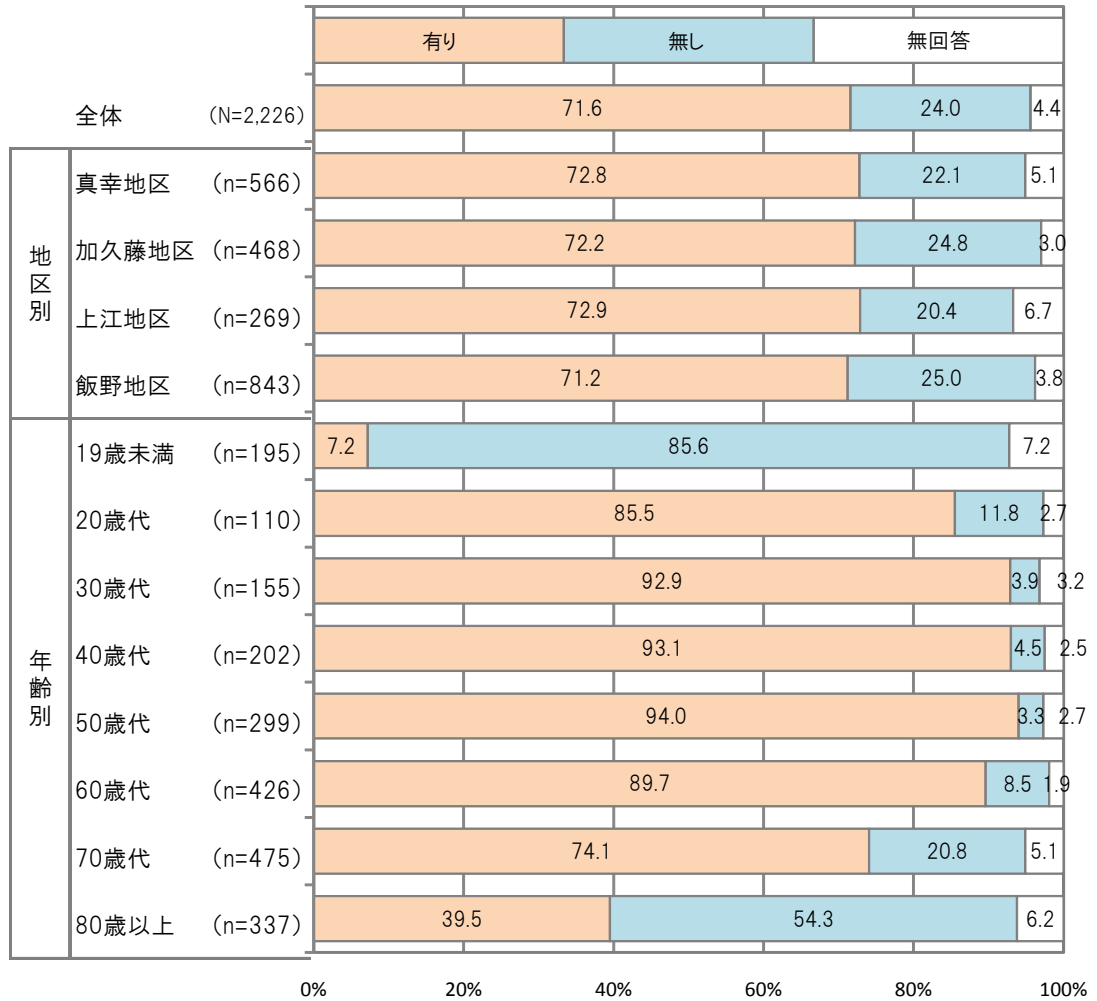
◇運転免許

- ・運転免許の保有者は、全体の71.5%となっています。
- ・年齢別では、70歳代の24.2%、80歳以上の57.3%が運転免許を保有していません。



◇自由に使える自動車の有無

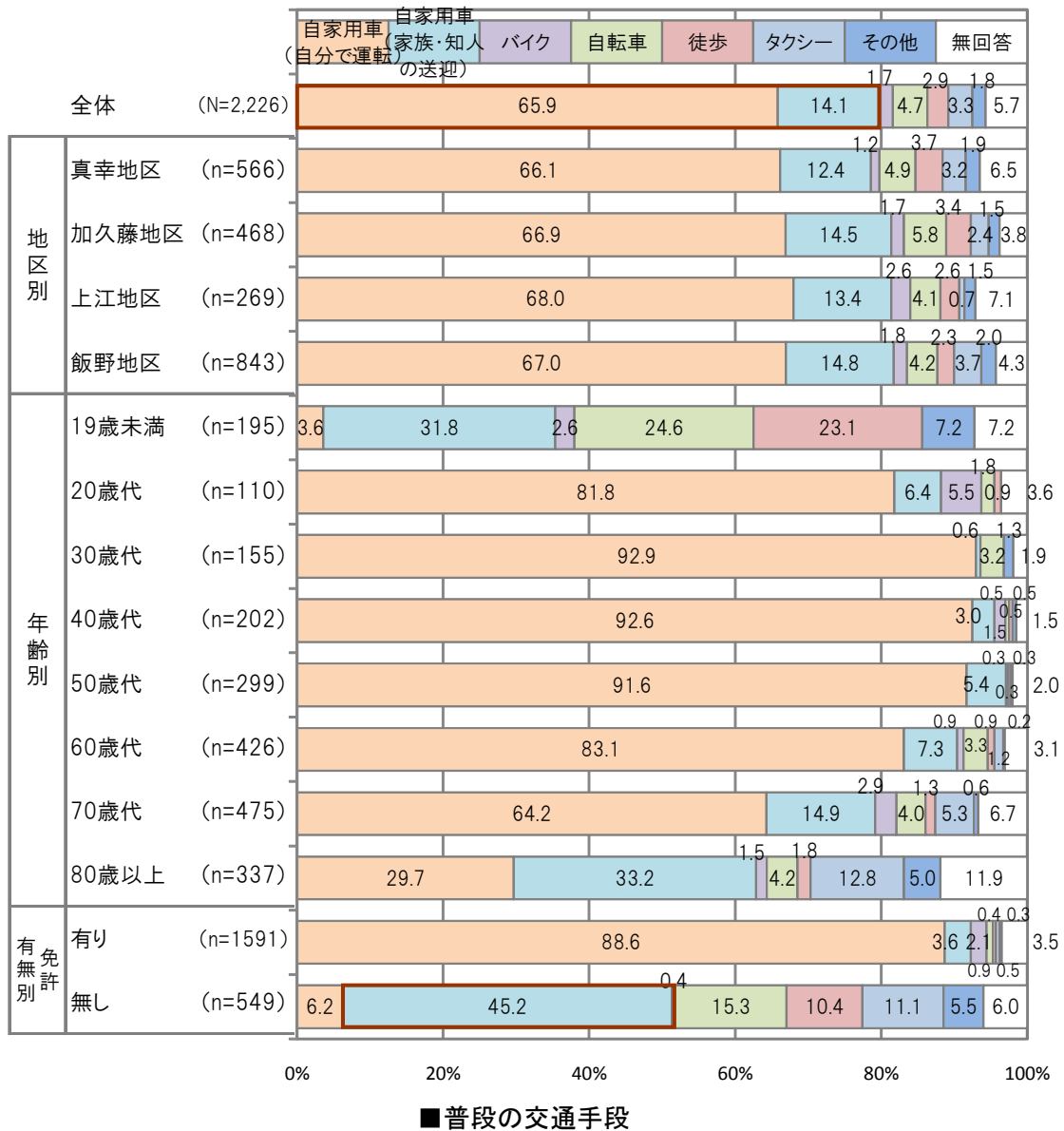
- ・自由に使える自動車の有無をみると、「有り」が71.6%を占めています。
- ・年齢別では、運転免許の保有状況と同様に、70歳以上で低い値となっています。



■自由に使える自動車の有無

◇ 普段の交通手段

- ・ 普段の交通手段をみると、「自家用車（自分で運転）」が65.9%で最も多くなっています。次いで、「自家用車（家族・知人の送迎）」（14.1%）と続き、これらを合わせた自家用車使用者は全体の約8割を占めています。
- ・ 年齢別では、運転免許保有率の低い高齢者で、「家族・知人の送迎」や「タクシー」が多くなっています。
- ・ 免許有無別にみると、免許「無し」と回答した人の中では「自家用車（家族・知人の送迎）」が45.2%で最も多くなっています。

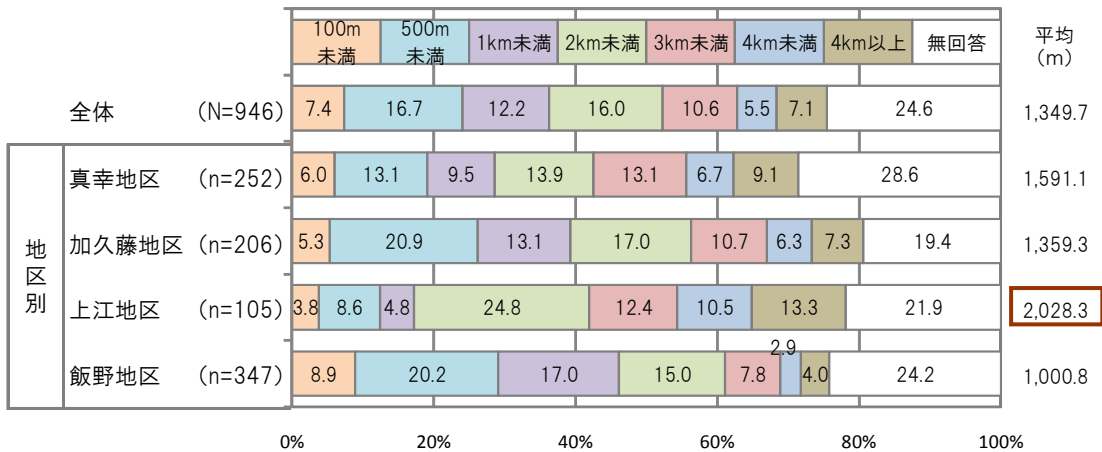


③ 普段の移動状況

以下に、回答者のみを対象とした、買物や通院などの普段の行動実態について記載します。

◇ 自宅から最寄りのバス停・駅までの距離（mまたは徒歩で何分）

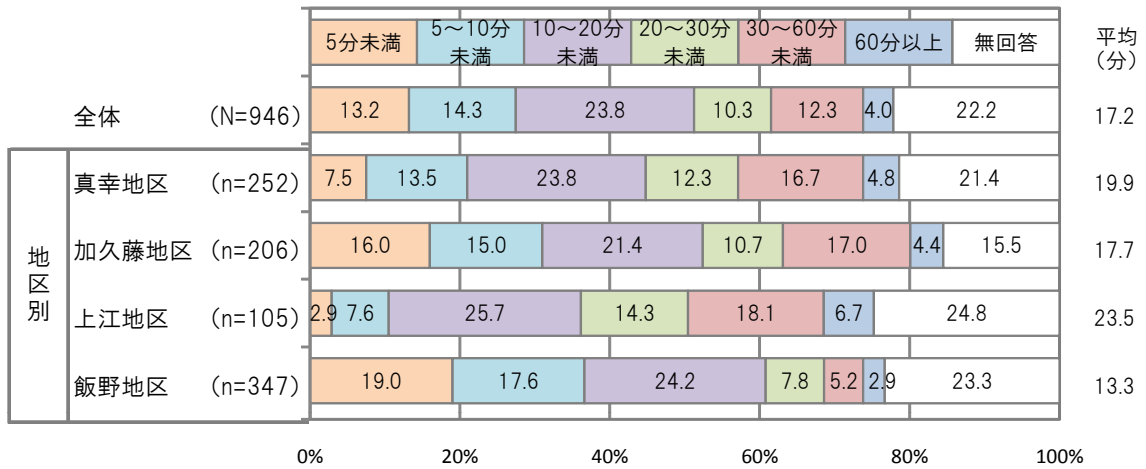
- ・ 自宅から最寄りのバス停・駅までの距離（m）をみると、「500m未満」（16.7%）が最も多く、次いで「2km未満」（16.0%）、「1km未満」（12.2%）となっています。平均すると、自宅からバス停または駅までの距離は約 1,300m となっています。
- ・ 地区別にみると、「加久藤地区」と「飯野地区」は「500m未満」が最も多く、平均では 1,400 m 未満となっています。一方、「真幸地区」と「上江地区」は「2km未満」が最も多く、特に「上江地区」は平均すると約 2,000m となっています。



■ 自宅から最寄りのバス停・駅までの距離

◇自宅から最寄りのバス停・駅までの時間

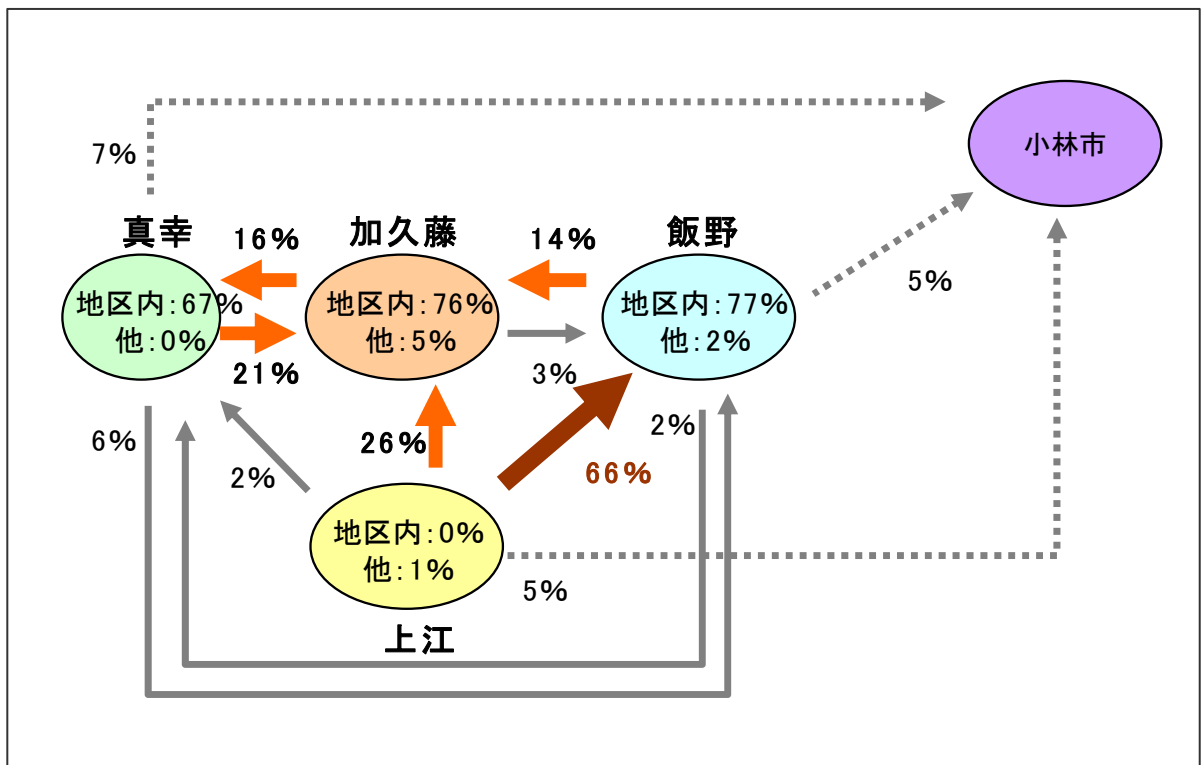
- ・自宅から最寄りのバス停・駅までの距離（時間）をみると、「10～20分」（23.8%）が最も多く、次いで「5～10分未満」（14.3%）、「5分未満」（13.2%）となっています。平均すると、自宅からバス停または駅までの時間は約17分となっています。
- ・地区別にみると、すべての地区で「10～20分未満」が最も多くなっていますが、平均すると「上江地区」が約23.5分で最も長く、次いで「真幸地区」（約19.9分）、「加久藤地区」（約17.7分）、「飯野地区」（約13.3分）の順と、地区によって時間に差がみられます。



■自宅から最寄りのバス停・駅までの時間

◇食料品等普段の買い物先

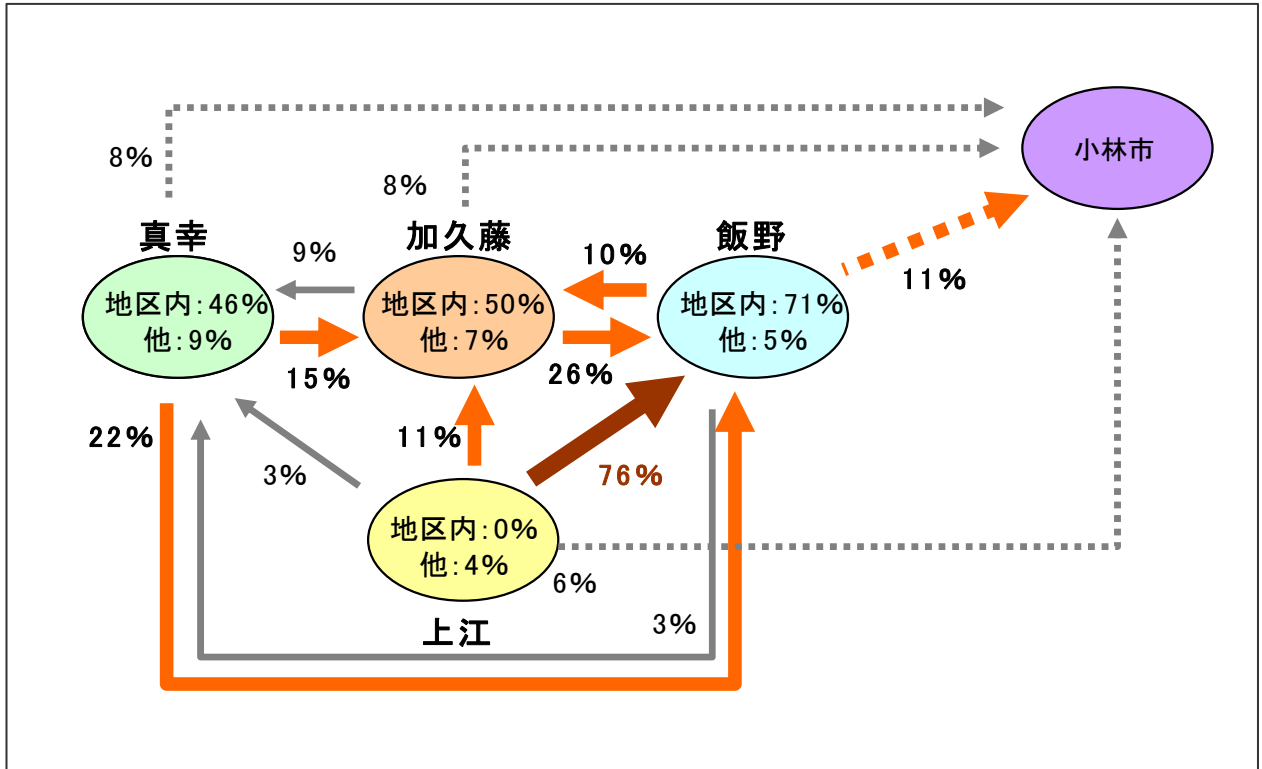
・食料品等普段の買い物先をみると、加久藤地区は「Aコープかくとう店」や「松栄ストアーえびの店」、上江地区は「タイヨーえびの店」や「Aコープ飯野店」、真幸地区では「ブラッセだいわえびの店」、飯野地区では「タイヨーえびの店」や「Aコープ飯野店」が多くなっています。
 ・また、加久藤地区、真幸地区では各地区内に行くことが多くなっていますが、上江地区では飯野に行くことが多くなっています。



■買物流動イメージ図

◇ 普段の通院先

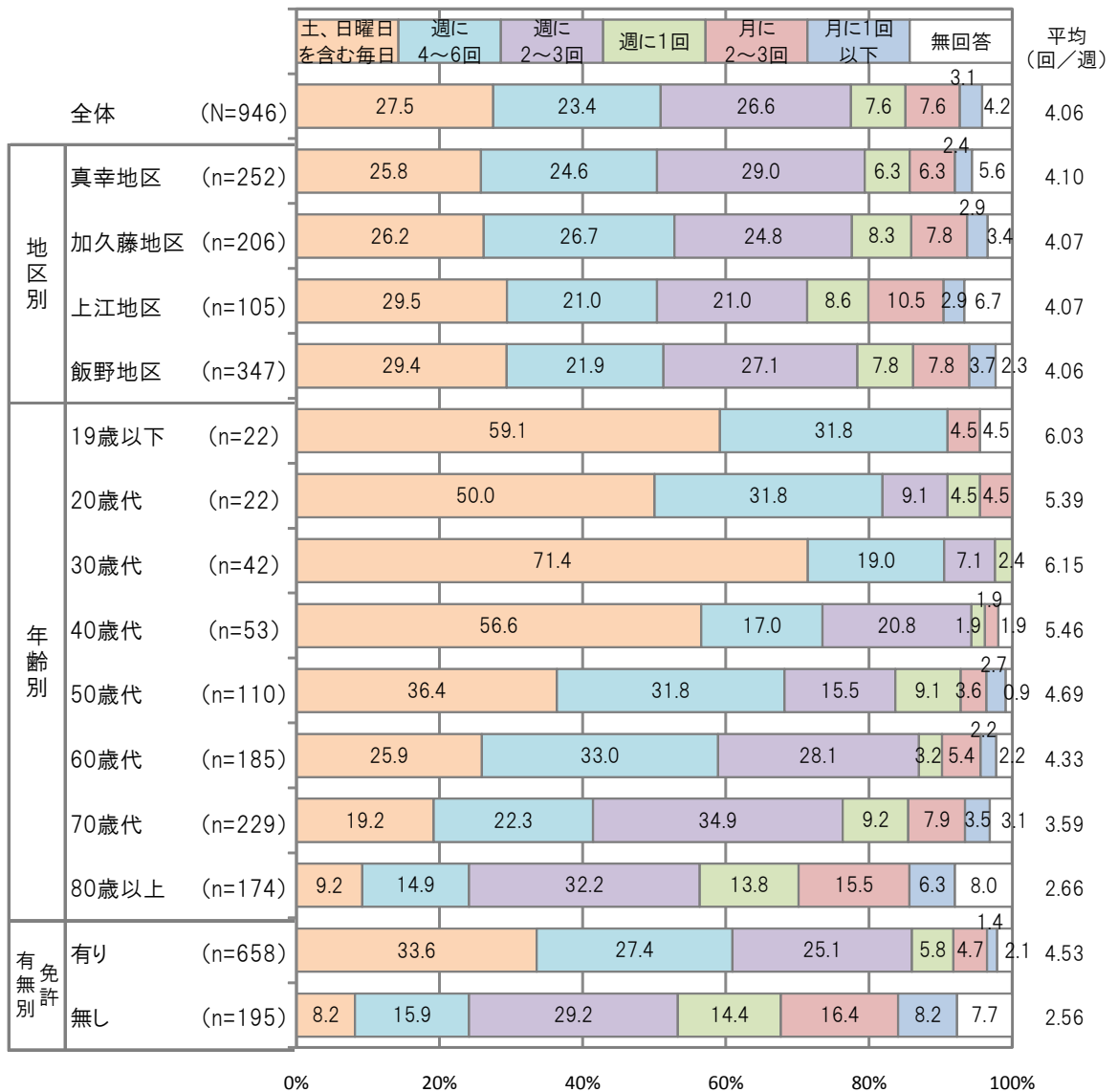
- ・ 普段の通院先をみると、加久藤地区は「前田医院」、上江地区は「えびの市立病院」、真幸地区では「えびの共立病院」や「京町共立病院」、飯野地区では「えびの市立病院」や「若葉クリニック」が多くなっています。
- ・ また、通院の場合は地区外に行くことも多く、小林市などの市外に行く流れも多くなっています。



■ 通院流動イメージ図

◇外出する頻度

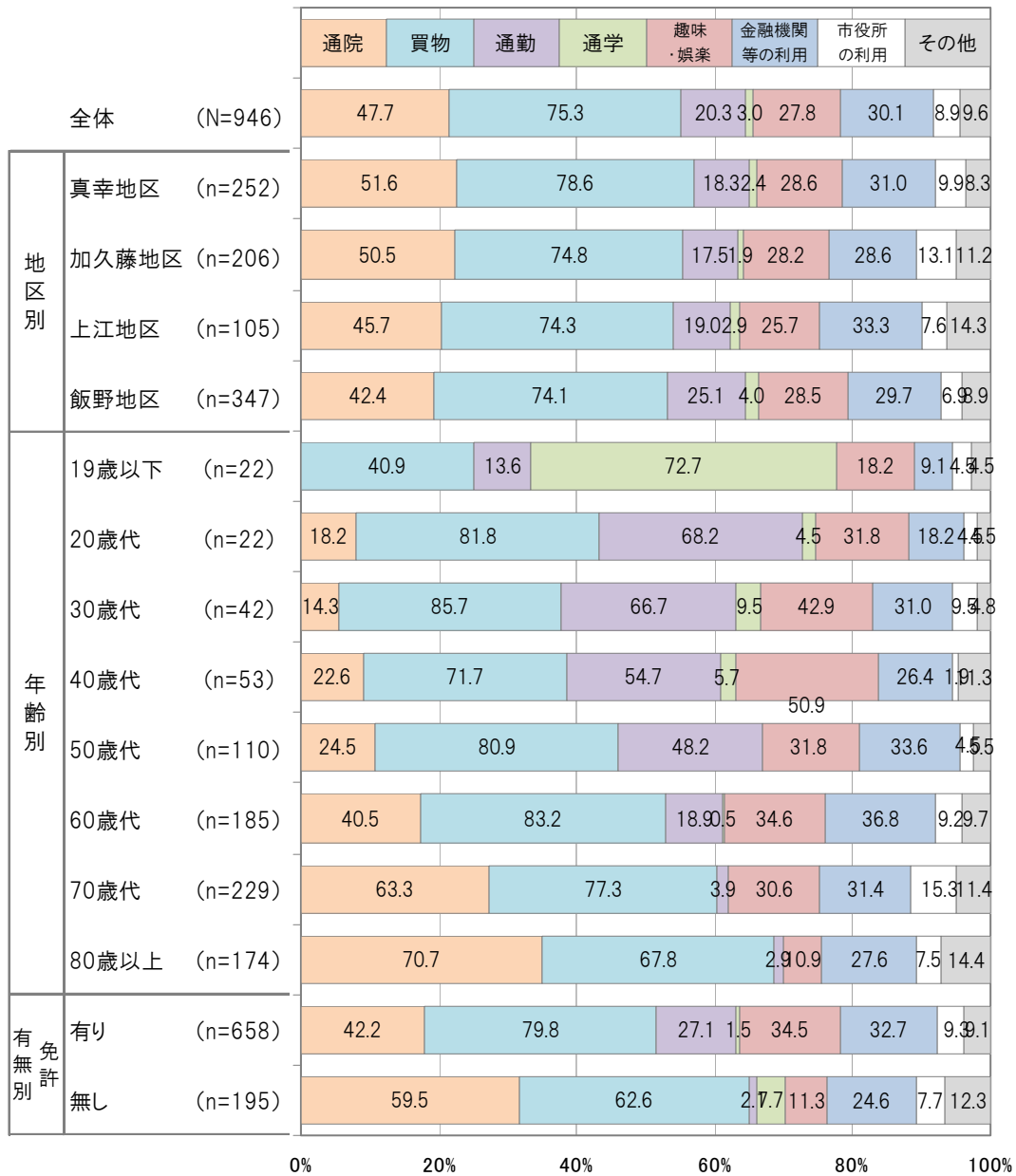
- ・外出する頻度をみると、「土、日曜日を含む毎日」が27.5%で最も多く、次いで「週に2～3回」(26.6%)、「週に4～6回」(23.4%)の順となっており、外出頻度は高い傾向がみられます。
- ・年齢別にみると、年齢が高くなるにつれ、外出頻度が減少する傾向にあります。



■外出する頻度

◇外出する目的

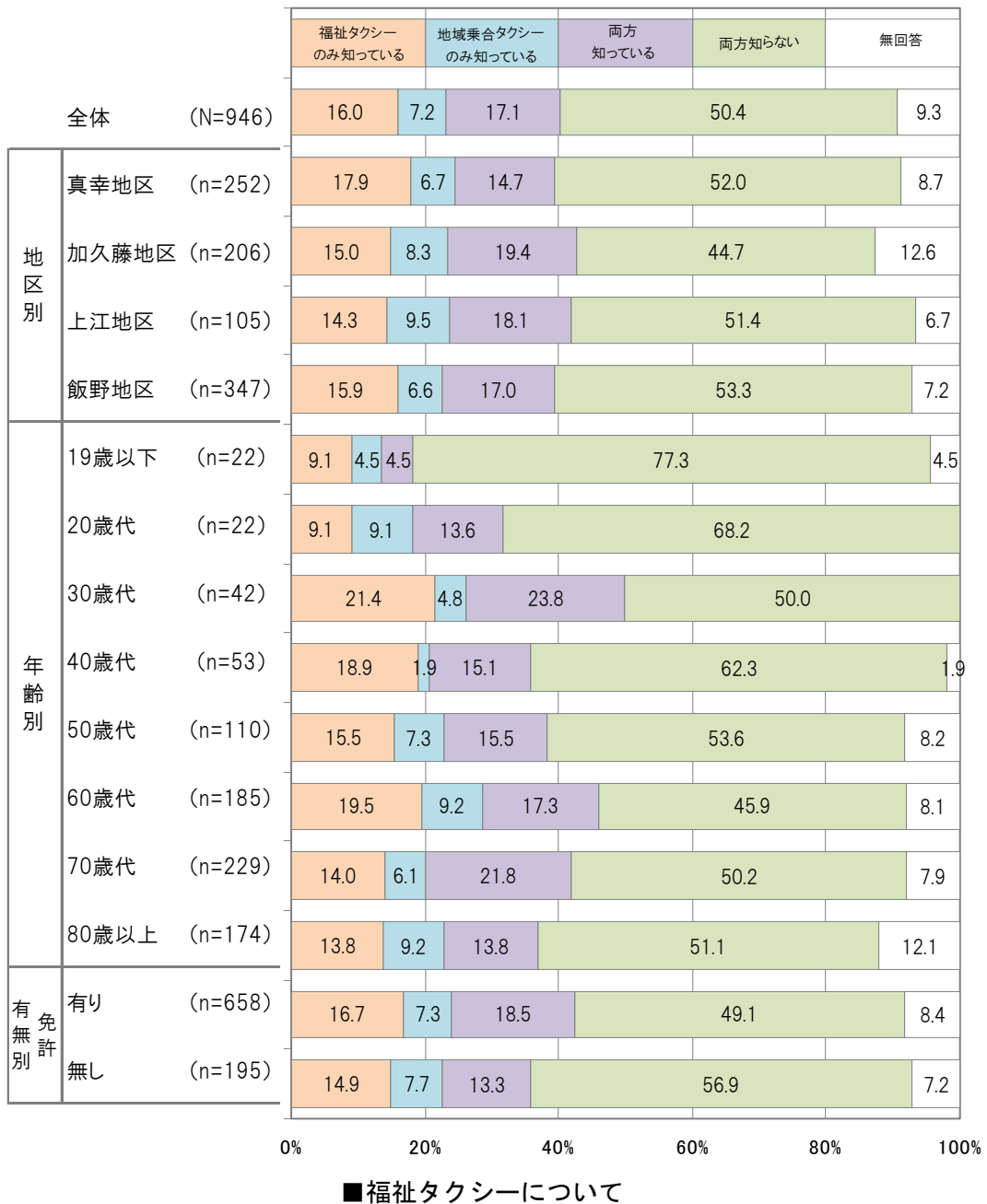
- ・外出する目的をみると、「買物」と回答した人が75.3%で最も多く、「通院」(47.7%)、「金融機関等の利用」(30.1%)、「趣味・娯楽」(27.8%)の順となっています。
- ・年齢別にみると、「買物」と回答した人は、「20歳代」を除く年代で最も高く、「通院」と回答した人は「70歳代」「80歳代」、「趣味・娯楽」は「30歳代」「40歳代」に多く見られます。



■外出する目的

◇福祉タクシーについて

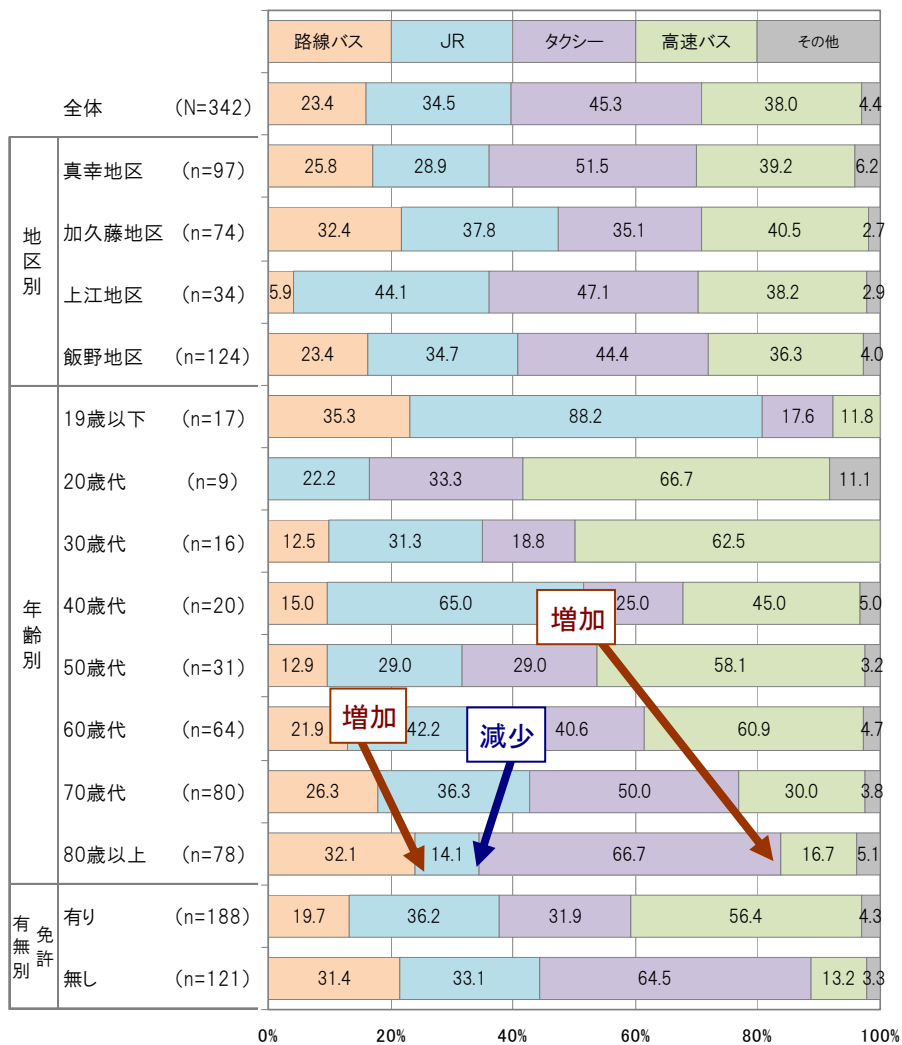
- ・福祉タクシーについての認知をきいたところ、「両方知らない」が約半数を占め最も多い結果となっています。「福祉タクシーのみ」の認知率は16.0%、「地域乗合タクシーのみ」の認知率は7.2%、「両方知っている」人は17.1%となっています。
 - ・年齢別では、「両方知っている」と回答した人は「30歳代」「70歳代」において2割強を占め多くなっています。
- ※地域乗合タクシーは、平成23年3月31日に廃止



④公共交通の利用状況（公共交通利用者のみ）

◇利用することがある公共交通手段

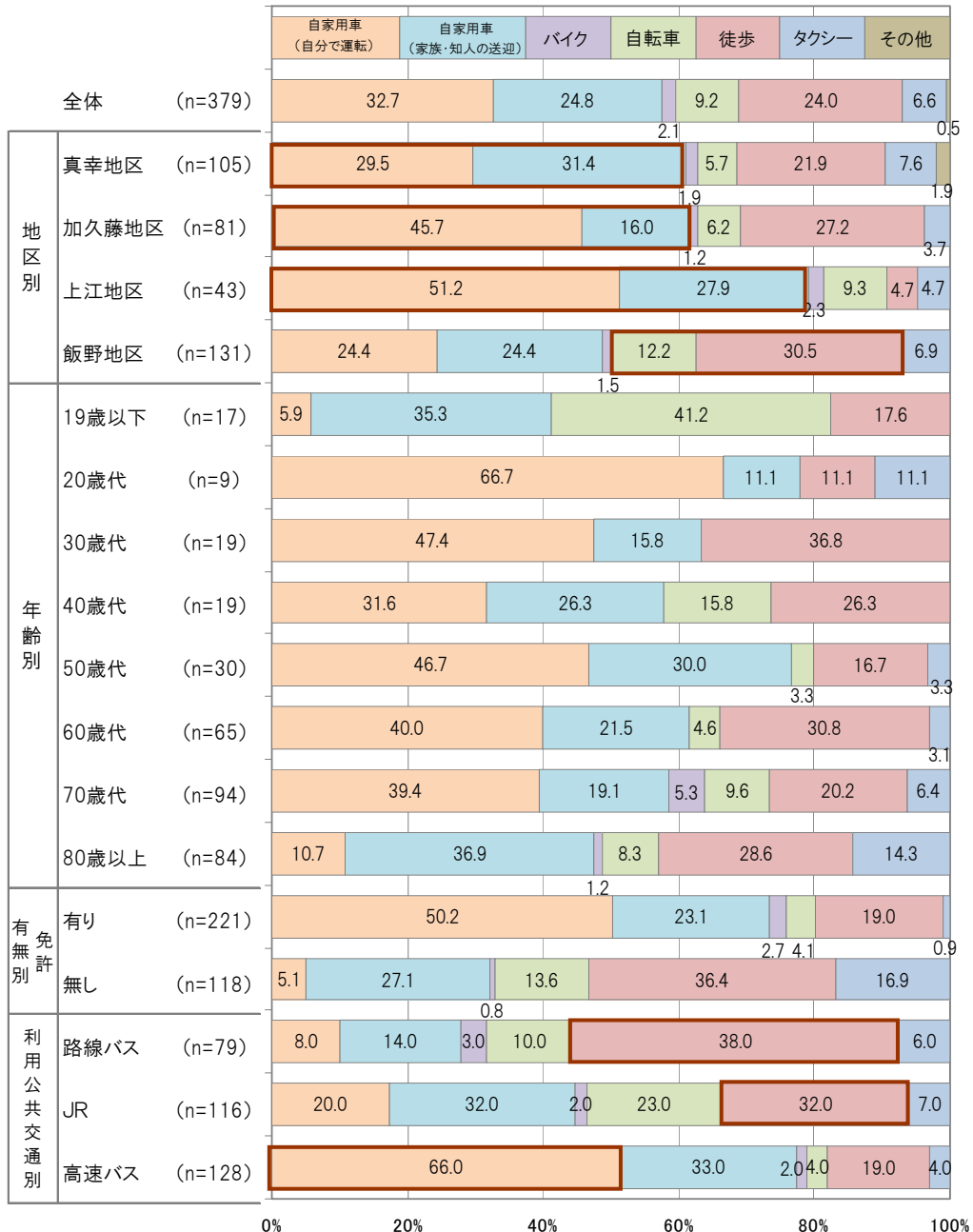
- ・公共交通を利用する人のみに、どの公共交通手段を利用するか尋ねたところ、「タクシー」と回答した人が全体の45.3%を占め最も多くなっており、次いで「高速バス」（38.0%）、「JR」（34.5%）の順です。
- ・居住地別にみると、「真幸地区」「上江地区」「飯野地区」において「タクシー」の利用が最も多くなっています。「加久藤地区」は「高速バス」利用が最も多くなっています。
- ・年齢別が高くなるにつれ、路線バス・タクシーの利用割合が増加し、JRの利用割合は減少する傾向にあります。



■利用することがある公共交通手段

◇バス停・駅までの交通手段

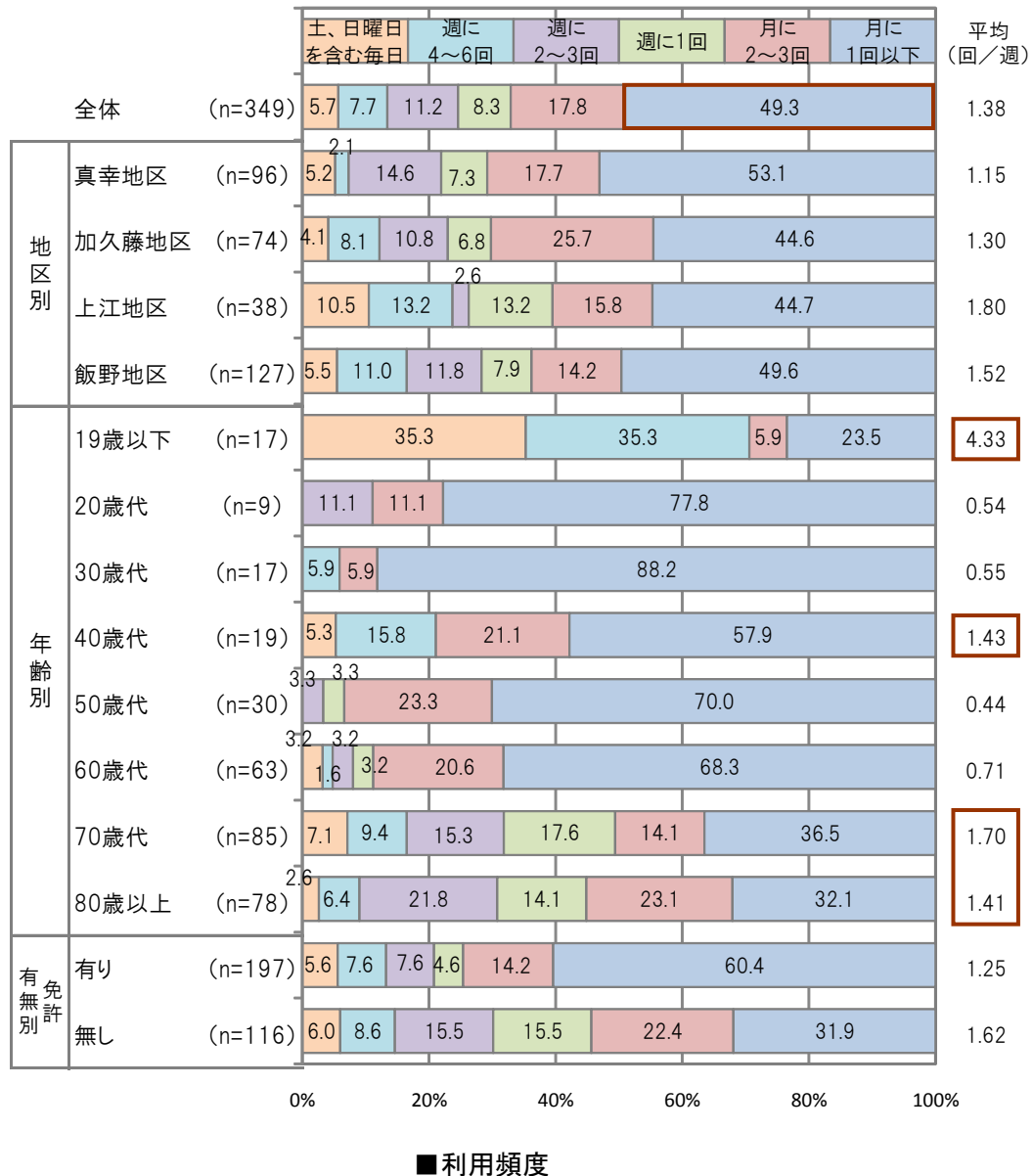
- ・バス停・駅までの交通手段をみると、「自家用車（自分で運転）」（32.7%）が最も多く、「自家用車（家族・知人の送迎）」（24.8%）も含めた「自家用車」利用率が全体の6割弱を占めます。
- ・地区別では、「真幸地区」「加久藤地区」「上江地区」は「自家用車（自分で運転）」が多く、特に上江地区は「自家用車（家族・知人の送迎）」も含めた「自家用車」利用率が全体の8割弱となっています。
- ・一方、「飯野地区」は「徒歩」や「自転車」が比較的多く、他地区と違う傾向がみられます。
- ・年齢別では、10代と80歳以上を除くすべての年代で「自家用車（自分で運転）」が最も多くなっています。10歳代は「自転車」、80歳以上は「自家用車（家族・知人の送迎）」がそれぞれ最も多くなっています。
- ・交通手段別では、路線バスおよびJRは「徒歩」（38.0%）が最も多く、高速バスは「自家用車（自分で運転）」（66.0%）が最も多くなっています。



■バス停・駅までの交通手段

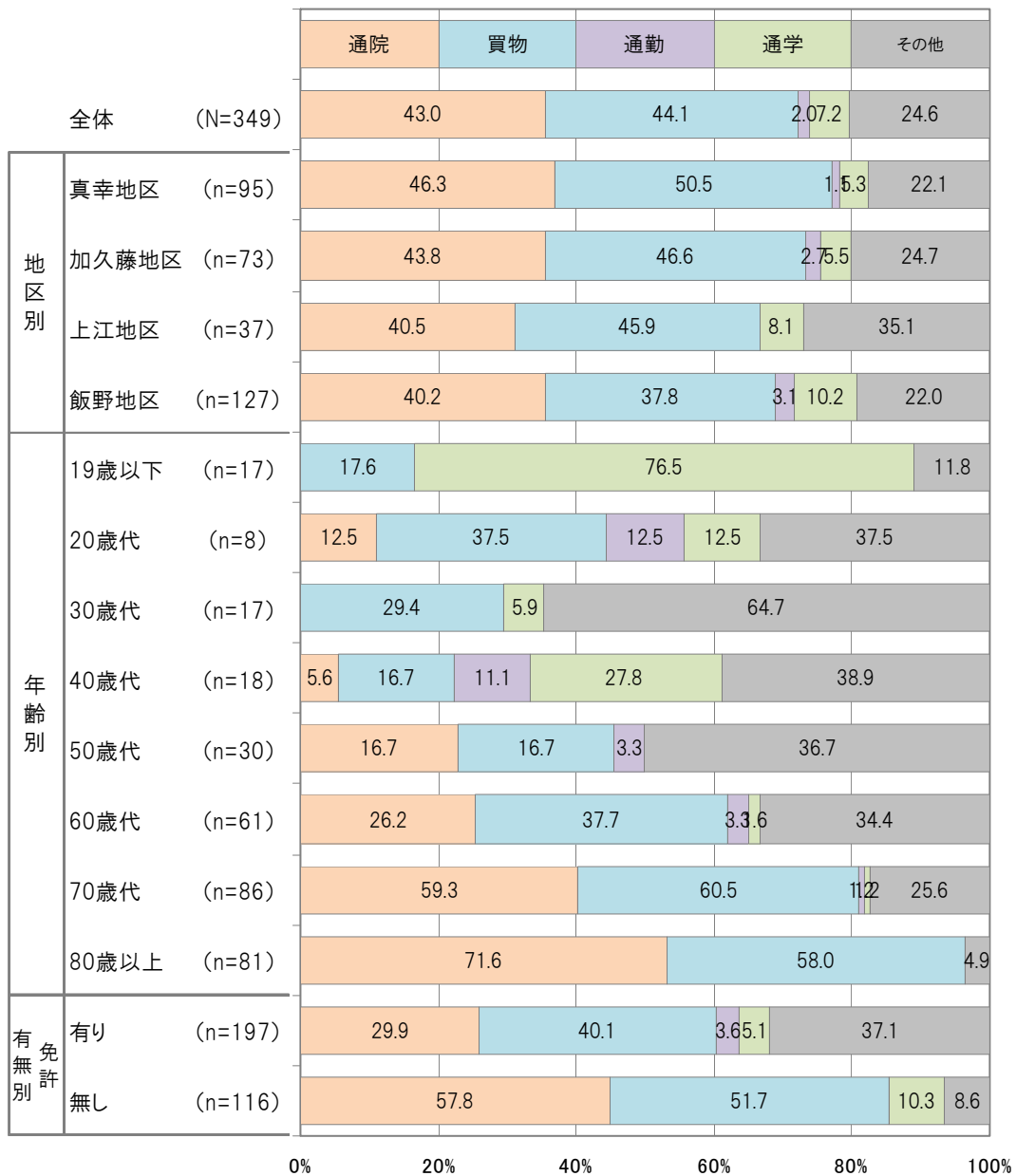
◇利用頻度

- ・公共交通の利用頻度をみると、「月に1回以下」が全体の約5割を占め最も多くなっています。
- ・地区別に平均回数をみると、最も利用が多かったのが「上江地区」（週 1.8 回）、次いで「飯野地区」（週 1.52 回）となり、最も利用の少ない「真幸地区」（週 1.15 回）とやや差がみられます。
- ・年齢別にみると、平均回数が週1回以上となったのは「10歳代」（4.33回）、「40歳代」（1.43回）、「70歳代」（1.70回）、「80歳以上」（1.41回）となっています。
- ・免許有無別で、免許無しは、「月に2～3回」程度利用する人が最も多くなっています。



◇利用目的

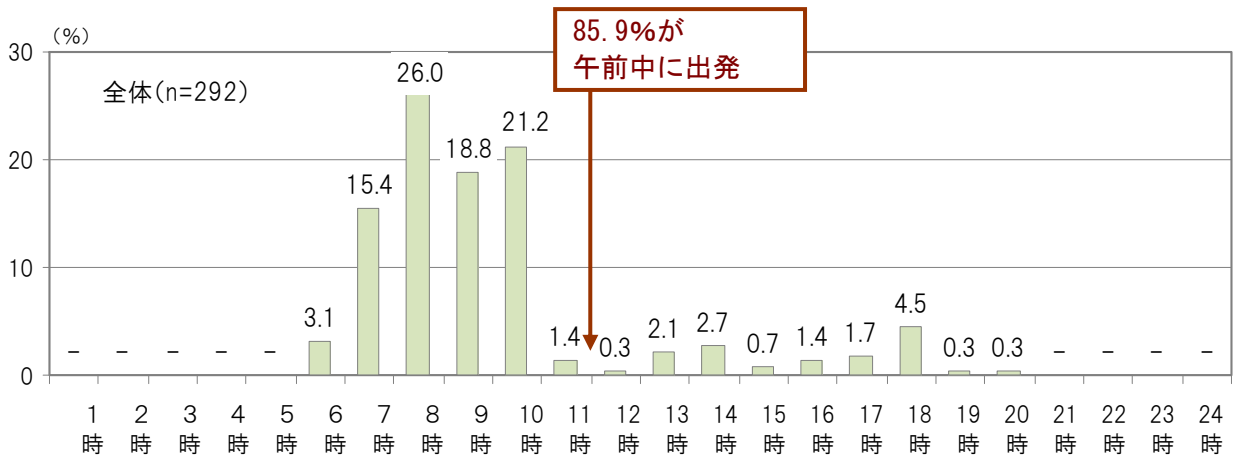
- ・公共交通機関の利用目的をみると、「買物」（44.1％）と「通院」（43.0％）がほぼ同じ割合を占め多くなっています。
- ・年齢別にみると、60歳以上になると「通院」「買物」目的での利用が多くなる傾向です。



■利用目的

◇出発する時間

- ・ 出発する時間をみると、「8時」が26.0%を占め最も多く、次いで「10時」(21.2%)、「9時」(18.8%)、「7時」(15.4%)となっています。
- ・ 午前(6時~11時)、午後(12時~24時)に分類してみると、午前(6時~11時)が全体の85.9%を占めており、午前中に出発する人が大半を占めていることがわかります。
- ・ 居住地別にみると、「上江地区」以外の地区は「8時」が最も多かったのに対し、「上江地区」は「9時~10時」が最も多く、やや出発時間が遅い傾向がみられます。

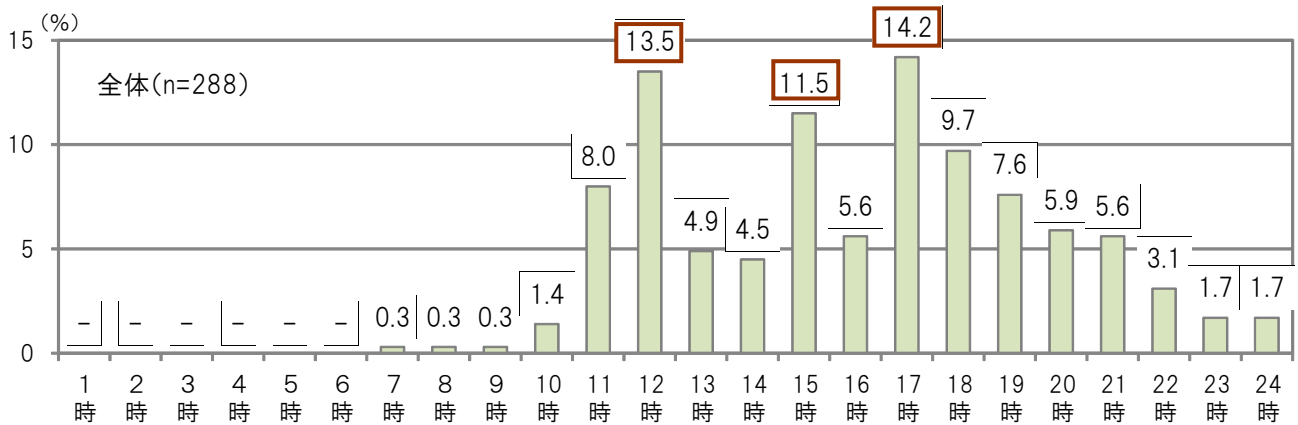


		サンプル数	1時	2時	3時	4時	5時	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時	22時	23時	24時
全体		292	-	-	-	-	-	3.1	15.4	26.0	18.8	21.2	1.4	0.3	2.1	2.7	0.7	1.4	1.7	4.5	0.3	0.3	-	-	-	-
居住地別	真幸地区	84	-	-	-	-	-	2.4	8.3	27.4	21.4	22.6	-	-	4.8	6.0	-	2.4	-	3.6	-	1.2	-	-	-	-
	加久藤地区	66	-	-	-	-	-	4.5	9.1	25.8	19.7	24.2	1.5	-	3.0	3.0	3.0	1.5	1.5	1.5	1.5	-	-	-	-	-
	上江地区	32	-	-	-	-	-	3.1	18.8	18.8	21.9	21.9	3.1	-	-	-	-	-	3.1	9.4	-	-	-	-	-	-
	飯野地区	100	-	-	-	-	-	3.0	25.0	28.0	14.0	17.0	2.0	1.0	-	1.0	-	-	3.0	6.0	-	-	-	-	-	-

■ 出発する時間

◇帰宅する時間

- ・帰宅する時間を尋ねたところ、「17時」が14.2%を占め最も多く、次いで「12時」(13.5%)、「15時」(11.5%)、「18時」(9.7%)となっており、時間帯にばらつきがみられます。
- ・「午前」(6時～11時)、「正午過ぎ」(12時～15時)、「夕方」(16時～19時)、「夜」(20時～24時)の大きく4つに分類してみると、「午前」は10.3%、「正午過ぎ」は34.4%、「夕方」は17.3%、「夜」は18.0%を占めており、正午以降に帰宅する人が多くなっています。
- ・その中でも、特に12時(13.5%)、15時(11.5%)、17時(14.2%)が多くなっています。
- ・居住地別にみると、「真幸地区」以外の地区は、「夕方」(16時～19時)に帰宅する人が最も多く、「真幸地区」は若干ですが「正午過ぎ」(12時～15時)に帰宅する人が多くなっています。



		サンプル数	1時	2時	3時	4時	5時	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時	22時	23時	24時
全体		288	-	-	-	-	-	-	0.3	0.3	0.3	1.4	8.0	13.5	4.9	4.5	11.5	5.6	14.2	9.7	7.6	5.9	5.6	3.1	1.7	1.7
居住地別	真幸地区	83	-	-	-	-	-	-	1.2	-	-	1.2	8.4	15.7	7.2	4.8	10.8	8.4	15.7	6.0	7.2	7.2	2.4	1.2	-	2.4
	加久藤地区	63	-	-	-	-	-	-	-	1.6	-	-	1.6	7.9	9.5	4.8	14.3	3.2	20.6	12.7	6.3	6.3	4.8	1.6	1.6	3.2
	上江地区	32	-	-	-	-	-	-	-	-	3.1	-	9.4	15.6	-	3.1	9.4	3.1	12.5	18.8	3.1	3.1	9.4	3.1	6.3	-
	飯野地区	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.0	11.0	12.0	2.0	5.0	12.0	6.0	10.0	8.0	11.0	6.0	7.0	5.0	2.0	-

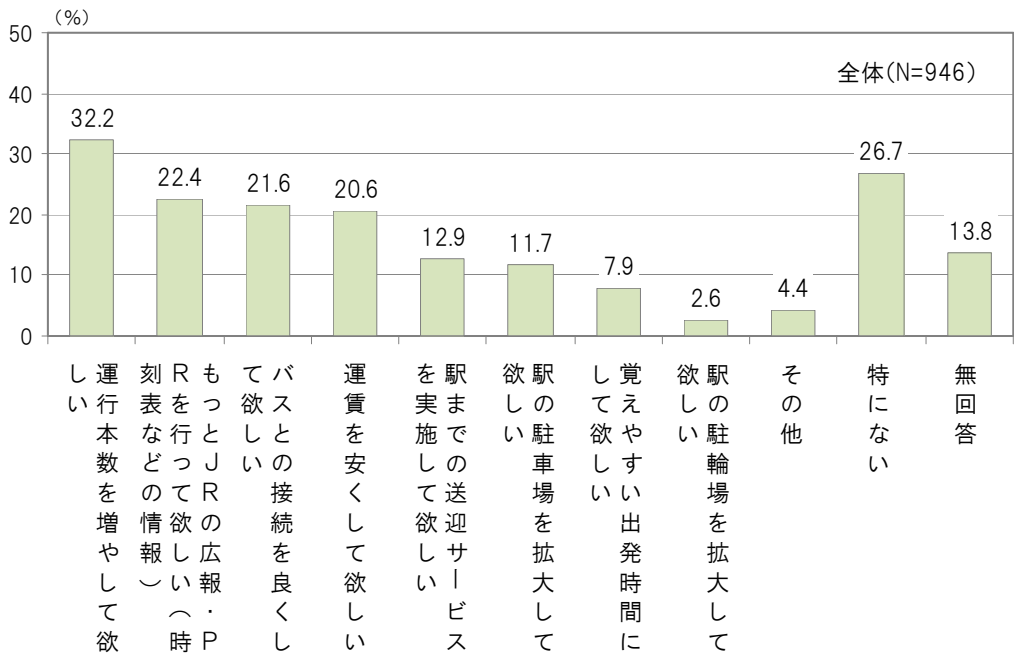
■帰宅する時間

⑤改善要望点

◇JRに改善してほしい点

・JRに改善してほしい点を見ると、「運行本数を増やしてほしい」(32.2%)が最も多く、次いで「もっとJRの広報・PRを行ってほしい(時刻表等の情報)」(22.4%)、「バスとの接続を良くしてほしい」(21.6%)の順となっています。

・居住地別にみると、すべての地区で「運行本数を増やしてほしい」が最も多くなっていますが、「真幸地区」は「運賃を安くしてほしい」、「上江地区」「飯野地区」は他地区に比べ「駅の駐車場を拡大してほしい」との意見も多くみられます。



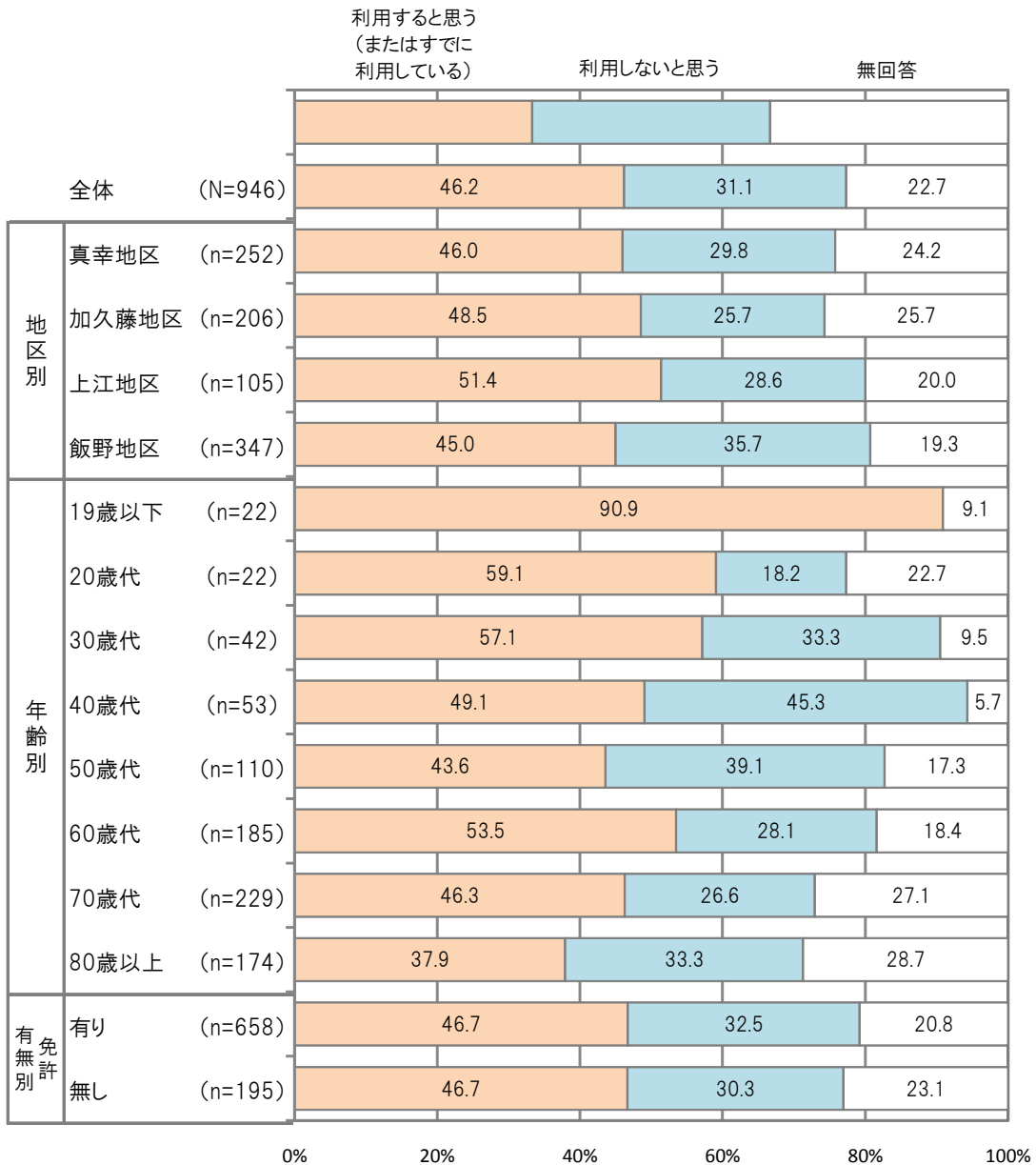
(単位:%)

	サンプル数	運賃を安くしてほしい	運行本数を増やしてほしい	覚えやすい出発時間に	バスとの接続を良くしてほしい	時刻表などの情報(時P)	もっとJRの広報・PR	駅の駐輪場を拡大してほしい	駅の駐輪場を拡大してほしい	駅までの送迎サービス	特になし	その他	無回答
全体	946	20.6	32.2	7.9	21.6	22.4	11.7	2.6	12.9	26.7	4.4	13.8	
居住地別	真幸地区	252	25.0	34.1	7.5	25.0	25.4	8.7	2.8	12.7	29.8	3.2	11.5
	加久藤地区	206	20.9	31.6	9.7	18.9	25.2	5.3	0.5	13.6	26.2	5.3	12.1
	上江地区	105	20.0	31.4	4.8	21.9	19.0	16.2	2.9	14.3	19.0	5.7	17.1
	飯野地区	347	18.7	32.0	8.6	21.0	21.0	16.4	4.0	13.0	26.8	4.0	13.5
年齢別	19歳以下	22	45.5	90.9	27.3	31.8	22.7	13.6	4.5	18.2	4.5	18.2	-
	20歳代	22	27.3	59.1	-	36.4	18.2	9.1	-	18.2	18.2	4.5	9.1
	30歳代	42	23.8	40.5	14.3	19.0	14.3	23.8	7.1	16.7	21.4	11.9	7.1
	40歳代	53	32.1	41.5	5.7	32.1	20.8	20.8	7.5	13.2	26.4	11.3	-
	50歳代	110	21.8	36.4	6.4	17.3	29.1	14.5	1.8	11.8	26.4	1.8	9.1
	60歳代	185	18.4	33.0	5.9	20.0	29.7	12.4	2.2	7.6	29.2	3.8	8.6
	70歳代	229	23.1	30.6	9.2	23.6	24.9	13.1	2.2	15.7	27.9	5.7	14.8
	80歳以上	174	13.8	21.3	6.3	21.8	9.2	5.7	1.7	14.4	28.7	1.1	23.0
有免許別	有り	658	21.3	33.1	7.6	20.4	25.4	14.9	2.9	11.4	28.4	4.3	11.1
	無し	195	21.0	33.8	8.7	25.6	13.8	4.6	1.5	18.5	23.1	5.6	16.4

■JRに改善してほしい点

◇改善された場合のJR利用意向

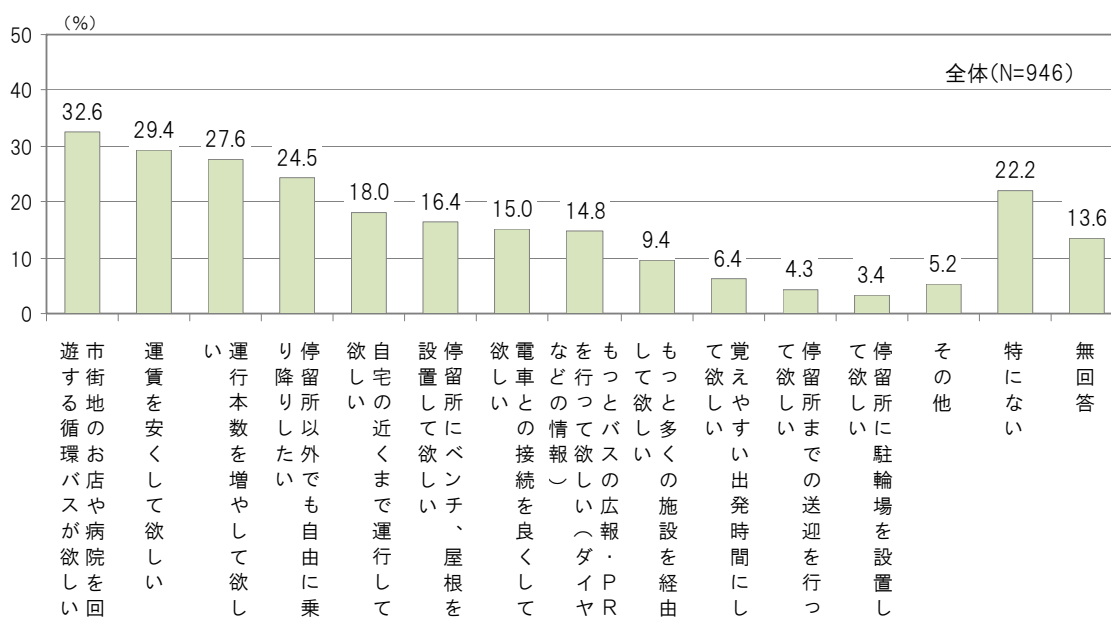
- ・改善された場合のJR利用意向をきくと、「利用すると思う（またはすでに利用している）」と回答した人が46.2%で多くなっています。
- ・地区別にみると、いずれの地区も「利用すると思う」の割合が高い結果です。
- ・年齢別では、若年層ほど「利用すると思う」と回答した割合が高くなる傾向がみられます。



■改善された場合のJR利用意向

◇バス交通に改善してほしい点

- ・バス交通に改善してほしい点を見ると、「市街地のお店や病院を回遊する循環バスが欲しい」(32.6%)が最も多く、次いで「運賃を安くして欲しい」(29.4%)、「運行本数を増やして欲しい」(27.6%)、「停留所以外でも自由に乗り降りしたい」(24.5%)となっています。
- ・居住地別にみると、「真幸地区」は「運賃を安くしてほしい」「もっとバスの広報・PRを行って欲しい(ダイヤなどの情報)」、「上江地区」は他地区に比べ「もっと多くの施設を経由して欲しい」がやや割合が高くなっています。



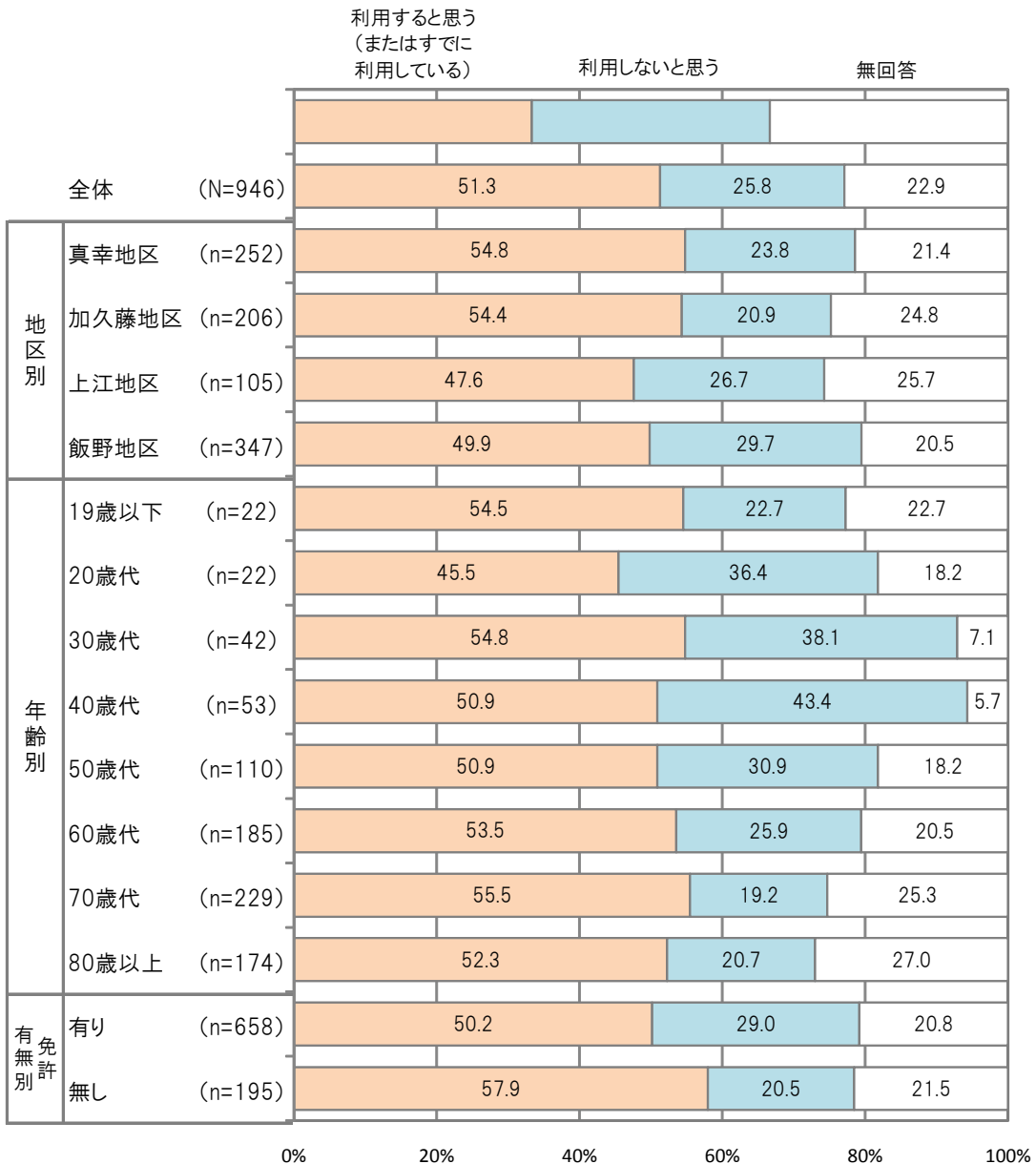
(単位: %)

	サンプル数	運賃を安くして欲しい	運行本数を増やして欲しい	覚えやすい出発時間にして欲しい	電車の近くまで運行して欲しい	自宅の近くまで運行して欲しい	もっと多くの施設を経由して欲しい	もっと多くの施設を経由して欲しい(ダイヤ・PRなどの情報)	もっと多くの施設を経由して欲しい	覚えやすい出発時間にして欲しい	停留所までの送迎を行って欲しい	停留所に駐輪場を設置して欲しい	停留所以外でも自由に乗り降りしたい	市街地のお店や病院を回遊する循環バスが欲しい	特になし	その他	無回答
全体	946	29.4	27.6	6.4	15.0	18.0	9.4	14.8	16.4	24.5	3.4	4.3	32.6	22.2	5.2	13.6	
居住地別	真幸地区	252	37.3	28.6	6.0	17.9	20.6	9.1	18.7	13.5	25.8	3.6	6.0	31.7	21.4	4.0	13.5
	加久藤地区	206	29.1	29.1	7.3	14.1	18.4	8.3	12.6	19.9	24.3	5.3	5.3	32.5	22.8	4.4	13.6
	上江地区	105	20.0	25.7	4.8	14.3	26.7	13.3	13.3	13.3	23.8	1.9	2.9	32.4	21.9	3.8	13.3
	飯野地区	347	28.0	27.1	6.9	13.8	15.0	8.9	14.7	18.2	24.2	2.3	2.9	33.7	21.9	6.9	13.3
年齢別	19歳以下	22	50.0	36.4	9.1	36.4	9.1	9.1	9.1	22.7	27.3	13.6	-	27.3	13.6	13.6	9.1
	20歳代	22	31.8	54.5	-	22.7	4.5	9.1	13.6	18.2	9.1	9.1	9.1	22.7	18.2	9.1	13.6
	30歳代	42	33.3	40.5	9.5	11.9	16.7	9.5	14.3	14.3	19.0	2.4	-	33.3	21.4	7.1	4.8
	40歳代	53	30.2	45.3	5.7	32.1	13.2	7.5	17.0	17.0	22.6	1.9	1.9	28.3	24.5	5.7	1.9
	50歳代	110	31.8	28.2	3.6	12.7	18.2	7.3	16.4	13.6	22.7	2.7	0.9	32.7	28.2	8.2	9.1
	60歳代	185	27.6	26.5	5.4	14.6	17.3	11.4	21.1	11.9	23.8	2.2	4.3	34.6	23.8	6.5	11.4
	70歳代	229	33.6	27.9	8.3	16.6	21.4	8.3	17.5	20.5	29.7	5.2	4.8	37.1	21.8	3.5	11.4
	80歳以上	174	25.3	21.8	5.2	9.8	21.3	10.9	4.6	17.2	25.3	1.7	7.5	32.8	16.7	2.3	23.6
有無別	有り	658	28.9	29.3	6.7	15.5	16.9	8.5	17.0	16.3	23.9	3.5	3.3	30.9	25.7	5.2	10.3
	無し	195	34.4	26.7	5.6	14.9	22.6	11.3	8.7	19.5	27.7	3.1	7.7	40.0	14.4	5.6	17.4

■バス交通に改善してほしい点

◇改善された場合のバス交通利用意向

- ・改善された場合のバス交通利用意向をきくと、「利用すると思う（またはすでに利用している）」（51.3%）が、5割超を占めています。
- ・居住地別、年齢別にみても、「利用すると思う（またはすでに利用している）」と回答した人が多くなっています。



■改善された場合のバス交通利用意向

3. 地域公共交通利用実態・ニーズ調査

⑥自由回答

・路線バスのルート変更等の改善要望のほか、福祉タクシーの利用条件の緩和や、高速バスえびのインター停留所への自家用車によるアクセス向上などの意見が寄せられています。

自由回答	地区名	年齢	大字名
《新たな公共交通を導入して欲しい》 52件			
・病院やスーパーに行く場合など乗合バス(小型)みたいなものがあると便利。・駅の周りに商店街がない。・バス停までが遠い。	加久藤地区	50歳代	灰塚
小型バスを市内全域に循環してほしい。	加久藤地区	50歳代	栗下
運転出来なくなったら市内循環及び病院、買物(小林までぐらい)にバスがあればと思う。又、何人かで乗合タクシーを利用したいです。	加久藤地区	60歳代	灰塚
現在は車を運転し、どこへでも自由に行けるが、高齢になり車に乗れない時の事を考えると地域にふれあい福祉バス等があると助かると思う。	加久藤地区	60歳代	永山
今は自分で車を動かしますが、いずれ買物、通院等で公共交通機関に頼る時が来ると思います。小回りのきくマイクロバス、ワゴンタイプが幹線を廻ってくれば良いですね。	加久藤地区	60歳代	小田
えびの市にUターンして来て一番思ったのは、交通の事です。小さいバスでもいいのであらゆる所を1日3回位でも廻ってもらえるようなシステムを取ってほしいです。これからはますます老人化して来るので、そこを考えてほしいです。	加久藤地区	60歳代	小田
公共施設(市役所、農協、郵便局)等を経由する。また、商店、病院、(市立病院)等を回る。本数が増えたら利用する人も多くなると思う。	加久藤地区	70歳代	栗下
買物、病院通いのための交通手段。	加久藤地区	70歳代	栗下
今は自分で運転していますが、(85才)あと2~3年で出来なくなると思います。その時はバスの利用が多くなりますから、循環バスがほしいです。	加久藤地区	80歳代	栗下
後、1年~2年位は自家用車で通院や買物に行けますが、それ以後は無理と思います。足も不自由なので、山麓線にも是非バスを運行してください。	加久藤地区	80歳代	永山
山麓線をバスが通れば利用することになると思う。	加久藤地区	80歳代	永山
バスはばあちゃんなどが病院に行くために苦勞するので、できれば安くで、循環バスを出してほしいと思った…。また雨などで雨の中で行くのはきついで、近くでも楽をしたいと思いました。年寄り住みやすい環境にしてほしいと思います。	上江地区	10歳代	上江
山麓線にバスの運行があったらいいと思う。	上江地区	60歳代	末永
両走道を作ってもらいたい。(山麓線)。	上江地区	60歳代	上江
運転出来ない方や飲酒運転防止のため、公共交通を運行してほしい。公共交通は小型マイクロバスや10人乗りワゴン車等、地域やその日の利用人員によって車種や台数を変更できるような柔軟な運用を可能にできる組織で、JR、バス交通の送迎(接続)も考慮できる市民の足にしてほしい。運賃は利用する人に有利なようにポイント制を取り入れる。	上江地区	60歳代	池島
白鳥方面はバスは来ません。できるなら月に2回位、朝来て夕方帰るような買物や病院に薬等取りに行けるバスがほしいです。	上江地区	70歳代	末永
1週に3回デイケアを利用しています。なので、それ以外の外出はありません。2週に1回小林のデイサービスを利用しています。病院と銀行以外に行くのに、タクシーを利用しています。回遊バスがあるとありがたいです。	上江地区	80歳代	上江
山麓線はバスが通っていないのでわかりません。	上江地区	80歳代	上江
高齢者が通院しやすいように週に数回でもえびの市内の各病院前の停留所まで運行したらどうだろうか！大河平⇄飯野駅⇄飯野⇄加久藤⇄京町。	真幸地区	50歳代	向江
公共交通の便利が悪いので高齢になっても免許の更新をいつまでもして車に乗らざるを得ないので、もう少し田舎の方にも1日1往復でバスを乗り入れてもらえるように願います。	真幸地区	60歳代	昌明寺
高齢になった場合は自家用車を運転したくないので、地域周回バスの運行がほしい。	真幸地区	70歳代	西川北
山間部の方にも湧水町のような小型バスの巡回があると大変助かると思います。	真幸地区	70歳代	浦
私は足が弱くなり、歩くのに非常に痛いので病院やお店を回遊する循環バスを今後は要望致します。家族が殆ど出かける際は連れて行きますが、不在の場合は宮崎交通のタクシーを利用しています。乗務員が親切ですので、安心して乗っています。	真幸地区	70歳代	柳水流
私は民生委員で現在ではまだ元気で自家用車も自由に利用して不便は感じませんが、1人暮らしの高齢者の方は現在貰っている月2枚のタクシー券では病院通い、買物では足りません。地域乗合バス(小型)を午前1、午後1にほしいものだと思います。	真幸地区	70歳代	岡松
えびの市亀沢は以前はバスがありましたが、京町でストップです。出来れば京町~吉松までもバスがあれば年寄り、足の悪い人等、困っております。自分はまだ車に乗れますので、どうぞバスが通るようにお願い致します。	真幸地区	80歳代	亀沢

3. 地域公共交通利用実態・ニーズ調査

自由回答	地区名	年齢	大字名
これからは高齢するので、バス交通にしてもらいたいです。1日2~3回でいいのでお願い致します。	真幸地区	不明	内堅
人家の多い所コース延ばして頂きたい。	真幸地区	不明	西川北
えびの高原や白鳥温泉、京町温泉など、えびののいい場所に車以外(自家用)で行きやすくなったら良いと思います。	飯野地区	10歳代	原田
現在は自家用車を運転して用を済ませているが、高齢化と共に公共交通に頼ることになります。えびの市内の循環バスが運行されるとありがたいです。	飯野地区	20歳代	原田
学生の頃、バス通学しておりました。屋根のない停留所もあり、とっさの雨など大変困りました。また、台風で学校のある日に通らないことがあり、情報がほしいところもありました。隣の市では乗合バスというのがあり、幅広く使えるだろうなあと思います。宮交さんと連携して実現されるとありがたいです。(安全です)	飯野地区	30歳代	大河平
駅まで8キロ。一番近いバス停まで3キロちょっとはあります。現在車の免許があるし、元気でありますが、10年後はどうなっているか分からない。その時を思うと各地区をバスが廻ってくれると助かるかなーと考えますね。	飯野地区	50歳代	坂元
免許のない私にとってはとても不便です。高齢の母を抱えているので、どこへ行くにも公共交通機関を利用しないといけないのに、とても不便です。母を病院へ連れて行くにも毎回タクシー代往復払うのも、遠くへ行くにも(例えば京町の病院とか)バスも国道しか通ってなくて…。確かに今は一家に2,3台という車社会ですが、これから高齢化社会になって行くのでもう少し便利にしてください。	飯野地区	50歳代	原田
私達の所にはバスが来なくなって何年でしょうか。80才になりましたけど、車に乗らざるを得ません。今年が切り替えですが？	飯野地区	50歳代	大河平
運賃を安くして、本数を増やして循環バスで小型バスなら利用者の方も多くなると思います。いつかはバス、タクシーを利用する年齢になります。その時まで改善されていたら嬉しいです。今の方々のためにも早めに検討してみてください。	飯野地区	50歳代	原田
市長公約の市内循環バスの導入を早期にして頂きたい。	飯野地区	60歳代	坂元
自分たちもいずれ車に乗れなくなる時がくるので、循環バスがあればいいと思います。	飯野地区	60歳代	原田
どこかの市町村で見ました。小さなバスが戸別に乗せて帰りは又迎えに行くそうです。私の地区には高齢でもまだ運転できたり、若かったりで困っている人はそういないと思いますが、地域によっては病院に行くのも大変困っている人がいると思います。こんなバスがあれば利用度が高いのではと思います。	飯野地区	60歳代	大河平
市で保有しておられるマイクロバスを手離されてバス会社、タクシー会社の車を利用する事で民間活用に益する事になるのではないのでしょうか。費用対効果の上からもご検討頂ければと思います。	飯野地区	60歳代	大明司
えびの堀浦にバスが運行していたのに、なぜですか？今から先、年寄りが増えると考えます。できれば運行してほしい。	飯野地区	70歳代	大河平
大河平、堀浦にバスを回してほしい。	飯野地区	70歳代	大河平
小型バスで市役所、病院前行のバスがほしいです。	飯野地区	70歳代	原田
市内(地域)巡回型のバス運行の設置を特に高齢者のために要望します。(午前、午後各1回等)	飯野地区	70歳代	原田
隣の小林ではコミュニティバスが週2回来るので、助かると友人から聞く。そんな車があれば自分も運転せずバスを利用すると思う。	飯野地区	70歳代	大河平
私達ももうすぐバス、タクシーを利用する年が来ますので、なるべく循環バスがほしくなります。市長さんの話では24年度には考えるとの事でした。	飯野地区	70歳代	杉水流
小林市みたいな市内循環バスがあると良いと思う。	飯野地区	80歳代	原田
生活に密着した交通機関の運用を希望します。	飯野地区	80歳代	原田
私の場合年も年で90才近く、ディサービスに通うのがやっつとで、まだ若い元気のある方は交通手段が必要じゃないかと思えます。	飯野地区	80歳代	坂元
小林のように巡回バスをお願いします。それ以外にありません。	飯野地区	90歳代	大河平
大河平にも早くバスを運行してほしいです。お願い致します。	飯野地区	不明	大河平
現在家の近くをバスが通っていない。バスを通してほしい。	飯野地区	不明	大河平
JR、バスを利用して、駅、停留所から目的地まではタクシー等を利用しなければならないため、自家用車の利用が多くなる。	飯野地区	不明	原田
安い運賃で必要な場所へ回遊する小型バス等があれば年寄りは助かると思います。	飯野地区	不明	前田

3. 地域公共交通利用実態・ニーズ調査

自由回答	地区名	年齢	大字名
《車の運転が出来なくなったら利用すると思う》 37件			
年を取ると、車に乗れなくなる。買物や病院に行けなくなるのを心配している。特にバス交通は良いと思います。	加久藤地区	70歳代	榎田
今は自分で運転出来るが、やがては利用すると思う。	加久藤地区	70歳代	栗下
現在は元気で自分で運転でき、他の交通手段を取っておりませんが、車に乗れなくなる年齢になったら改善してほしい点は数多く出てくると思います。	加久藤地区	70歳代	栗下
自家用車の運転が何時までできるか。しかしバスに乗ると酔ってしまうし、どうしようもありません。市外(小林の病院)にはJRを使うことになるでしょう。	加久藤地区	70歳代	永山
あと何年車の運転ができるか心配です。	加久藤地区	80歳代	東長江浦
夫84才、妻84才、今の所主人が運転(車の)をしています。あと1、2年で運転できなくなったらどうしようかと今から心配です。バスと駅の連携で通院、買物、金融機関(市役所、農協)など心配をなく出かけられるよう交通が便利になってほしいです。※宮交バスの京町線(小林～京町)は絶対になくさないで下さい。	加久藤地区	80歳代	小田
高齢者で運転免許を返納した人に対して運賃割引等して返納を進めてほしいです。地域によって扱いに差があるのは不公平です。	加久藤地区	80歳代	小田
現在まだ自分で運転しているので、実感を感じませんが、運転免許を返上したら本当に困るだろうと思う。駅や宮交バス等絶対運行が減らないようにと願っています。	加久藤地区	80歳代	栗下
いずれバス、JR利用の日が来るかと思いますが、まだ自分で自由に走り回れるので、運賃、本数、時間等無知です。しかし市内循環が走るようになると便利になるかと思っています。	加久藤地区	不明	榎田
今はまだ自分で車を運転して自由ですが、いずれは運転できなくなった場合はバス、汽車を利用する時がきます。その時、週何度か病院、店など回ってもらえるバスがあれば便利ではないでしょうか。	加久藤地区	不明	湯田
今は学生を除く家族は一台ずつ車を持っていますので、特にJRバスの乗車は考えていません。でも学生は小林より下り(帰る時)を増してもらい、朝通学時の車輛を1両増やしてもらいたいそうです。	加久藤地区	不明	栗下
自家用車だけで電車、バスは利用することがありません。	上江地区	60歳代	上江
近い将来必ず自分では車を運転する事が出来なくなり、公共交通を利用するしかなくなります。その時が来るのでとても心配です。	上江地区	70歳代	今西
年を取ると車の運転ができなくなる。心配している。各区の公民館を巡る巡回バスなどを一日も早く運行してほしいと思います。	上江地区	70歳代	池島
現在は自家用車を使用しているので、必要ないが、運転出来なくなったら利用すると思う。	上江地区	70歳代	池島
将来、自家用車を使えなくなったら、タクシーやJRを利用することになると思います。	真幸地区	50歳代	岡松
現在では車の運転ができるので公共交通は必要ないが、将来運転不能になれば是非必要になる。公共交通機関の更なる充実を願いたい。	真幸地区	60歳代	向江
JR、バス交通使用した事がありませんので?いずれ使用すると思います。	真幸地区	70歳代	向江
今の所自家用車を運転できますが、後期高齢者なのでいずれは公共交通機関を利用することになりますのでそのつもりで回答しました。	真幸地区	70歳代	島内
車の運転ができなくなったら、公共交通を利用したい。	真幸地区	70歳代	昌明寺
現在は自分で車の運転出来るが、何年か先は公通(バス又はJRI)にお願いしないといけない時が来ます。便利良くしてほしいです。	真幸地区	70歳代	岡松
今は車の運転をするので、不便さを感じないが、年を取って車の運転が出来なくなった時の事を考えたり、今のお年寄りの方の事を考えると便利な方がいいし、又、町にあった新たな交通手段が色々考えられたらと思う。	飯野地区	40歳代	原田
老後、運転に不安を抱く時期にさしかかった時、運転出来なくなった場合(事故等の心配、病気、ケガをした場合)買物や病院に行く手段が少ないと考えると(金銭別に考えて)田舎では不安要素が多すぎて、都会へ移り住みたくります。老人が多くなる昨今、公通手段は(不便)問題だと思います。	飯野地区	40歳代	原田
JR、バスについては今は車も運転出来るし、利用した事はないが、年を取っていくと利用する機会も増えてくると思います。後、子どもの遠足で駅までの送迎をした時、駐車場が狭く困りました。	飯野地区	40歳代	原田
元気なうちは(運転出来る)しないと思う。	飯野地区	40歳代	原田
現在の年齢では自家用車を利用できるけど、高齢になると公共交通も利用しなくてはならないと思っています。その時点で利用が安易に出来れば良いと思っています。	飯野地区	50歳代	大河平

3. 地域公共交通利用実態・ニーズ調査

自由回答	地区名	年齢	大字名
今の所自動車の運転も何とかできるので、不便さは感じていないが、これから年を取り運転が出来なくなった時のことを考えると買い物や通院などで不安である。	飯野地区	60歳代	原田
二人とも高齢となり、運転が出来なくなった時、バス、タクシーに乗ると思います。1家族に一台車があればどうしても自由に乗り入れ出来る車となる。	飯野地区	60歳代	原田
今は車に乗れます。でもこの先買物など自由に出来なくなると思うと淋しいですね。今はまだ元気です。ミニバレーなどをしています。	飯野地区	70歳代	杉水流
現在は運転できるので自家用車で用は足せる。しかし運転できなくなる時期が到来する。その時の対応をどうするか心配している。	飯野地区	70歳代	原田
JR、バス交通共、免許返納したら利用したいと思う。	飯野地区	70歳代	杉水流
今は運転出来るけど、やがて運転が出来なくなったら必ず利用する。昔のように午前、午後にはバスの交通があったら老人の方が通院や買物に利用出来る良いと思う？	飯野地区	70歳代	大河平
何処へ行くにも自家用車ですので、得に気付かない点が多くって申し訳ございません。	飯野地区	70歳代	大明司
今の所近くは運転できますが、後、2、3年で交通機関にお世話になると思います。今後運転に気を付けて頑張りたいです。	飯野地区	80歳代	原田
将来、自分達も年を取って、車に乗れない日が来るので先行きが心配だ。	飯野地区	不明	大明司
74歳の現在は自家用車を使用しているが、近い将来運転が出来なくなる日の来る事を思うと非常に不安になります。今は郵便局や銀行のATMを使用したり、日常の買物、市役所の用事総て自分でしているが、宮崎と更に遠方になると子ども達をいちいちあてにも出来ないような気がします。	無回答	70歳代	不明
今では主人がどうかこうにか運転しているけど、もう年も83才ですので、どうかこうにか病院なんかにも行っておりますが、この後行けないようになればどうすればいいのか厄介な事になる。その時を考えるとどうなる事やら。その時になれば利用すると思う。	無回答	80歳代	不明
《停留所の位置や構造の改善》 8件			
バス停まで遠いので利用する事はないと思います。(今後)	加久藤地区	60歳代	東川北
駅やバス停までの距離が4K~5Kmのため利用できない。当分は自家用車で対応する。	加久藤地区	70歳代	西長江浦
乗降の多い停留所に屋根付きの待合場所の検討して下さい。	加久藤地区	70歳代	小田
年を取ったのでバイクも恐ろしいです。乗合バスが自宅の近くに停留所があると助かります。バスに乗ろうと思っても遠いです。	加久藤地区	80歳代	東川北
バスも通らず駅まで遠すぎます。	上江地区	不明	末永
大明司の脇村の停留所は乗る所と降りる所が5分程離れています。希望としては郵便局の停留所の近い所に停留所を造ってもらいたいです。宮交さんにはお願いしておりますが、中々実現しません。よろしくお願い致します。	飯野地区	80歳代	大明司
バス停まで歩くのが遠いが、乗る人が多ければ利用すると思う。	飯野地区	90歳代	大明司
えびの高速バス(待合所)バス停をきれいにしてほしい。	飯野地区	不明	大明司
《JRの改善》 8件			
JRやバスは必要な交通手段です。ですが、そこまでが(駅、停留所)遠かったりして、足が遠のきがちです。高齢者も足があれば利用するのが増えるのではないのでしょうか。	加久藤地区	20歳代	永山
JRについては駅から中心部へのアクセスがないため利用に結びつきづらい面がある。(使い勝手が悪い)路線バスについては交通弱者を救済するのであれば自由に乗り降りでき、お店や病院に直接アクセスできるようにしてほしい。市費を多く支払っているので有効に活用してほしい。	加久藤地区	40歳代	小田
鉄道設備全般の信頼性向上に精進してもらいたい!	加久藤地区	50歳代	永山
大雨等によるJRの見合わせ運休があると高校生にとってはすごく不便です。そんな時バス等の手段があると助かると思います。今現在JRを使っている通学が多いですが、運賃の面や時間等の正確さ等、運行本数があるとバスを利用する事も多いかなと思います。JRには朝の列車を6時台に1本ほしいなと思います。	真幸地区	40歳代	岡松
JRの車輛を清潔で外面もきれいで誰もが乗りたいと思う電車を走らせてほしい。	真幸地区	70歳代	向江
市内で少し遠くまで買物に行きたいが、運賃が高いため、いつも同じ店になってしまうので楽しめない。JRを利用したいが、駅から商店街まで少し遠い。	飯野地区	60歳代	杉水流
吉都線の利用するために吉都線全駅、全市町で協力してイベントを行い吉都線の必要性を確認する事が必要です。	飯野地区	60歳代	原田
JRの灯りがほしい。(加久藤)。	飯野地区	70歳代	大明司
《高速バスの改善》 8件			
・高速バス停について。高速バスを利用していない人が無断駐車をしている。高速バスの本当の利用者が駐車場に停められない。小林の駐車場のよう20分間は無料、以後は有料のように出入り口を整備すべきです。・タクシーの初乗りが他市のように270円、390円のように安くと利用しやすい。	真幸地区	60歳代	岡松
高速バス停の階段など、定期的に清掃してほしい。	飯野地区	60歳代	原田
福岡行きのバスでの飯野バス停での乗車を認めてほしい。	飯野地区	70歳代	原田

3. 地域公共交通利用実態・ニーズ調査

自由回答	地区名	年齢	大字名
《フリー乗降区間の導入》 4件			
停留所以外で自由に乗り降りが出来れば、利用する人が増えるのではないのでしょうか。私はほとんど車ですけど。	真幸地区	60歳代	岡松
停留所をフリーにしてどこからでも乗り降りしたら利用者は多くなると思うけど・・・？	真幸地区	60歳代	向江
停留所以外でも乗り降り出来る循環バスがほしい。病院に行くのに、交通費がかかって困っています。	真幸地区	不明	岡松
少子高齢化で今は運転して遠くまで行けど、高齢になって運転出来なくなった時に買物、病院など行けるように。停留所まで行くのが大変になるので、黄色いハンカチでも上げたら自由に乗り降りできるようになるといいと思います。霧島の若い人と同居の人はいいが、1人暮らしで回覧板もタクシーで行ったり(歩けず)、取りに来てもらっても気を使うのでいい、たまたま見回りで行った時には届けたが、買物もタクシーで4000円かかるとのこと。娘が時に届けてくれるがAコープまでタクシーで行ってきたと言ってます。不便しています。	飯野地区	70歳代	原田
《バス車両の改善》 11件			
現在運行されているバスの利用者状況を見ていると、満員の状態はなく2~3人が多い。マイクロバス程度の大きさの車両で路線の何処でも自由に乗降ができるように料金も市内一律にすれば利用も増えると思います。	加久藤地区	60歳代	栗下
大きなバスが人が乗車していないので運行しているはもったいないと思う。家でも軽にする人が多い中、考えたらどうでしょうか。	加久藤地区	不明	東川北
大きいバスでなくても小さなバス(宮崎の方で見る)の方が病院の方に回るとかでしてもらえそう？	上江地区	60歳代	末永
バスの乗り降りの時、入口が高くて不便です。もう少し低いといいのですが。	真幸地区	70歳代	向江
学生、高齢者には絶対に必要な交通手段です。若い人は勤めがあるので送り迎えは出来ない家庭も多いでしょう。又、子ども達も良い思い出が残るでしょう。私達は今は運転出来ませんが、通院する頃はお世話にならざるを得ないでしょう。一度中止されれば再度は無理でしょう。車社会になり赤字で大変。マイクロバスのな中型車はいいかでしょうか？	飯野地区	60歳代	原田
個人的には利用していないが、高齢化が進みどうしても必要な人にとっては、もっとバスの小型化と停留所を増やしたら利用者が助かるのではないかと思う。	飯野地区	60歳代	大明司
バス運行の拝見して数人しか乗車していないのに、いつも大型バスを運行しているのは、その訳が知りたいものです。無駄な気がしますが、私の感覚が鈍いのでしょうか？	飯野地区	60歳代	原田
大型バスを廃止し、小型バス又は小型自動車に変更し、節約低料金を。えびのインターから飯野中心部まで400円は高い。	飯野地区	70歳代	原田
・小型バスで運行本数を増やしてほしい。・乗りロステップを低くして乗車上下の際のグリップをしっかりと物にしてほしい。	飯野地区	70歳代	杉水流
小型バスで良いと思う。	飯野地区	80歳代	原田
特に高齢者は腰痛、膝痛などあり、乗り降りの段が高いので苦痛に思う。	無回答	70歳代	不明
《障害者福祉タクシーの条件緩和について》 15件			
できることならタクシー券を月4枚位ほしいです。	加久藤地区	70歳代	東長江浦
今現在思うように歩く事ができませんので、家族の手助けが必要な為、バスJRは無理ですので行政から家族の介護に対する理解が必要です。	加久藤地区	80歳代	東長江浦
以前は一人暮らしの人に対してタクシー券が配布されていましたが、近くに子ども達がいると配布されていません。子ども達も勤めがあったり車に乗れなかったり、病気の場合親の送迎が出来ない現実もあります。市県民税を払っている以上、平等に年齢制限をし、全部に配布してほしい。	加久藤地区	90歳代	栗下
記録させて頂きましたのは、今日現在の心境です。後期高齢者の母親(私)と50代の重度身体障がい者の未来を心配しています。今の所どうにか運転をしています、いつまで運転出来るか不安です。車椅子共乗せられる福祉タクシーの充実をお願いします。	加久藤地区	不明	小田
地域乗合タクシーは誰が考えたのか理解できない。同じ日、時間に5人、10人と集まる訳がない。集合場所まで地域によっては1キロ位ある人はざらで、道路沿いに家がある訳ではない。庭から庭のタクシー券を個人に配布されなければ何の役にも立たない。	真幸地区	60歳代	向江
タクシー料金をもっと助成してほしい。(利用しやすくしてほしい)	真幸地区	80歳代	水流
かなりの山間部に住んでいるので、何か改善されたとしても利用は困難と思われれます。同居人がいるという理由で受けられないサービスがありますが、その同居人は日中仕事で留守をするわけですから、高齢者には厳しい状況があります。なので、近くに住む家族が仕事を辞め、通院などの送迎や介護をせざるを得ないことになります。困ったものです。	真幸地区	80歳代	浦
家に車があっても親が徒歩しかない人にもタクシー券を下さい。	飯野地区	40歳代	原田
介護5で寝たきりの実母と夫の二人を一人で老々介護しています。二人を病院に連れて行く時は介護タクシーをお願いしています。介護タクシーを利用する時は予約制です。これから先、介護タクシーがいつでも使えるように介護タクシーが増えていってくれればと願っています。	飯野地区	70歳代	杉水流
福祉タクシー券はせめて市内ではなく、地区内に子どもがいる人はもらえないにしてほしい。	飯野地区	70歳代	杉水流

3. 地域公共交通利用実態・ニーズ調査

自由回答	地区名	年齢	大字名
1人では移動困難でタクシー以外利用できない。	飯野地区	80歳代	原田
えびの市福祉タクシー券(高)をもっと増やして下さると助かります。お願いします。	飯野地区	80歳代	原田
上記の件につきましては今の私は高齢であり、足に障がいがありますので介護タクシー以外では利用出来ません。	飯野地区	80歳代	原田
高齢者世帯にはタクシー券の補助をお願いしたい。市内に子どもがいても仕事があるのでなかなか休めない。近くに個人の店があるが、値段が付けてなかったり、腐っていたり、高いので、いくら使ったか分からない品物には値段をはっきり付けてほしい。「豆腐」などを売っている車です。白のワゴン車。買物が困る。	無回答	70歳代	不明
タクシー券の補助を受けていたが、急病の時に使う予定で10枚位残していたのに、急に市内に子どもがいてとの事で返してほしいと言う事で返した。「配布された分は事前に連絡して使って下さいの言葉がほしかった」子ども仕事や家庭(子ども)の事などで、農業などの仕事でないと送迎は不可能である。タクシー券の補助も考えてほしい。バス、電車も近くにない。	無回答	70歳代	不明
《料金の改善》 8件			
バスを利用するであろう年代を集中アンケートする(車を持っていない)効率的に運用ができるのではないかと。JRは好きです。車とJR半分半分で通勤したいぐらいです。ただコスト面を考えると車の方が、良いので半分(半月)定期や三分の一定期を検討してもらい割引してもらえると利用しやすくなります。	加久藤地区	40歳代	栗下
もう少し運賃を下げてください。今は不景気です。	上江地区	70歳代	上江
自分で運転が出来なくなるとバスかタクシーになると思います。宮崎市は年金によって宮崎市～小林まで100円でこれと聞きますが、えびの市は出来ないもののでしょうか。	真幸地区	40歳代	西川北
JR、バスの利用促進運動するとともに、特典付き、乗車券を発行する。	真幸地区	60歳代	向江
高速バスの乗車券を京町待合所でも買えるようにして下さい。	真幸地区	60歳代	島内
今の所JR利用は旅のための利用。バスは状況によって日常に使いたい。(通勤、買物等)だが、やはり運賃が高いのはネック。えびの市～宮崎、鹿児島市内への運賃は高すぎると思う。	飯野地区	50歳代	原田
高齢化社会がいよいよ本格化してきました。高齢者の無職者は年金のみで節約の極みの中で生活しています。交通機関は本当に弱くなった足代わりですので、JRとかバス等の代金を下げてください。実現してください。	飯野地区	70歳代	原田
老人世帯で車もない私達はバスが唯一の交通手段となるため廃止にはしてほしくない。(本数が減っても)バスの無料券などの検討はないのでしょうか。(低所得者世帯はバス代も支払うのは大変です)	飯野地区	80歳代	坂元
《ダイヤの改善》 11件			
運行本数を増やして頂けたら都会みたいに利用する人が増えると思う。	加久藤地区	20歳代	小田
都市部と比較し、公共交通機関の運行本数が少ないのは分かるが、1時間に1本ではあまりにも少なすぎで、時間制限のある方にとってはとても厳しいものであると思う。また増やすことにより、利用する人も増加すると思う。	加久藤地区	20歳代	栗下
・ただ運行している感が強く、JR、宮交ともに集客(利用しやすい)を考えているとは思えない。・特にバスは閑散であるにも関わらず遅延が度々、乗務員の態度も良いとは言えず、不快な思いをすることがある。バスの最終便が早く利用しづらい。	加久藤地区	30歳代	永山
飛行機(宮崎空港、鹿児島空港)との接続関係を夜は特に配慮してほしいです。一便増えるか、出発バスの時間を一寸遅らせてほしい。たいいてい夜の便は着陸が遅れますので仕事のやりくりが困るんです。	加久藤地区	40歳代	栗下
バスの小型化を計り、JRとの連絡を取りやすくしてほしい。高齢者、障がい者、小さな子ども、妊婦の方等乗りやすくしてほしい。時間及び本数を増やすか、情報がほしい。	加久藤地区	60歳代	永山
都会に比べると交通の便が悪いので自家用車が必ずと言って良いほど、必要となっていますが、この自家用車の維持管理費が家計の負担となっています。宮崎は給与金額が他県と比べると低いにも関わらず、車が必要となっています。この矛盾をどうにかしてほしいものです。JR等便数を増やして頂けると大変助かります。又は都会等との格差を負担して頂きたい。	真幸地区	10歳代	向江
1時間間隔である程度どこでも乗り降り自由に出たら(午前7時～午後7時頃まで)もっと利用者が増えると思う。※15名以内の乗り物で。	真幸地区	60歳代	岡松
高速バスで鹿児島、福岡、熊本に行くのですが、飯野高速バス停の駐車場は車を停める所があるのですが、「えびの高速バス停」そばに停める駐車場は車を停める所がありません。こんな時宮交バスを使用したいのですが、高速バスとの時間がありません。出来る事ならば、時間を高速バスに合わせただけだと嬉しいです。	飯野地区	50歳代	原田
都城18:33発の吉都線の車輛を増やしてほしい。都城発の吉都線の終電は2両も足りない。	飯野地区	70歳代	大河平
バス、電車の空港到着時刻を考えてほしい。例、小林宮交バス停発AM6:03-空港着7:55を利用するとJAL(よく利用する)AM10:15発にしか間に合わない。AM8:00発に間に合うと非常に利用しやすいと思います。	飯野地区	80歳代	原田
JRの乗換えが接続を良くしてほしい。	無回答	70歳代	不明

3. 地域公共交通利用実態・ニーズ調査

自由回答	地区名	年齢	大字名
《子供や高齢者に配慮してほしい》 9件			
高齢の方が利用しやすいように改善されればいいと思います。	加久藤地区	40歳代	栗下
私の家のまわりを見ても年寄りが多く、車に乗れなくなっている人が多くなってきてます。私もその一人です。	上江地区	70歳代	上江
なかなか難しいとは思いますが、年寄りのために気軽に利用できるバス、JRがいいと思う。親はいつもタクシーを利用しているから・・・タクシーもサービスとかもあるので、高いから・・・。	真幸地区	50歳代	昌明寺
いよいよ高齢者で通院が第1。次が買物に是非便利なJRを期待したい。とにかく早急な利用が出来る事を切望します。便利な公共交通手段ができれば高齢者の運転を早く終わりにしたい。	真幸地区	80歳代	西川北
高齢者の交通手段を考えて頂けると高齢者の行動制限もなくなり、交流が生まれ活性化する事により、様々なメリットがあると思う。(痴呆、自殺含め)又、高齢者のみならず、扶養する家族も安心して働けるのでは？公共交通が充実しないと高齢者ドライバーに免許返上も言い難い。	真幸地区	80歳代	島内
高校などの通学、子ども達の為に改善してほしい。	飯野地区	30歳代	原田
孫が中学2年生、友達とJRで小林に行きます。日曜日に時々外出します。駅まで徒歩で30分位かかります。将来高校はJR、バス通学になる予定です。(はっきりわかりませんが)受験次第ですが？父親が突然死亡しまして、これからは高校～通学が気になっています。今後は高齢になりますので、バス交通利用する予定です。	飯野地区	60歳代	原田
孫の通学にバスがない。約4、5キロあり。(前はバスはあった)	飯野地区	60歳代	大河平
JRやバス交通は老人や車のない人にとっては大変重要なものなので、これから先もこういったアンケートに基づき、もっと便利で利用しやすく改善してほしいです。	飯野地区	70歳代	原田
《情報提供の強化》 7件			
市民の皆さんが利用するようPRしてほしい。	加久藤地区	70歳代	小田
時刻表が家庭に届くようにしてほしい。(昔は新聞に入っていたが数年前から入らなくなった)	真幸地区	40歳代	内堅
バス時刻表(高速他)を各戸に配布していただきたいと思います。たまの休日は宮崎、鹿児島方面に行ってみたくと思いますが、時刻表がなく近くの駅まで見に行かなくてはなりません。本数が少ない為、なかなか時間が合わなくて利用しにくいと思います。	真幸地区	50歳代	島内
(娘より)70歳代の母はまだしっかりしているので、自分の事は全て自分でしています。が、えびの市以外の車の運転は常に心配です。しかしその内車が使えないからと行動範囲が狭くなるのもどうかと思うので、自家用車と同じようにバスやタクシーを利用させるつもりです。なのでバスやタクシーの広報PRをしてもらい、運転して行くより、バスの方が楽かもと思えたらいいですね。	真幸地区	70歳代	柳水流
JRを利用(子ども)していますが、天候によっては汽車が遅れたり、止まったりする事があって送り迎えが大変です。できれば各駅に掲示板があって、時間の変更など待っている人に教えてほしいです。	飯野地区	10歳代	原田
今回のアンケートで初めてえびのに宮崎交通バスがあることを知りました。もっとバスの広報、PRを行ってほしい。近所で車を持っている人が乗り合わせて買物に行ったり、美味しい食事の店に行っています。それはそれで楽しいのですが、バスがよく運行していたら、年配の方も出る機会も増え、活気のある市へと発展してゆくように思えます。	飯野地区	50歳代	原田
バスセンターにいる人のサービス券などの詳しい説明提示。笑顔がない。	無回答	30歳代	不明
《その他》 38件			
・現状、公共交通は全くと言うぐらい利用していない。・休日等に乗ってみたいと思う企画がもっとあって良いと思う。	加久藤地区	40歳代	栗下
運転免許の無い家族の場合、条件が良ければ利用される方が多くなると思う。	加久藤地区	50歳代	西郷
毎回空席ばかりの路線バスを見ると胸が痛みますが、たまに利用させて頂く私にとって宮交バスがなくなるような事があれば大変困ります。バス会社に感謝しております。	加久藤地区	60歳代	栗下
老人になれば足が不自由になり、行きたい所にも行けない。仕方がないので諦めるよりほかないと思います。	加久藤地区	80歳代	東長江浦
市としては何を対策したいのか。	加久藤地区	不明	小田
設問の5、6について公共交通の中とはいうものですが、現状は利用者の数が少なく採算割のようですが、当協議会といへども交通機関にアンケートの内容を実現して頂く要求は無理だと考えますが、何のためにアンケート調査でしょうか。	加久藤地区	不明	小田
高速バスを利用して(BS切符で予約)姫路まで行きました。八代から新幹線に乗り、約3～4時間全く疲れもせずに用事ができました。便利です。高速バス(宮崎交通)で鹿児島に行きました。料金の支払いの方法が分からず運転手にひどい事を言われ、宮交に苦情のTELをしました。高齢者などにはゆっくりわかりやすく言葉や方法を教えてもらわないと乗車する気をなくします。しかし自分も何回か乗ることで方法を覚えたいと思いました。	上江地区	60歳代	上江
アンケート調査の集計内容を開示願います。(広報紙などでOK)	上江地区	60歳代	上江

3. 地域公共交通利用実態・ニーズ調査

自由回答	地区名	年齢	大字名
タクシー券の配布を役所の方で配布されています。しかし便利は便利ですが、えびの市でも市街地のお店、病院を回遊する循環バスがほしいとの議会でも検討中と思いますが、バスを走行させて経費面はどうなのか良く検討してほしい。やはり皆様の税金ですので。(一部の意見を聞くのはいかがでしょうか?)	上江地区	60歳代	上江
バスが運行されない地区だから今の所何とも言いようがない。	上江地区	不明	末永
父…こういう物に時間、労力を費やすより他にやることあるでしょう。これも税金でしょう。担当の〇〇、〇がお金を(自腹)出してこのアンケート用紙を作ったのですか?市役所職員は信用ならん。市民のために働け。コネで市役所に入った連中はダメ職員だ。公務員改革を早くやるべきである。	真幸地区	10歳代	内堅
特にありません。	真幸地区	30歳代	向江
とにかく田舎の交通は不便だ。高齢運転車の事故が多いが、足がないから仕方なく運転してる高齢者もいる。どうにかすべきだと思う。	真幸地区	30歳代	向江
今現在は特にありません。	真幸地区	60歳代	向江
70歳以上の老人について希望者全員に地域乗合タクシーの制度を拡大してほしい。	真幸地区	70歳代	内堅
80才代になります。天気が良ければバイクに乗りますけど、雨が降ったり、病院に行く時、夜はバイクに乗れないでタクシーにて行きますが、1人ですのでバイクにて行けません。病院に行く時に困ります。	真幸地区	70歳代	浦
特になし。	真幸地区	70歳代	内堅
高齢で病院外はあまり外出する事がありません。	真幸地区	80歳代	水流
特にありません。	真幸地区	80歳代	向江
私が自由に走ったり、歩いたり出来る健康な体であれば、質問の5と6の各2は、1. 利用すると思うに丸印をつけるでしょう。が、寝たきりの現状では改善を求めているながら、仕方のない答えて申し訳ありません。	真幸地区	80歳代	岡松
現在、京町共立病院に入院中。	真幸地区	90歳代	向江
通学(高校)のためにはJRが大変便利です。これからも利用しやすいJRであってほしいです。小林駅から各高校へのバスがあれば(小林、秀峰、西校)便利です。	飯野地区	10歳代	原田
埼玉からえびのの来て車がないと何処へも行けない。不便です。	飯野地区	10歳代	原田
・安く10人程度乗れる車のレンタル。又は・小さな車で10件で2~3台を1時間〇円で借りれる車等。都会のようにシェアできたらな〜と希望ですが…。	飯野地区	30歳代	原田
このアンケート調査が本当に役に立つのか疑問である。是非やるなら活かしてほしい。	飯野地区	30歳代	原田
このようなアンケートをされる位ならアンケートのかかった費用分、バス停のベンチや駅の駐輪場の拡大などに役立ててほしいです。	飯野地区	30歳代	原田
外注しなくても内部で処理できないの?	飯野地区	40歳代	原田
現在の公共交通機関は時代に即していないので、一回全廃止にしてみたら、地域の必要に応じた公共交通を再構築する方が、全てのことにあってははっきりしてくると思う。例えば廃止にしてもその分はタクシーなどが代替してくれるはず。できれば行政もしっかりと関わって、年間予算を出して、利用者が本当に利用しやすい運賃(たとえば都市の市電並み、200円以下)でとか、利用パスカードなどを発行して半年間あるいは1年間は何回利用しても良いとか、とにかく利用して喜んでもらってまた利用したいと思わせる工夫が、今後は必要だと思う。地域タクシーとの兼ね合いのこともあるが、利用時間は朝6時から夕方6時までの日中に限り、そのかわり夜間はタクシー会社をお願いするなど新しい視点で取り組み、工夫する気持ちがひよっとしたら地域の活性化にも繋がるのではないかなと思う。	飯野地区	50歳代	大河平
アンケート内容にあった年齢の方を対象としてほしい。車を利用している今では(私達)本当に改善してほしい点はわからないと思う。予想でしか記入できない。	飯野地区	50歳代	大河平
口蹄疫復興応援プレミアム商品券が発売されましたが、市内の大型店舗(サンキュー)やAコープ店等で利用できるようにしてほしい。	飯野地区	50歳代	原田
このアンケートの結果次第で公共交通が良くなるのであればいくらでも協力します。でも何も変わらなければ血税のムダ使いです。ムダな事をするために高い税金を払えません。所詮お役所仕事だ…と言われぬように、しっかり計画を立てて実行に移して下さい。	飯野地区	50歳代	大明司
市全体に活気が全く感じられない。自然味は十分にありますが、活動の中心点(地)はどこか不明! 転居してきて1年あまりですが、市が暗いイメージ!! しかない。のに、えびの市で遊ぶ?? て感じしかありません。交通機関と連携した地域活性化してほしい。(参加型)	飯野地区	50歳代	原田
都会ほど公共交通の利用頻度が高いのは利便性だと思う。田舎ほど自家用車でないと不便なのは利用頻度が悪いゆえの悪循環と効率重視の決可と思う。公共交通をもっと利用したいが、自家用車を使わざるを得ない現実がある。二フトリが先かタマゴが先か。	飯野地区	50歳代	大明司
現在自家用車の利用が主体で(九州内)あり、JR、宮交等の利用について考えたことがありませんでした。自家用車を処分した時(高齢等)には考えられること「何か協力出来ることがあれば」と思います。	飯野地区	60歳代	大河平
私達の地区にはバスは通っていません。	飯野地区	70歳代	原田
半年前まではタクシーを病院に使ってました。歩けなくなり今は利用なし。	飯野地区	90歳代	原田
・えびの市全体の活気をもっとほしいと思います。・市職員の方々がもっと市民の人とのふれあいの場があればいいのではないのでしょうか?・市内の乗合バスを運行してもらいたいです。	飯野地区	不明	原田
5. 6の設問に対してですが、全て改善してほしいですが、現在住んでいる周りを考えた時、人口的にも利用者が少ないので改善されても無駄、無理のような気がします。	飯野地区	不明	大明司

3-2. グループヒアリング調査

(1) 調査概要

①調査目的

- ・えびの市の各地域において、日常生活における特性(生活圏や移動手段など)や、新たな交通手段への要望に関する生の声を把握し、公共交通の再編に向けた課題を抽出することを目的として実施。

②調査対象

- ・各地区の代表者として、区長および民生委員を対象とする。
- ・対象とする地区は、飯野地区、加久藤地区、上江地区、真幸地区から、郊外の交通空白地と市街地近郊の地区を抽出。
- ・区長と民生委員の地区は重複させず、計 14 地区を抽出。

③調査日

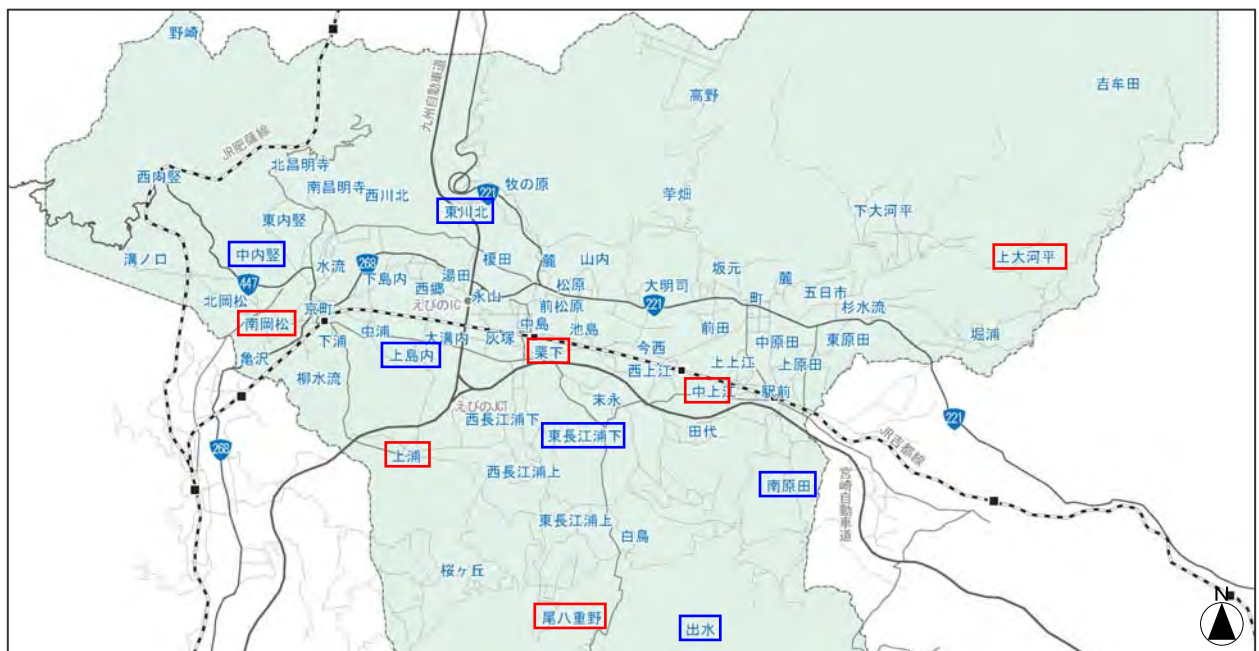
- ・区長：平成 23 年 11 月 7 日
- ・民生委員：平成 23 年 11 月 10 日

④調査方法

- ・対面式のグループヒアリング

■調査対象地区一覧

地区名	分類	区長	民生委員
飯野地区	郊外	下大河平地区	-
	市街地	-	南原田地区
上江地区	郊外	-	出水地区
	市街地	中上江地区	-
加久藤地区	郊外	尾八重野地区	東長江浦下地区
	市街地	栗下地区	東川北地区
真幸地区	郊外	上浦地区	中内堅地区
	市街地	南岡松地区	上島内地区



■調査対象地区位置図

(2) 調査結果

各地区の移動の実態や問題点について様々な意見があり、路線バスなどにも歩行が困難な人のために福祉タクシーの条件を緩和して欲しい、などの声がありました。

①飯野地区の状況

◇生活圏域

- ・通院、買物は飯野市街地周辺が主ですが、小林市や宮崎市、人吉市などの市外に行くこともあります。
- ・くろきセンターの移動販売を利用している人も多いようです。
- ・病院はえびの市立病院やえびの第一クリニックなどが多いです。

◇交通不便者の状況

- ・親戚や近所の方に送ってもらうケースが多いようです。
- ・下大河平や霧島などは隣家までが遠いので、乗り合せての移動が難しい状況にあります。
- ・民生委員に送迎を頼まれる方がいるが、安全面などを考えると不安があります。

②加久藤地区の状況

◇生活圏域

- ・日常的な買物は、長谷ストアー、Aコープかくとう店、松栄が多いですが、飯野や京町に行くことも多いようです。
- ・市内での診察、治療が難しい場合は人吉総合病院まで行くこともあります。

◇交通不便者の状況

- ・近所で話し合っ、自家用車に乗合せて行くことがあるようです。
- ・市街地の方では「特に不自由はない」という人もいます。
- ・中には民生委員が送迎を行っている人もいます。

③上江地区の状況

◇生活圏域

- ・買物はAコープやタイヨーを利用することが多いが、くろきセンターの移動販売を利用する人もいます。

◇交通不便者の状況

- ・往路は近所で自家用車に乗り合せ、帰りはタクシーという動きが見られます。
- ・市街地の方では、タクシー料金がそれほど高額にならないことから「特に不自由はない」という人もいます。

④真幸地区の状況

◇生活圏域

- ・日常的な買い物について、加久藤地区に近い地域は、Aコープ かくとう店などに行きますが、南岡松地区など京町周辺の方はプラッセダイワやアタックスなどに行きます。
- ・病院はえびの共立病院や京町共立病院、渡辺内科医院が多いです。

◇交通不便者の状況

- ・上島内には福祉タクシー利用者が6人ほどいます。
- ・歩行が困難な人などのために、タクシー券の適用範囲を拡大してほしいと思います。
- ・東内壱や西ノ野、岡元などに住んでいる人たちは本当に苦勞をしているようです。
- ・真幸だけではなく、大河平や尾八重野あたりにも手当てが必要なのではないでしょうか。

⑤新たに公共交通を運行すると仮定した場合の留意点

- ・10人乗り程度のワゴンで運行するほうが良いのではないのでしょうか。
- ・地域によって定期路線と予約制路線を使い分ける方法が良いと思います。
- ・行政区毎に巡回路線を設定して循環バスを運行する方法があります。
- ・高齢者の運転免許返納に対し、割引などの対策が必要です。



3-3. 事業者ヒアリング調査

(1) 調査概要

①調査目的

- ・公共交通を運行する上での課題点や、公共交通の利用状況等を把握し、地域の課題や実施施策の実現可能性等を探ることを目的として実施。

②調査対象

- ・市内で営業している路線バスおよびタクシー事業者(3社)。

③調査日

- ・平成23年11月7日～平成23年11月21日のうち3日間

④調査方法

- ・対面式のヒアリング

(2) 調査結果

公共交通の利用実態や、以前のバス路線の状況等の他、今後えびの市の公共交通体系を構築していく上でのポイントについての意見がありました。

①路線バス事業者

◇利用者の特性

- ・特に利用の多い停留所は、飯野、京町待合所、共立病院前、松原、大河平、大明司、えびの市役所前となっています。
- ・最近では、国際学校の生徒の利用が増えています。

◇以前運行されていた路線について

- ・以下の路線が運行されており、現在は廃止されています。
- ・飯野駅～上江駅～白鳥温泉(3便/日)：平成12年10月1日廃止
- ・飯野駅～飯野小～大河平(3便/日)：平成17年4月1日廃止
- ・京町～吉松(4便/日)：平成22年4月1日廃止
- ・飯野山麓線(3便/日)：平成22年10月1日廃止

◇将来、地域公共交通を導入する場合に注意すべき点

- ・主要な病院の前まで運行した方が良いと思われます。
- ・循環バスを運行する場合、ダイヤは30分～40分程度が良いです。ルートとしては主要地方道30号、53号(山麓線)あたりの需要が高いのではないのでしょうか。
- ・地域の公共交通としては、運行は必ずしも毎日でなくても良いと思います。



②タクシー事業者

◇所有車両

・小型車両がメインですが、3社のうち2社は10人乗りのワゴン車両を所有しています。

◇営業範囲

・各事業者が、えびの飯野駅周辺、えびの駅周辺、京町温泉駅周辺それぞれを営業圏域としています。

◇市民の利用状況

・高齢者の通院や買物が主であり、午前中の移動がほとんどとなっています。
・利用客の7割以上は市内での利用となっており、地区外に行く人は少ないように思います(飯野地区から加久藤地区へ買い物に行く など)。
・利用人数としては、集団ではなく個人での利用者が多いです。
・利用頻度は、大体週に2～3回が多いです。

◇タクシーを使った観光行動

・昔は、えびの高原への観光客がタクシーで移動することがありましたが、現在はほとんどいません。

◇新たな地域公共交通事業(乗合事業)への協力体制

・費用面などの条件が折り合えば、参画することは可能であると考えています。



4. 公共交通に関する問題点の整理

4-1. えびの市の公共交通に関する問題点

これまでに整理した、地域の現況や、各調査結果を踏まえ、えびの市の公共交通に関する問題点を以下に整理します。

問題点①：交通空白地の点在

自家用車を運転しない高齢者が、近くに公共交通の路線が無いために通院や買物の障害となっています(郊外部のみではなく、市街地周辺にも交通空白地が点在)。

問題点②：施設間の移動手段の不足

市街地部において、公共交通路線が面的に設定されておらず、目的地である病院や商業施設、JR 駅などの間の移動に支障をきたしています。

問題点③：歩行困難者等の移動手段の不足

足が不自由などの理由で、交通拠点までの移動が出来ない人は、路線バスやJRが利用しづらい状況にあります。

問題点④：高速バス停留所へのアクセス性の不足

遠方への移動時に、高速バスを利用しようとしても、停留所の駐車場が不足していることから自家用車でのアクセスがしづらい状況にあります。
また、高速バスとの時間が合わないことから路線バスでのアクセスも難しい状況にあります。

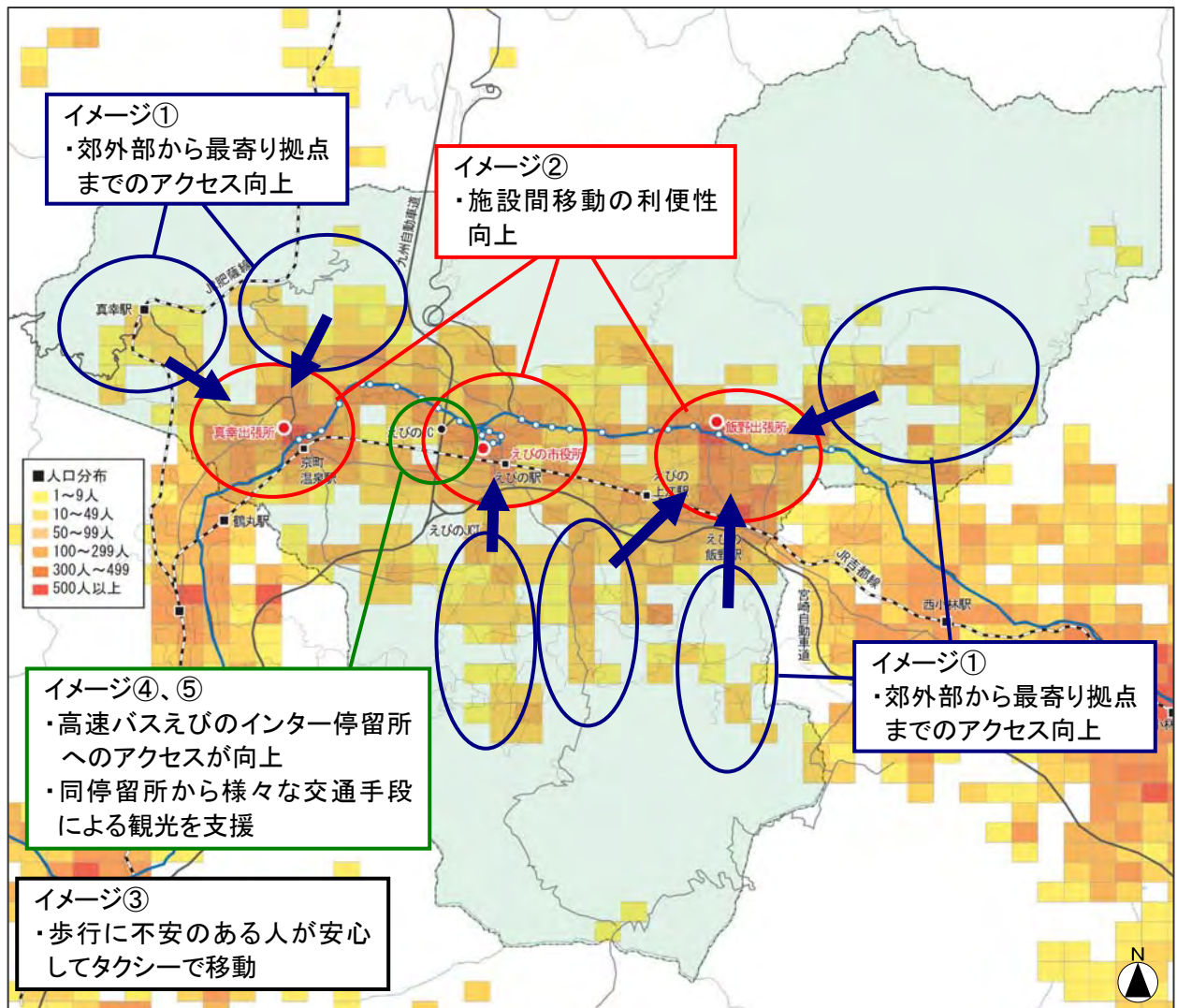
問題点⑤：高速バス停留所からの2次アクセスの不足

高速バスで市内に来た人の2次アクセス手段がタクシーしかなく、観光行動に適した公共交通手段が不足しています。

4-2. えびの市における望ましい公共交通体系のイメージ

抽出した問題点について、それぞれが解決された状況を、望ましい公共交通体系イメージとして以下に整理する。

- イメージ①** 交通空白地から最寄りの拠点(えびの飯野駅、えびの駅、京町温泉駅の周辺)まで便利な公共交通で移動することができる。
- イメージ②** 面的に分布する各施設間(駅~病院など)を自由に移動することができる。また、JRや路線バスで市外にも移動することができる。
- イメージ③** 歩行に自信が無い人などでも、安心してタクシーで移動することができる。
- イメージ④** えびのIC付近に十分な駐車スペースがあり、高速バスが利用しやすい。
- イメージ⑤** えびのICまで高速バスで来た観光客が、様々な交通手段で観光を楽しむことができる。



■望ましい公共交通体系のイメージ

5. 計画

整理した問題点を踏まえ、望ましい公共交通体系のイメージを実現するための計画について以下に記載します。

5－1. 計画の区域

本計画の区域は、えびの市全域とします。

5－2. 計画の期間

本計画は、平成 24 年度から平成 26 年度の 3 力年とします。

5-3. 計画の基本方針

(1) 交通空白地における移動の支援

①対象層

自家用車による移動が出来ない代表的な対象として、高校生以下の生徒および運転免許を持たない高齢者が挙げられます。

ただし、直線距離で中学校まで、極端に遠い地域は少なく、小学校も各地区に配置されていることから、中学生以下の生徒に対する行政の支援の必要性は低いものと考えられます。

※遠方の通学者に対しては対応が必要(現行のスクールタクシーなど)。

○提案する方針：対象層



- ・本計画において日常生活における移動の支援を行う場合は、**高齢者のうち、主要な移動目的となる通院・買物への対応を最優先**とします。
- ・飯野高校の存続に向け、通学利便性を向上させるために、高校生も対象として含めます(雨の日の通学手段等として)。

②公共交通体系の骨格

市の地勢や市民の移動の実態に合わせ、新たな公共交通体系における拠点や接続するネットワークなどの骨格についての方針を定めます。

○骨格検討上の条件

- ・郊外部には山間部となっている地域も多く、地域間を直接結ぶ移動は難しい。
- ・病院や商業施設などの主要施設は、概ね3つの拠点に集中しているが、各拠点を細かく見ると、施設は面的に点在しており、それぞれに独立したニーズがある。
- ・日常的な買物は最寄りの拠点付近への流動が多いが、通院は、最寄りの拠点に加えて他の拠点付近や小林市などの市外への流動も多い。

○提案する方針：公共交通体系の骨格



- ・郊外部から最寄りの拠点(えびの飯野駅、えびの駅、京町温泉駅の3駅付近)までの移動手段確保を最優先します。
- ・最寄り拠点内で点在する施設への移動ニーズには、可能な限り個別に対応します。
- ・市外への移動は、既存の路線バスおよびJRでの移動を基本とします。

(2) 市街地部におけるアクセス性の向上

①対象施設

市街地部における移動利便性を向上させるためには、目的地となる施設を明確化し、それらの施設へのアクセス手段の充実を図る必要があります。

○提案する方針：対象施設



- ・以下の施設を対象施設に設定します。
 - ◇高齢者の主な移動目的となる**主要な病院、商業施設および金融機関**。
 - ◇市役所や支所などの**行政施設**や、図書館や郵便局などの**公共性の高い施設**。
 - ◇公共交通による市外への移動の拠点となる、**宮崎交通(株)バス停およびJR 駅**。
 - ◇通学時の対応として**飯野高校**。
- ・また、最寄り拠点までの移動のみではなく、**拠点間の移動についても利便性向上を図ります**。

②導入エリア

えびの市における交通空白地は広範であり、財政上の問題等から、全ての地区に同時に対応することは困難です。

したがって、地域の特性を考慮しながら段階的な導入に向けた方針を定める必要があります。

○提案する方針：優先すべき導入エリア



- ・効率性の指標として**高齢者数 100 人以上かつ高齢化率 40%以上**、緊急性の指標として**高齢化率 50%以上**という 2 指標から導入優先度を評価します

○飯野地区：上大河平、下大河平

○加久藤地区：東長江浦下、東川北

○上江地区：末永、白鳥

○真幸地区：水流、南昌明寺、北昌明寺、西内豎、溝ノ口、南岡松、下浦、中浦

(参考) 行政区別の年齢別人口

■年齢別人口(行政区別)

地区	行政区	15歳未満	15～64歳	65歳以上	合計	高齢化率	順位	指標① 65歳以上100人 高齢化40%	指標② 高齢化率50%以上
飯野地区	堀浦区	21	181	112	314	35.7%	40		
	上大河平区	9	198	149	356	41.9%	18	○ 上大河平区	
	下大河平区	21	278	235	534	44.0%	11	○ 下大河平区	
	杉水流区	22	141	97	260	37.3%	33		
	五日市区	28	134	94	256	36.7%	36		
	東原田区	56	244	145	445	32.6%	50		
	麓区	218	714	320	1252	25.6%	61		
	駅前区	105	449	265	819	32.4%	51		
	中原田区	48	304	142	494	28.7%	57		
	上原田区	15	86	59	160	36.9%	35		
	南原田区	107	523	370	1000	37.0%	34		
	町区	118	487	155	760	20.4%	64		
	片馬場区	120	207	1	328	0.3%	66		
	坂元区	47	253	153	453	33.8%	48		
	高野区	11	43	21	75	28.0%	59		
	前田区	37	204	124	365	34.0%	47		
	芋畑区	12	101	82	195	42.1%	16		
	大明司区	44	274	192	510	37.6%	29		
	山内区	14	84	64	162	39.5%	22		
	加久藤地区	松原区	13	113	65	191	34.0%	45	
前松原区		31	136	61	228	26.8%	60		
麓区		218	714	320	1252	25.6%	61		
中島区		156	503	298	957	31.1%	53		
栗下区		51	236	154	441	34.9%	43		
東長江浦下区		4	47	78	129	60.5%	2		○ 東長江浦下区
東長江浦上区		6	51	38	95	40.0%	20		
尾八重野区		12	86	55	153	35.9%	38		
西長江浦下区		18	111	82	211	38.9%	26		
西長江浦上区		21	81	61	163	37.4%	31		
灰塚区		10	55	36	101	35.6%	41		
永山区		125	367	131	623	21.0%	63		
大溝原区		25	109	87	221	39.4%	25		
湯田区		18	114	87	219	39.7%	21		
西郷区		37	178	140	355	39.4%	24		
東川北区		18	117	125	260	48.1%	9	○ 東川北区	
榎田区		8	48	35	91	38.5%	27		
牧の原区	14	44	55	113	48.7%	7			
上江地区	池島区	14	116	67	197	34.0%	46		
	今西区	23	143	70	236	29.7%	56		
	西上江区	20	129	85	234	36.3%	37		
	中上江区	22	168	124	314	39.5%	23		
	上上江区	90	432	204	726	28.1%	58		
	田代区	23	157	95	275	34.5%	44		
	出水区	24	112	82	218	37.6%	30		
	末永区	25	105	100	230	43.5%	13	○ 末永区	
白鳥区	32	208	173	413	41.9%	17	○ 白鳥区		
真幸地区	水流区	36	170	156	362	43.1%	15	○ 水流区	
	南昌明寺区	14	113	131	258	50.8%	6	○ 南昌明寺区	○ 南昌明寺区
	北昌明寺区	5	25	40	70	57.1%	4		○ 北昌明寺区
	東内堅区	12	90	95	197	48.2%	8		
	中内堅区	10	85	51	146	34.9%	42		
	西内堅区	7	31	56	94	59.6%	3		○ 西内堅区
	溝ノ口区	0	23	36	59	61.0%	1		○ 溝ノ口区
	北岡松区	11	100	87	198	43.9%	12		
	南岡松区	21	206	189	416	45.4%	10	○ 南岡松区	
	亀沢区	17	88	46	151	30.5%	55		
	柳水流区	14	68	57	139	41.0%	19		
	京町区	198	649	372	1219	30.5%	54		
	上向江区	46	158	104	308	33.8%	49		
	下浦区	3	44	53	100	53.0%	5		○ 下浦区
	中浦区	17	152	128	297	43.1%	14	○ 中浦区	
	上浦区	51	212	122	385	31.7%	52		
	上島内区	8	94	61	163	37.4%	31		
下島内区	34	281	176	491	35.8%	39			
西川北区	40	186	140	366	38.3%	28			
合計		2,660	12,512	7,789	22,961	33.9%			

(3) 公共交通拠点までのアクセスが困難な人の移動手段確保

一般的に公共交通は、駅や停留所などの乗降場所を設けることから、停留所や駅まで自主的にアクセスした上で公共交通を利用する必要があります。

しかし、高齢で歩行に自信が無い人や、障害者などについては、交通拠点までの自主的な移動が困難であるため、別の手段を講じる必要があります。

○提案する方針：福祉面での移動手段確保



- ・徒歩による交通拠点へのアクセスが困難な人に対し、**停留所等の拠点に依らない移動手段**を確保します。

(4) 高速バス停留所へのアクセス手段確保

福岡県や鹿児島県へのアクセス手段として高速バスがあるが、より高速バスを使いやすくするためには、主要な乗り場であるえびのIC停留所までの、アクセスを強化する必要があります。

○提案する方針：高速バスへのアクセス強化



- ・えびのIC付近において、**パークアンドライド用の駐車スペース**を確保し、自家用車から高速バスへの乗り換えが可能な環境を整備します。
- ・また、路線バスの運行を見直すことで、**自家用車以外でのアクセス性の向上**を図ります。

(5) 観光に利用できる公共交通手段の導入

県外から高速バスでえびの市を来訪した場合、えびのIC停留所からの2次アクセス手段がないことから、えびの市の観光振興に向け、市内に広く点在する観光拠点(えびの高原、京町温泉など)を周遊する手段を導入する必要があります。

○提案する方針：観光交通手段



- ・高速バスえびのインター停留所から、**市内を観光できる2次アクセス手段の導入**を検討します。

5-4. 計画の目標

本計画は、公共交通の利便性向上を図ることで、市民を対象としたアンケートにおいて、「公共交通が利用しやすい」と回答する市民の割合を、現在の 12.5%から 20.0%に引き上げることを目標とします。

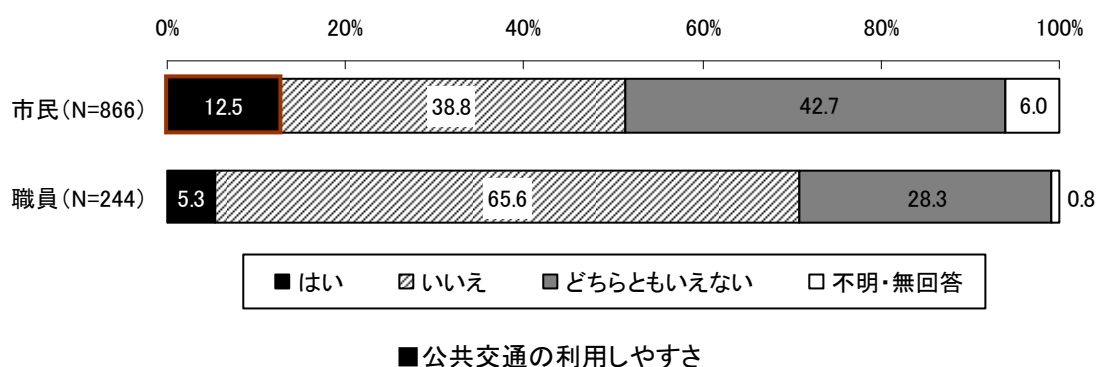
なお、本調査において実施したアンケートは、高齢者の割合を意識的に高めたものとなっていることから、より均等な属性から回答を得ている「第 5 次えびの市総合計画策定のためのアンケート調査」を基に目標値を設定します。

参考：第 5 次えびの市総合計画策定のためのアンケート調査 結果報告書(H23.3)より

[10] 現在の鉄道（JR）・路線バス（宮崎交通）は、利用しやすいですか。

【市民・職員／単数回答】

現在の鉄道・路線バスの利用しやすさについてみると、「いいえ」は市民が 38.8%、職員は 65.6%と、不便に感じている人が多い状況がうかがえます。



◇調査の概要

○調査地域：えびの市全域

○調査対象者：①市民…2,000人

→市内に在住している10歳以上の市民から無作為抽出

②職員…302人（市長・副市長・教育長は含まない）

→平成23年1月現在在職中の職員

○調査期間：平成23年1月

○調査方法：①市民…調査票による本人記入方式（本人が記入できない場合は家族）

→郵送配布・郵送回収

②職員…調査票による本人記入方式

→庁内各課へメール配布・各課による回収

5-5. 具体的な事業内容

(1) コミュニティバスの新規導入

方針「(1) 交通空白地における移動の支援」および「(2) 市街地におけるアクセス性の向上」に基づき、コミュニティバスとして交通空白地と最寄り拠点とを結ぶ「郊外バス」と市街地部の各施設および地域拠点間を結ぶ「循環バス」を導入します。

以下に、「郊外バス」および「循環バス」に関する概要を記載します。

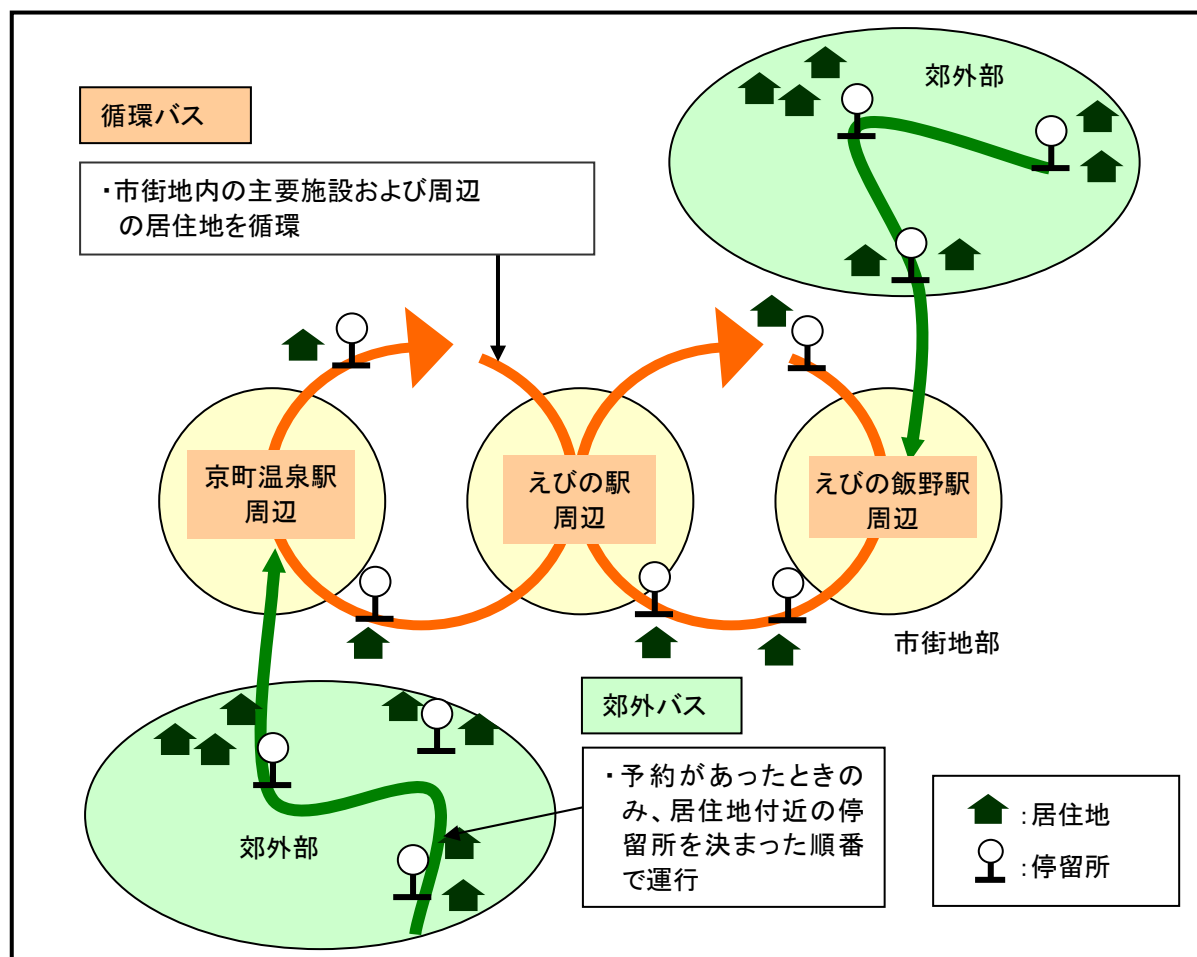
なお、新規路線の導入にあたっては、路線バスおよびJRの既存拠点に接続するものとし、可能な限りダイヤ調整等による乗継時の利便性向上を図ります。

①郊外バス

- ・郊外部に停留所を設置し、決まった時刻に決まったルートを実行しますが、所定の曜日において、利用者からの電話予約があった場合のみの運行となります(定時定路線デマンド運行)。
- ・郊外部から最寄り拠点(えびの飯野駅、えびの駅、京町温泉駅周辺)までの移動を基本とし、拠点周辺の主要な施設に停車します。

②循環バス

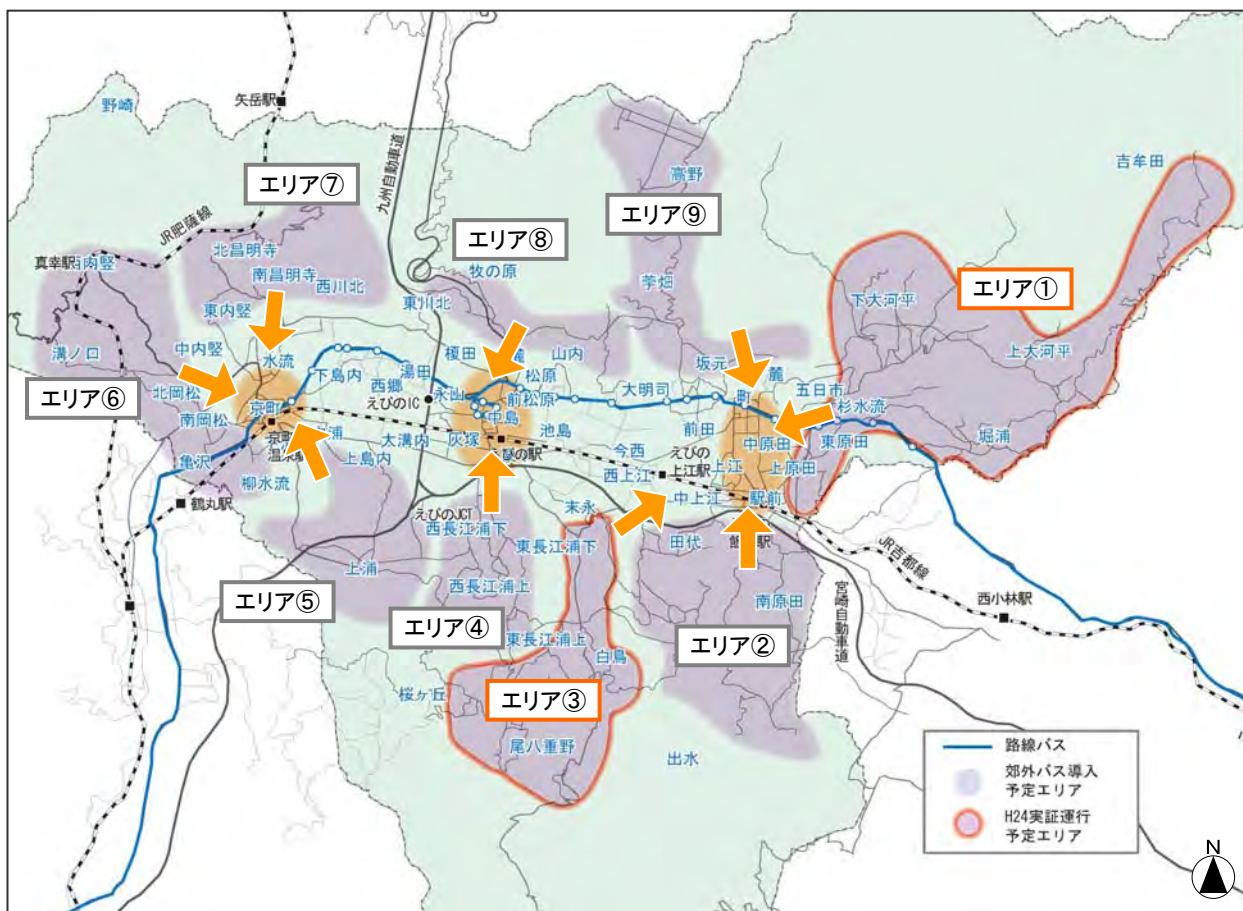
- ・市街地部の主要な施設や、集落に停留所を設置し、定時定路線で運行します。
- ・利用者の有無に関わらず、必ずダイヤに沿って運行します。
- ・ルートは、「飯野線(えびの飯野駅～えびの駅間)」および「京町線(えびの駅～京町温泉駅間)」の2種類を導入します。



■コミュニティバスの運行イメージ

◇郊外バスおよび循環バスの運行イメージ

- ・郊外バスの導入予定エリアは以下のエリア①～⑨で、郊外部から最寄り拠点までを接続します。
- ・郊外バスのうち、大河平周辺のエリア①および白鳥周辺のエリア③については、平成24年度に実証運行を行う予定です。
- ・循環バスについては、えびの飯野駅～えびの駅間の飯野線と、えびの駅～京町温泉駅間の京町線の2ルートを実行するものとし、アンケートより得られた需要の高い商業施設や医療機関の他、公共施設をそれぞれ接続します。



■ 郊外バスの導入予定エリア

■ 商業施設

地区名	施設名
飯野地区	タイヨーえびの店
	Aコープ飯野店
加久藤地区	Aコープかこう店
	松栄ストアえびの店 プラッセだいわえびの店
上江地区	タイヨーえびの店
	Aコープ飯野店
	Aコープかこう店 松栄ストアえびの店
真幸地区	プラッセだいわえびの店
	Aコープかこう店
	コスモスえびの店
	アタックスえびの店

■ 医療機関

地区名	施設名	地区名	施設名
飯野地区	えびの市立病院	上江地区	えびの市立病院
	若葉クリニック		えびの第一クリニック
	えびの第一クリニック		えびのセントロクリニック
	えびのセントロクリニック		若葉クリニック
			前田医院
加久藤地区	前田医院	真幸地区	京町共立病院
	えびの市立病院		えびの共立病院
	若葉クリニック		渡辺内科医院
	えびの整形外科医院		えびの市立病院
	京町共立病院		えびの整形外科医院
	えびの共立病院	若葉クリニック	
		京町温泉クリニック	

■ 利用の多い商業施設および医療機関(地区別)

(2) 福祉タクシー等の活用による移動手段の確保

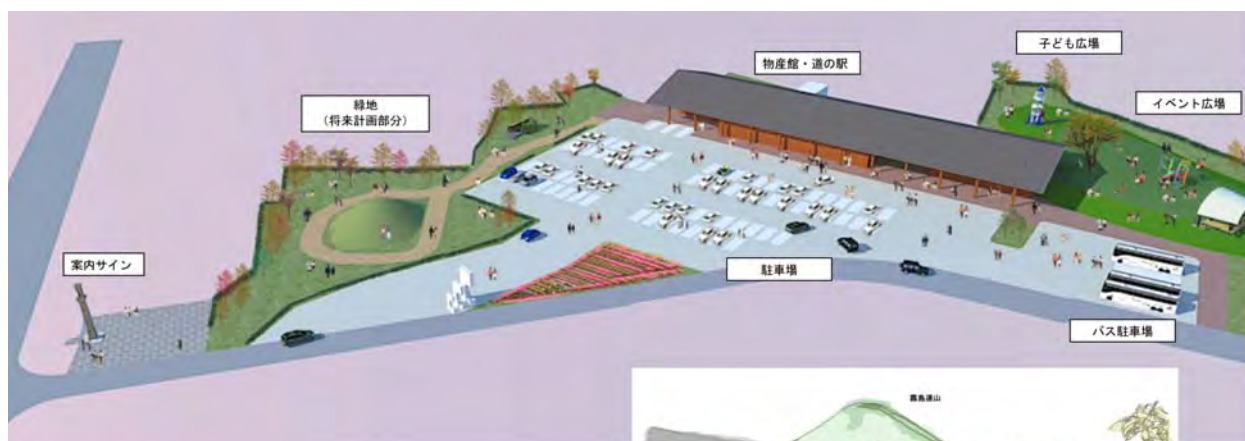
- ・徒歩による交通拠点へのアクセスが困難な人の移動手段確保に向け、アンケート調査結果を踏まえ、福祉タクシー等の制度の活用方策について、関係機関を含めて検討します。

(3) 高速バス停留所へのアクセス手段確保

- ・えびの IC 付近に整備が計画(平成 24 年度)されている物産館において、パークアンドライド用の駐車スペースを確保し、自家用車から高速バスへの乗り換えが可能な環境を整備します。
- ・また、物産館にバス交通の乗り入れを行い、自家用車以外でのアクセス性の向上を図ります。

(4) 観光に利用できる公共交通手段の導入

- ・平成 24 年度に整備が計画されている物産館を、えびの市観光の拠点とし、高速バスからの 2 次アクセス交通として、レンタカーやレンタサイクルなどの導入を検討します。



■ 物産館の計画位置図



■ 物産館のイメージパース

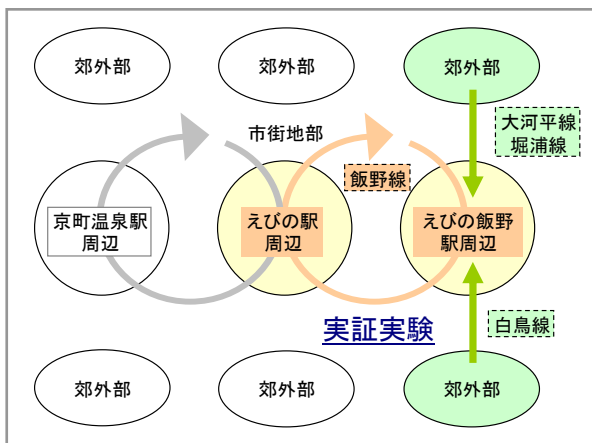
出典：えびの市物産館建設基本計画

5-6. 事業の実施関係者およびスケジュール

本計画の事業実施関係者およびスケジュールは以下の通りです。

事業	実施関係者	スケジュール					
		H24.4	H24.10	H25.4	H25.10	H26.4	H26.10
◇コミュニティバスの新規導入							
郊外バスの導入(先行)	えびの市(事務局) 路線バス・タクシー事業者 ※停留所の位置等については交通管理者および道路管理者との協議が必要	準備	実証検証	本格			
郊外バスの導入(全体)				準備	本格		
循環バスの導入(飯野線)		準備	実証検証	本格			
循環バスの導入(京町線)				準備	本格		
乗継時の運行ダイヤの調整等		えびの市(事務局)、路線バス・タクシー・鉄道事業者	準備	実施			
◇高速バス停留所へのアクセス手段確保							
物産館における駐車場等の整備	えびの市(事務局および観光関連部署)	準備(工事)		実施			
既存バス路線の調整	えびの市(事務局)、路線バス事業者	準備		実施			
◇観光に利用できる公共交通手段の導入							
2次アクセス手段の導入	えびの市(事務局および観光関連部署)	準備		実施			

◇ステップ① (H24.10~H24.12)



■コミュニティバス導入の流れ

◇ステップ① (H24.10~H24.12)

・循環バス飯野線および郊外バス大河平線・堀浦線・白鳥線のみを、実証実験として先行導入。

◇ステップ② (H25.1~H25.3)

・先行導入路線の実証実験結果を検証し、問題点を整理。

◇ステップ③ (H25.4~H25.9)

・ステップ②で整理した問題点に関する改善を行い、本格運行へ移行。

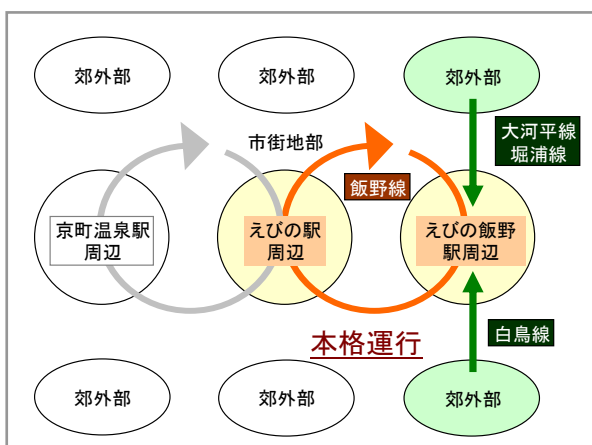
◇ステップ④ (H25.10~)

・循環バス京町線および、その他郊外バスの本格運行を開始し、コミュニティバスを全市に拡大。

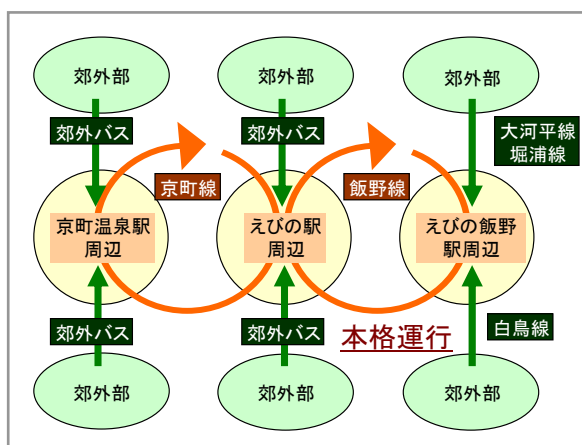
◇ステップ② (H25.1~H25.3)

実証実験結果の検証および問題点の整理

◇ステップ③ (H25.4~H25.9)



◇ステップ④ (H25.10~)



作成 えびの市地域公共交通確保維持協議会

本計画についてのお問い合わせは

えびの市地域公共交通確保維持協議会(事務局：えびの市企画課振興係)

〒889-4292 宮崎県えびの市大字栗下 1292 番地

T E L : (0984)35-1111 F A X : (0984)35-0401